

長岡京市

男女共同参画社会についての市民意識調査

報告書

平成27年3月

長岡京市

は じ め に

長岡京市では、すべての人が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、平成 22 年 10 月に「長岡京市男女共同参画推進条例」を施行しました。また、条例に基づき、平成 23 年度から 5 ヶ年を期間とする「長岡京市男女共同参画計画 第 5 次計画」を策定し、さまざまな分野の取り組みを、総合的に展開してきました。

現行の第 5 次計画の目標年度を平成 27 年度に迎えることから、市では現在、28 年度から始まる「長岡京市男女共同参画計画 第 6 次計画」の策定に取り組んでいます。新しい計画の策定にあたっては、これまでの計画の成果を踏まえながら、社会情勢に対応した内容になるよう見直していくことも必要です。その基礎資料とするため、この度、市民の皆様に男女共同参画に関する考えや実態などをお聞きする「市民意識調査」を実施しました。この報告書は、調査の結果をまとめたものです。

今回の調査から見えてきた本市の特性や、市民の皆様のニーズ、新しい課題につきましては、次期計画の策定や市の諸施策の実施に反映させてまいります。市民の皆様や、教育関係者、事業者の皆様にも、この報告書を男女共同参画に対する理解を深めるための基礎資料として、さまざまな場でご活用いただければ幸いです。

この調査にご協力いただきました皆様に、心からお礼申し上げます。

平成 27 年 3 月
長 岡 京 市

目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	2
2. 調査の方法.....	2
3. 回収状況.....	2
4. 報告書の見方.....	2
5. 標本誤差.....	3
6. 回答者の属性.....	3
II. 調査結果からみえるまとめ.....	9
III. 調査の結果.....	15
1. 仕事について.....	16
2. 子育てや暮らしなどについて.....	45
3. 人権の尊重について.....	70
4. 男女共同参画社会について.....	86
IV. 共同参画の今、そして未来 ～市民意識調査を読んで～.....	105
V. 自由意見のまとめ.....	109
1. 自由意見の要約.....	110
2. 主な自由意見.....	115
VI. 調査票.....	119

I．調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識と実態を知ることにより、「長岡京市男女共同参画計画 ～第 6 次計画～」の策定、ならびに市民と共に市が行う男女共同参画社会の形成に向けた施策を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象 市内在住の満 20 歳以上の男女
- (2) 標本数 2,000 人（女性 1,000 人、男性 1,000 人）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出（基準日：平成 26 年 8 月 1 日）
- (4) 調査方法 郵送による配布及び回収
- (5) 調査期間 平成 26 年 9 月 4 日から 9 月 20 日まで
- (6) 調査内容 ①回答者の属性 ②仕事について ③子育てや暮らしなどについて
④人権の尊重について ⑤男女共同参画社会について

3. 回収状況

標本数	回収数	無効数	有効回収数（率）			
2,000 (100.0%)	672 (33.6%)	2 (0.1%)	全体	女性	男性	不明 （「答えな い」を含む）
			672 (33.6%)	313 (31.3%)	354 (35.4%)	5

4. 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（％）を表している。1 人の対象者に 2 以上の回答を求める設問では、百分比（％）の合計は 100.0%を超える。
- (2) 百分比（％）は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（％）は、すべて各分類項目の該当対象数を 100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を 100.0%として表した。
- (5) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、および「その他」「不明（無回答）」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- (6) 表の単位は、2 段の場合、上段が実数、下段が構成比（％）、1 段の場合、構成比（％）である。
- (7) 表中の網かけは、注目すべき割合を示している。

5. 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

調査結果の信頼度 95%レベルにおける信頼区間を、主な%について求めたのが下記の表である。この表から、例えば本調査結果で 30%の女性が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が±5.1%であるから、100 回調査をすると 95 回まで 24.9%から 35.1%の間の答が得られるというようにみることができる(男性の場合は 25.3%から 34.7%)。

【標本誤差の 1/2 幅を求める公式】(信頼度 95%の場合)

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±5.5	±5.2
45%または55%	±5.5	±5.2
40%または60%	±5.4	±5.1
35%または65%	±5.3	±4.9
30%または70%	±5.1	±4.7
25%または75%	±4.8	±4.5
20%または80%	±4.4	±4.1
15%または85%	±3.9	±3.7
10%または90%	±3.3	±3.1
5%または95%	±2.4	±2.3

ただし

N = 母集団数 女性 : 33,754

男性 : 31,295

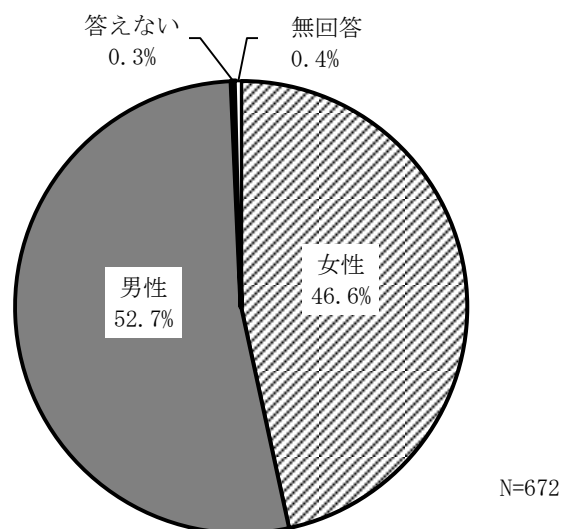
n = 標本数 女性 : 313

男性 : 354

P = 標本測定値 (回答率 : %)

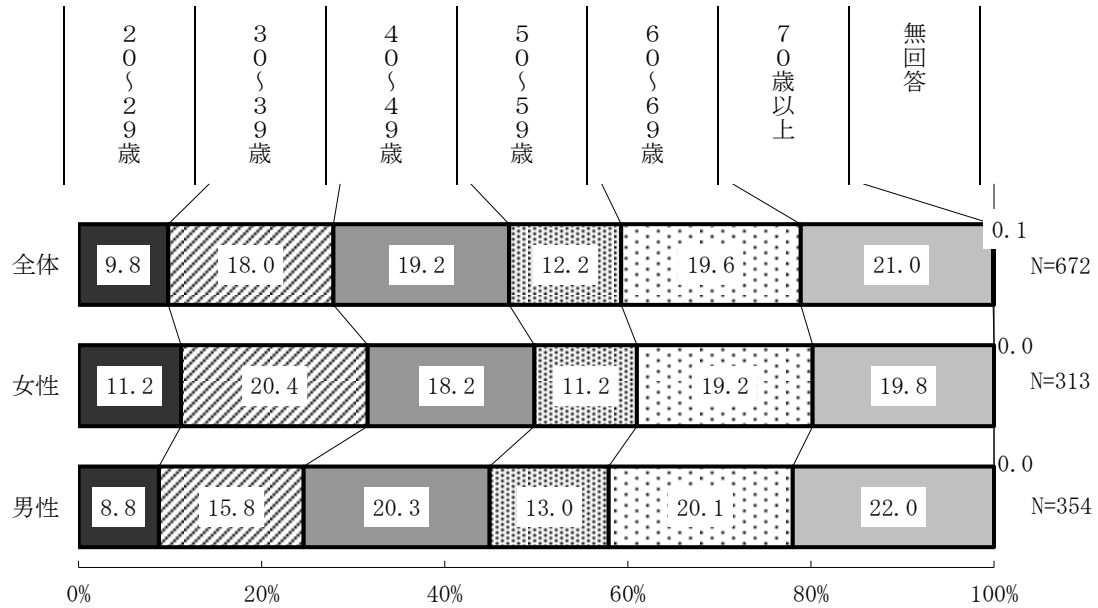
6. 回答者の属性

(1) 性別



「女性」は 46.6%、「男性」52.7%で、男性の方が女性より 6.1 ポイント高い。

(2) 年齢



女性では、「30～39歳」「60～69歳」「70歳以上」が約20%である。男性では、「70歳以上」が22.0%、次いで「40～49歳」「60～69歳」が約20%である。男女とも「20～29歳」と「50～59歳」は10%前後と他の年代より低くなっている。

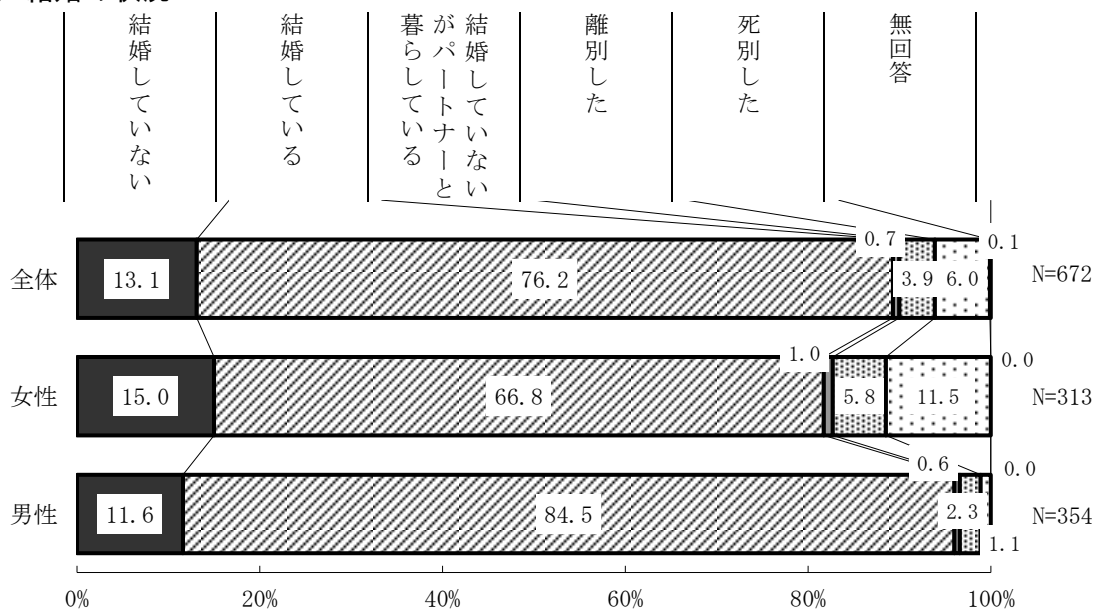
本市の母集団の人口構成比と比較すると、ほぼ同様の構成である。

母集団の性別・年代別人口構成比（平成26年8月1日現在）

(%)

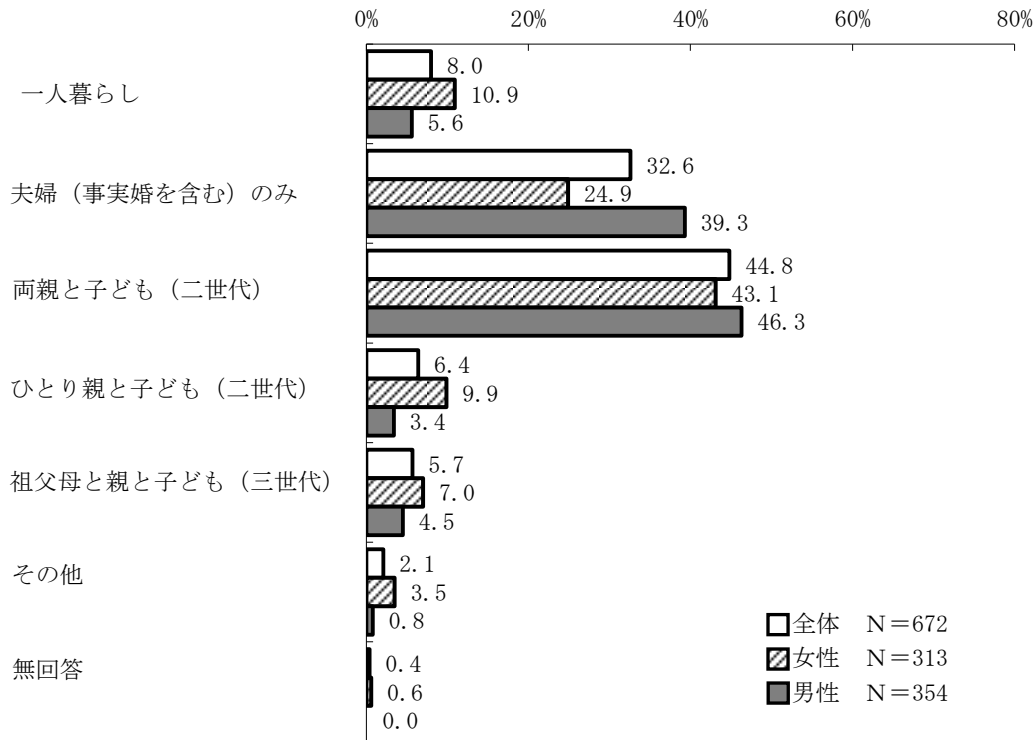
	全体(人)	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
女性	33,754	11.2	16.2	18.9	13.1	17.8	22.7
男性	31,295	12.5	17.5	20.7	13.7	16.4	19.2

(3) 結婚の状況



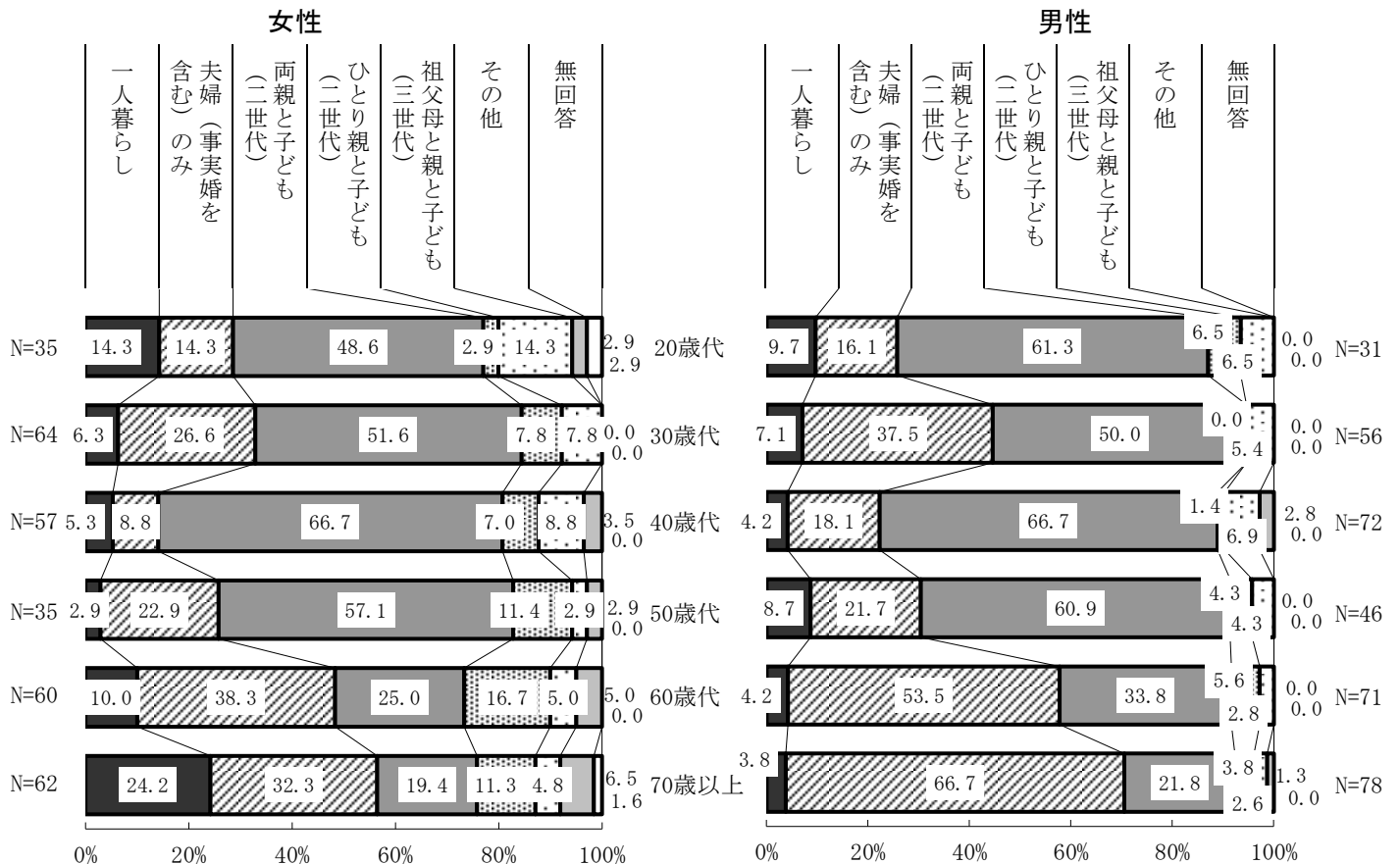
事実婚（＝「結婚していないがパートナーと暮らしている」）も含めて『結婚している』は、女性67.8%・男性85.1%である。

(4) 世帯状況

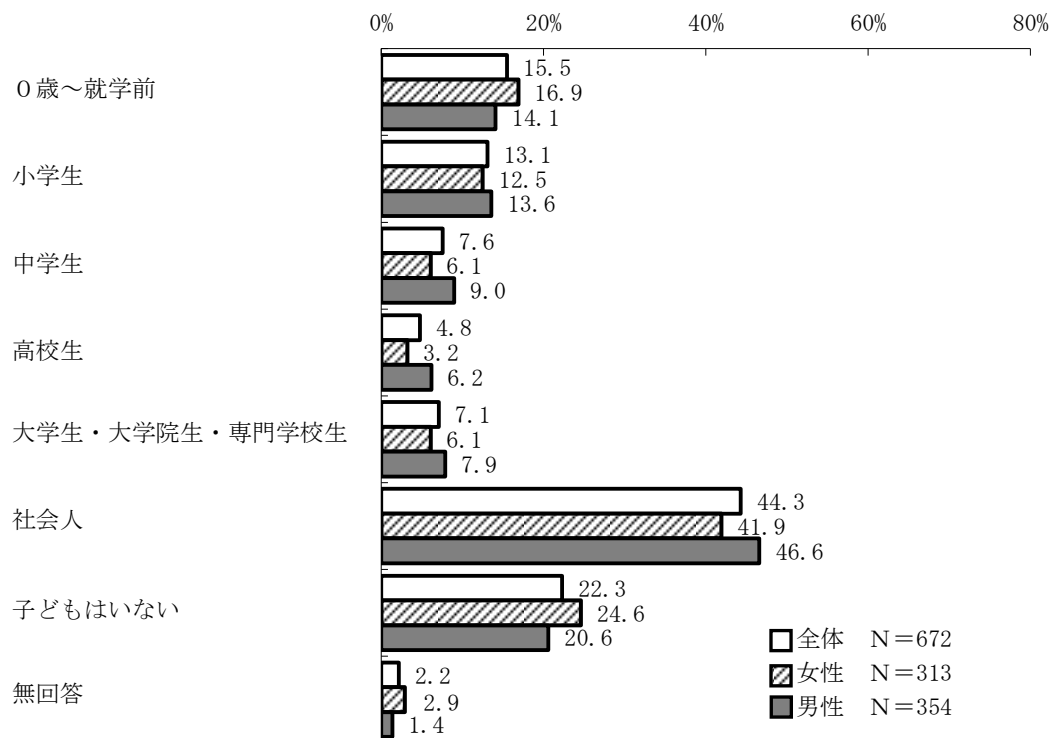


男女ともに「両親と子ども（二世帯）」「夫婦（事実婚を含む）のみ」が高い。
女性では、「一人暮らし」「ひとり親と子ども（二世帯）」が約10%を占めている。

【性別・年代別 世帯状況】



(5) 子どもの年齢



子どもの年齢は、男女ともに「社会人」が最も高く 40%を超えている。「0歳～就学前」「小学生」は 10%台、「子どもはいない」は 20%台である。

(6) 職業

(%)

	対象者数(人)	仕事をしている										仕事をしていない			無回答
		農林漁業者	商業・工業・サービス業などの自営業主	自由業(開業医、芸術家、宗教家、弁護士など)	左記3職業の家族従事者	会社・団体役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	派遣社員	内職・在宅就業	その他	専業主婦・専業主夫(収入を得る仕事をしていない)	学生(専門学校生、大学生など)	その他の無職(年金生活者、失業中など)	
全体	672	1.0	3.3	1.9	1.0	7.4	30.1	12.1	0.4	0.9	2.8	12.9	1.2	24.1	0.7
女性	313	1.0	1.3	0.6	2.2	3.8	18.8	19.2	0.3	1.6	2.9	27.2	0.6	19.5	1.0
男性	354	1.1	5.1	3.1	0.0	10.7	40.1	5.4	0.6	0.3	2.8	0.3	1.7	28.2	0.6

表 仕事の有無

(%)

	対象者数(人)	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全体	672	60.9	38.2	0.7
女性	313	51.7	47.3	1.0
男性	354	69.2	30.2	0.6

何らかの仕事をしている割合は、女性 51.7%・男性 69.2%である。「正社員・正職員」は、女性 18.8%・男性 40.1%、「パート・アルバイト」は女性 19.2%・男性 5.4%である。

「仕事をしていない」中で、「専業主婦」は 27.2%、「専業主夫」は 0.3%である。

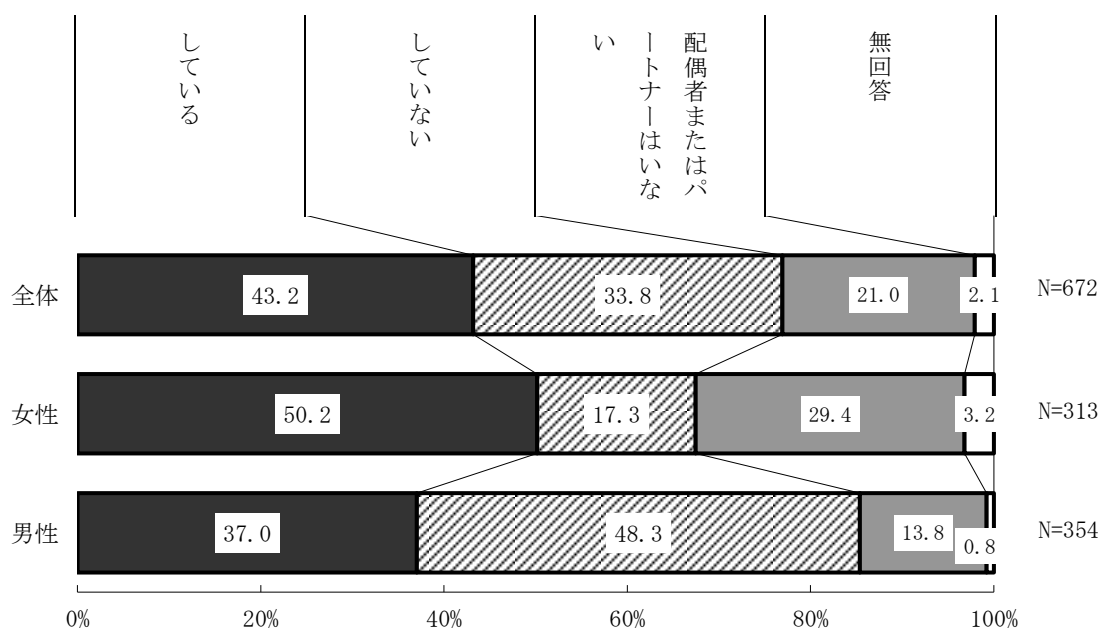
【性別・年代別 職業】

表 性別・年代別 職業

(%)

		対象者数(人)	自営・自由業				勤め人						無職・学生			
			農林漁業者	自営業主	商業・工業・サービス業などの	自由業(開業医、芸術家、宗教家、弁護士など)	左記3職業の家族従事者	会社・団体役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	派遣社員	内職・在宅就業	その他	得る仕事をしていない)	専業主婦・専業主夫(収入を	学生(専門学校生、大学生など)
女性	20 歳代	35	-	-	-	2.9	5.7	40.0	14.3	-	-	5.7	22.9	5.7	2.9	
	30 歳代	64	1.6	-	-	1.6	3.1	35.9	23.4	1.6	-	1.6	28.1	-	3.1	
	40 歳代	57	-	1.8	1.8	1.8	5.3	24.6	24.6	-	1.8	-	28.1	-	10.5	
	50 歳代	35	-	-	-	2.9	2.9	20.0	31.4	-	5.7	11.4	20.0	-	5.7	
	60 歳代	60	-	3.3	1.7	3.3	5.0	1.7	23.3	-	3.3	3.3	26.7	-	28.3	
	70 歳以上	62	3.2	1.6	-	1.6	1.6	-	1.6	-	-	-	32.3	-	53.2	
男性	20 歳代	31	-	-	-	-	6.5	54.8	6.5	-	-	3.2	-	19.4	9.7	
	30 歳代	56	1.8	3.6	1.8	-	12.5	71.4	1.8	3.6	-	1.8	-	-	-	
	40 歳代	72	-	2.8	6.9	-	15.3	70.8	1.4	-	-	1.4	-	-	1.4	
	50 歳代	46	-	8.7	4.3	-	17.4	56.5	2.2	-	-	4.3	-	-	6.5	
	60 歳代	71	1.4	9.9	1.4	-	9.9	9.9	16.9	-	1.4	5.6	1.4	-	42.3	
	70 歳以上	78	2.6	3.8	2.6	-	3.8	1.3	2.6	-	-	1.3	-	-	80.8	

(7) 配偶者の仕事の状況



配偶者が「仕事をしている」のは、女性 50.2%・男性 37.0%で、女性の方が 13.2 ポイント高い。

表 性別・年代別 配偶者の仕事の状況

(%)

		対象者数(人)	している	していない	配偶者またはパートナーはいない	無回答
女性	20 歳代	35	42.9	—	57.1	—
	30 歳代	64	71.9	—	28.1	—
	40 歳代	57	73.7	1.8	19.3	5.3
	50 歳代	35	77.1	8.6	11.4	2.9
	60 歳代	60	31.7	40.0	23.3	5.0
	70 歳以上	62	12.9	41.9	40.3	4.8
男性	20 歳代	31	22.6	12.9	58.1	6.5
	30 歳代	56	53.6	28.6	17.9	—
	40 歳代	72	52.8	34.7	12.5	—
	50 歳代	46	58.7	30.4	8.7	2.2
	60 歳代	71	29.6	64.8	5.6	—
	70 歳以上	78	10.3	84.6	5.1	—

女性では、30～50 歳代で配偶者が「仕事をしている」が 70%台と高い。
男性では、30～50 歳代で配偶者が「仕事をしている」が 50%台である。

Ⅱ．調査結果からみえるまとめ

1. 仕事について

①年収の男女格差は大きい（問 6、8）

「仕事をしている」割合は、女性の 51.7%、男性の 69.2%で、そのうち、女性では約 40%がパート・アルバイト、派遣社員、内職・在宅就業という「非正規雇用者」で、その割合は高い。

年収をみると、女性では「200 万円未満」の割合が 46.9%を占めるのに対して、男性では 200 万円以上でばらつきがみられ、男女の収入の格差が大きいことがうかがえる。

②仕事と家事・育児・介護等にあてる時間は男女で相当の開きがある（問 9）

女性では、「6 時間～10 時間未満」の範囲内で働く割合が高いものの、男性では「8 時間～12 時間未満」で働く割合が高く、「12 時間以上」働いている割合は 13.1%である。

平日の家事・育児・介護等の平均時間では、女性では、仕事をしていても「1 時間以上」が高いのに対して、男性では「ほとんどない」「30 分未満」で約 60%である。

「女性は仕事と家庭、男性は仕事」という実態が読み取れる。

③キャリア志向は男性に高い（問 10、問 13）

キャリアプランについての施策を考える際の基礎資料とすべく設計した設問である「働くことについての今後の方向性」では、女性は「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が約 50%で、「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」などのキャリアアップ志向割合*は、男性の 44.1%よりは低いものの、24.7%である。

「起業」については、女性の 6.1%、男性の 9.1%が「起業の準備を進めている」あるいは「いつか起業したいと思っている」と回答している。その際の不安については、「資金調達」や「経営知識の習得」の割合が高い。

*キャリアアップ志向割合とは、「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」「今の職場で、資格を取るなどして専門職として働きたい」「転職したい」「起業したい」の合計割合

④多岐にわたるワーク・ライフ・バランスを阻むもの（問 11、12、14）

男女がともに様々な分野で活躍するためには、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現が不可欠である。

しかし、本調査では、「職業によっては家庭との両立が無理なものがある」「仕事と家庭や子育て等を両立できる企業は少ない」「子どもを産み育てるために会社を一定期間休んだ後、職場に復帰することは難しい」と感じている割合は男女ともに高く（問 11）、男女ともにワーク・ライフ・バランスの理想と現実にはへだたりがあることがわかった。仕事も家庭生活なども両立したいと思いながら、現実には家庭生活あるいは仕事を優先する生活をしている（問 14）。

「育児休業制度」については、「0 歳～就学前」の子どもを持つ女性では 45.3%が「取ったことがある」ものの男性では 4.0%と低い。その理由としては、「職場に休める雰囲気がないから」と「自分の仕事には代わりの人がいないから」が 2 大理由である（問 12、12-1）。

⑤男女がともに働きやすい企業に求められる環境整備（問 15）

男女がいきいきと働ける職場をつくるために、企業に求められる要望は多岐にわたる。そして、女性の活躍推進は必須の課題であるにもかかわらず、現在の職場での男女格差や仕事と子育ての両立のしにくさを反映し、全ての項目において女性の割合が男性より高くなっている。

特に女性で高いのは、「結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」(62.3%)、「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」(61.0%)、「事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する」(51.1%)、「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」(50.2%)である。

2. 子育てや暮らしなどについて

①固定的な性別役割分担意識に基づいた子育ての考え方が根強い(問16、17、19)

男女平等・男女共同参画の意識を育み、男女の不平等意識を再生産させない教育・学習は重要な施策の一つである。

子どもたちが初めて接する社会である「家庭」が、男女平等意識にもとづいて男女共同参画がなされているのかを検証した結果が下記である。

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」では、男性は20歳代以外の年代で『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)割合が50%を超えている。一方、女性の30、40歳代という子育て世代ではその割合は30%台であり、男女で大きな開きがあることがわかる。

子どもに身につけさせたい能力では、「たくましさ」や「リーダーシップ」「職業能力」を女の子よりも男の子に求め、「家事能力」は男の子よりも女の子への期待が男女ともに高くなっている。

そこで、家庭における男女平等・男女共同参画を進めるための施策についてたずねたところ、「協力しあって家事などをする」の割合が男女ともに70%を超え、「『男はこう、女はこう』』というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」も50%を超えている。

②学校教育で男女平等を推進するために求めるものは「性別にかたよらない進路指導」(問18)

学校教育では、男女平等を推進するために「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」と「自分の心と体は大切なものであり、いじめや虐待に対して『ノー』を言う、誰かに相談するなど、小学校の低学年から自分を守る力を育む」「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、読み解いて使いこなす力をつける教育を進める」が男女ともに50%を超えている。

家庭で固定的な性別役割分担意識に基づいた教育やしつけをよしとする一方で、学校教育には男女平等を求めるという矛盾した結果となっている。

③男性は、介護は「介護施設で」が多い(問20)

超高齢社会にもかかわらず、家族が介護を必要とした場合の世話をする方法をたずねたところ、男女ともに「わからない」の割合が約25%を占めている。

また、「介護施設で」の割合が高く、特に男性で高くなっている。「自宅で、自分で」と「自宅で、ヘルパーなどに任せて」の割合は女性の方が高い。介護は女性が担うものという意識の表れとも推察できる。

近年男性の介護人口は増加傾向にある。その反映か、男性での「自宅で、自分で」の割合は、年代が高いほど高く、60歳代、70歳以上では20%前後で、その一方、「自宅で、ヘルパーなどに任せて」の割合は10%以下である。

④男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには事業主と行政のしくみ整備が必要（問21）

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するための方策としては、「労働時間の短縮や休暇制度の普及」や「事業主への啓発」と、仕事以外の活動に「参加しやすい方法や場づくり」「男性が家事などに参加することに対する評価を高める」といった、企業の変革と行政の支援の両方を求めているようだ。

⑤年代によって心身の健康保持のための施策への要望は異なる（問22）

全体としては、「リフレッシュできるような場を提供する」の要望が高い。

「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」「リフレッシュできるような場を提供する」は20、30歳代など若い世代で高く、「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる」は40歳代以降の年代で高い傾向である。

⑥「未婚」「晩婚」の理由は、「出会う機会」と「経済的な余裕」がないこと（問23）

「結婚の必要性を感じていない」や「独身の自由さや気楽さを失いたくない」といった自発的な理由以外で高いものは、「結婚相手と出会う機会がない」「経済的に余裕がない」の理由が大きく、経済的な理由は男性が高くなっている。

⑦災害時の避難で特に心配なことは男女ともに「的確な情報」「家族との連絡」「避難場所の安全」（問24）

長岡京市では、東南海・南海地震、有馬-高槻断層地震や風水害による災害に関する施策が進められている。

その施策に男女共同参画の視点を反映することが重要という視点から調査結果をまとめると、全体では男女での違いはほとんどなく、「災害についての的確な情報が得られるか」「家族との連絡がとれなくなるのではないか」「避難場所が安全か」の割合が高いものの、20～40歳代では、「家族との連絡がとれなくなるのではないか」や「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか」の割合が高い。日中は家族がバラバラになる働く世代であり、子育て世代であることが反映しているようだ。

⑧避難所では、性別に配慮した避難所の設営や備蓄に関すること、多様な人々の参画などが必要（問25）

全体でみると、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」の要望は約80%と高く、次いで、「性別に配慮した備蓄品」や「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」が約60%と高い。中でも、「0歳～就学前」の子どものいる男女で「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」の割合が高い。

3. 人権について

①セクシュアル・ハラスメントやストーカーの被害は女性に多く、どこでも発生している（問26）

「職場」「学校」「地域」「その他の場所」で何らかのセクシュアル・ハラスメントやストーカー行為の被害経験は少なくなく、女性に多くなっている。

女性の「職場」での被害の内容としては、年齢や身体的なことを話題にされる、宴会などでお酌

やデュエットを強要される、卑わいな言葉やわい談などの言葉による被害の割合が高くなっている。
「学校」でも、年齢や身体的なことを話題にする言葉による被害は男女ともに9%台である。
ストーカー行為について、女性で「その他の場所」において7%と他の場所より高い割合である。

②依然として人権侵害についての認識が低い（問27）

人権侵害とはどのようなことか、それを正しく理解することから人権侵害をなくす取組は始まる。
女性の人権が侵害されていると思うことをたずねた設問では、「ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）」と「セクシュアル・ハラスメント」の割合が高いものの男女ともに50%台にとどまっている。

「テレビ、雑誌、インターネットなどのわいせつな性情報の氾濫」「電車内などでのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けビデオやゲーム」「売買春（援助交際を含む）」については、10%台～20%台と低く、「電車内などでのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けビデオやゲーム」「売買春（援助交際を含む）」は特に男性で低い。

女性の20、30歳代では「テレビ、雑誌、インターネットなどのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けビデオやゲーム」の低さが目立つ。

③自身の人権侵害被害について女性の21.1%、男性の11.3%が「ある」と回答（問28）

人権侵害被害の経験は、女性では、40歳代が30%強と年代別では最も高く、20、30、50、60歳代では20%台である。男性では、20歳代で32.3%、30歳代で19.6%と、若い層で人権侵害被害の割合が高くなっている。

人権侵害被害の種類をみると、女性では、「『女』あるいは『男』だからという理由」と「子どもの頃の体験」の割合がそれぞれ35.0%。男性では、「子どもの頃の体験」が44.4%と高く、集中している。

また、どのような内容かについては、「『女』あるいは『男』だからという理由」では「就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ」と「悪口、かげ口など差別的な言動」、「子どもの頃の体験」では「悪口、かげ口など差別的な言動」と「学校でのいじめ」の割合が高くなっている。

④配偶者やパートナーからの暴力は、精神的な暴力被害の割合が高いものの、まんべんなく存在する（問29）

女性では、「精神的な暴力」が「何度もあった」と12.4%の人が回答している。また、「身体的な暴力」は4.1%、「経済的な暴力」「社会的な暴力」は3.0%が「何度もあった」としている。これを年代別にみると、年代に関係なく暴力被害があることがわかる。

男性でも「精神的な暴力」が「何度もあった」は7.3%で決して低くない。

4. 男女共同参画社会について

①男女平等を実感できない社会（問30）

社会のさまざまな分野でどの程度男女平等になっているかをたずねたところ、「平等になっている」が男女ともに50%を超えたのは「学校教育の場」のみであり、市民が男女平等を実感できる社会が形成されているとは言えない現状である。

平成21年度調査と比較すると、女性は「家庭生活では」「地域では」は「平等になっている」がそれぞれ11.8ポイント、7.8ポイント高くなっており、家庭への男性の参画、地域への女性の参画が背景となっていると言えるかもしれない。

男性は「法律や制度の上では」「政治・行政の場では」「学校教育の場では」「社会全般として」は「平等になっている」が低くなっている。男性が男女平等や男女共同参画に敏感な視点を持ちつつあることが反映していると推察できる。

国の調査と比較すると、男女とも「政治・行政の場では」は「平等になっている」が高いが、それ以外は差がないか、低くなっている。

②「男女共同参画社会」という言葉は浸透しつつある（問 31）

男女共同参画施策の浸透について、言葉の認知度から測ってみると、「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会」については70%以上に浸透しているものの、長岡京市男女共同参画推進条例や積極的改善措置（ポジティブ・アクション）やリプロダクティブ・ヘルス/ライツなどの施策の根幹をなす概念についての認知度は低い。

③根強い性別役割分担意識（問 32）

問 16 では、「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい」という考え方について、男女ともに80%以上が『そう思う』と回答している。しかし、問 32 の「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という、いわゆる固定的な性別役割分担意識についての設問では、男性では『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成の合計」）の割合が『反対』を上回っており、特に男性において固定的な性別役割分担意識の根強さが伺える。

また、平成21年度調査と比較すると『賛成』の割合は、男女ともに低くなっているものの、その分「わからない」の割合が増えていて、『反対』の割合はほとんど変化がない。

④「仕事と生活のバランスの実現」「女性に対する暴力への対応」「女性の健康保持に関する支援」施策は『前進』の割合が低い（問33）

5年間の施策の評価をたずねたところ、「男女平等の考え方」と「会社などでの女性管理職の数」については、男女ともに『前進』（「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計）が高く、男性では50%を超えている。しかし、「仕事と生活のバランスの実現」「市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応」「市の女性の健康保持に関する支援」では『前進』の割合は高くなく、「市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応」「市の女性の健康保持に関する支援」については、「わからない」が40%以上と高い。

Ⅲ. 調査の結果

1. 仕事について

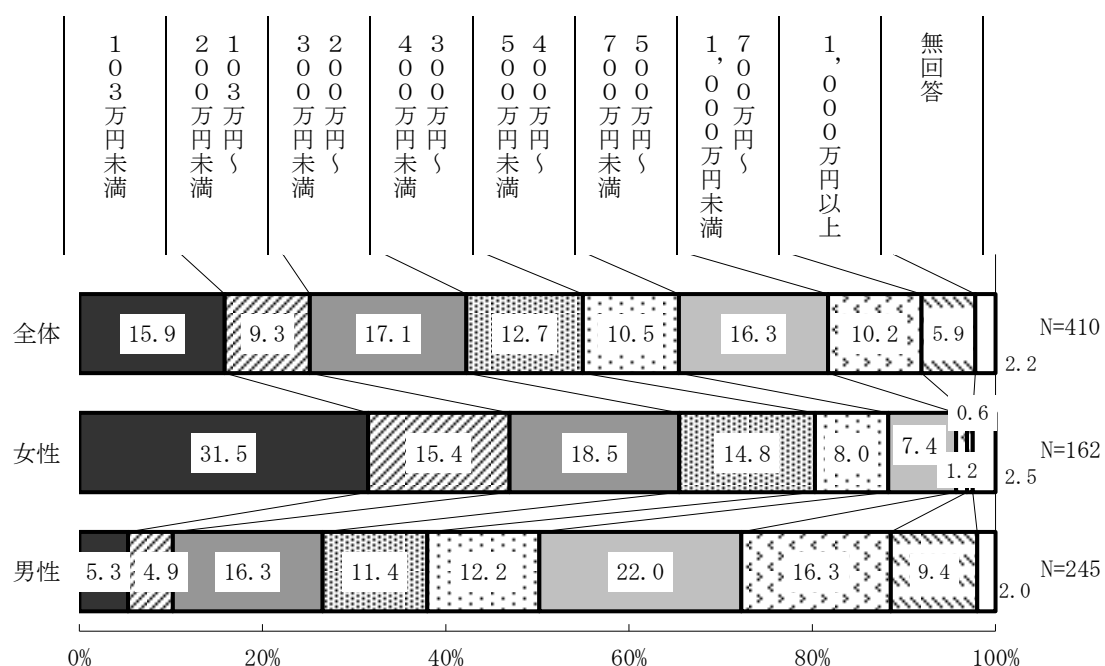
表 1-1 仕事の有無

	対象者数(人)	仕事をしている	仕事をしていない	(%)
全体	672	60.9	38.2	0.7
女性	313	51.7	47.3	1.0
男性	354	69.2	30.2	0.6

問 6 で①自営・自由業 ②お勤めのいずれかに○をされた「仕事をしている」方におたずねします。

問 8 あなたの昨年 1 年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は 1 つ）

図 1-1 昨年 1 年間の収入（税込み）



■女性の年収は3人に1人が103万円未満

女性では 51.7%が、男性では 69.2%が何らかの仕事をしている。

女性では、「103 万円未満」が最も高く 31.5%で、『200 万円未満』が 46.9%を占めている。

男性では、「500 万円～700 万円未満」が最も高く 22.0%、次いで、「200 万円～300 万円未満」と「700 万円～1,000 万円未満」が同率で 16.3%である。

【性別・年代別】

表 1-2 性別・年代別 昨年 1 年間の収入（税込み）

(%)

		対象者数 (人)	103 万円未 満	200 3万円 未満	300 0万円 未満	400 0万円 未満	500 0万円 未満	700 0万円 未満	1,000 0万円 未満	1,000 0万円 以上	無回 答
女性	20 歳代	24	16.7	29.2	29.2	12.5	8.3	-	-	-	4.2
	30 歳代	44	31.8	9.1	18.2	22.7	6.8	9.1	-	-	2.3
	40 歳代	35	37.1	14.3	11.4	8.6	11.4	14.3	-	-	2.9
	50 歳代	26	26.9	19.2	15.4	15.4	7.7	7.7	3.8	3.8	-
	60 歳代	27	44.4	14.8	18.5	11.1	7.4	-	3.7	-	-
	70 歳以上	6	16.7	-	33.3	16.7	-	16.7	-	-	16.7
男性	20 歳代	22	4.5	9.1	22.7	27.3	9.1	18.2	-	-	9.1
	30 歳代	55	3.6	3.6	18.2	14.5	14.5	40.0	1.8	-	3.6
	40 歳代	71	1.4	1.4	7.0	11.3	12.7	21.1	26.8	16.9	1.4
	50 歳代	43	-	-	11.6	2.3	9.3	23.3	32.6	20.9	-
	60 歳代	40	15.0	15.0	32.5	7.5	10.0	7.5	12.5	-	-
	70 歳以上	14	21.4	7.1	14.3	14.3	21.4	-	7.1	14.3	-

年収を年代別でみると、男女で分布に違いがみえる。

女性では、20 歳代で「103 万円～200 万円未満」「200 万円～300 万円未満」が高く各 29.2%である。30～60 歳代では「103 万円未満」が最も高いものの、50 歳代では年収のばらつきが大きい。

男性では、20 歳代で「300 万円～400 万円未満」が最も高く、30 歳代で「500 万円～700 万円未満」、40、50 歳代で「700 万円～1,000 万円未満」が最も高い。

問9 直近1ヶ月で、1日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や、家事・育児・介護等をしている平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。（〇はそれぞれ1つずつ）

（1）仕事（在宅就労を含む） ※通勤時間を含めた時間でお答えください。

図1-2 1日の仕事の平均時間（平日）

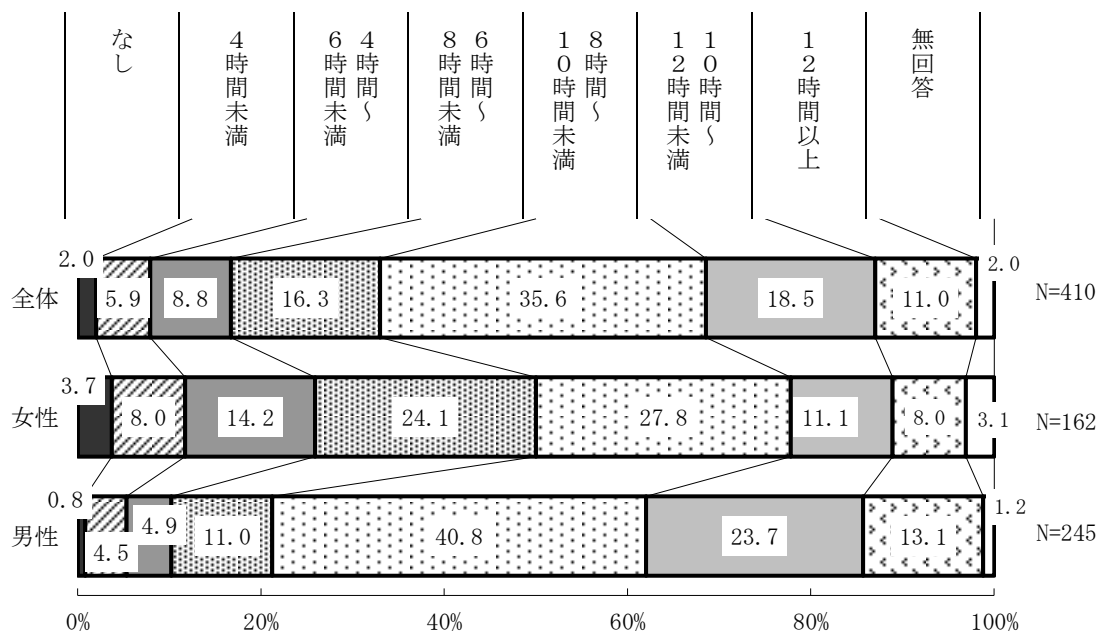
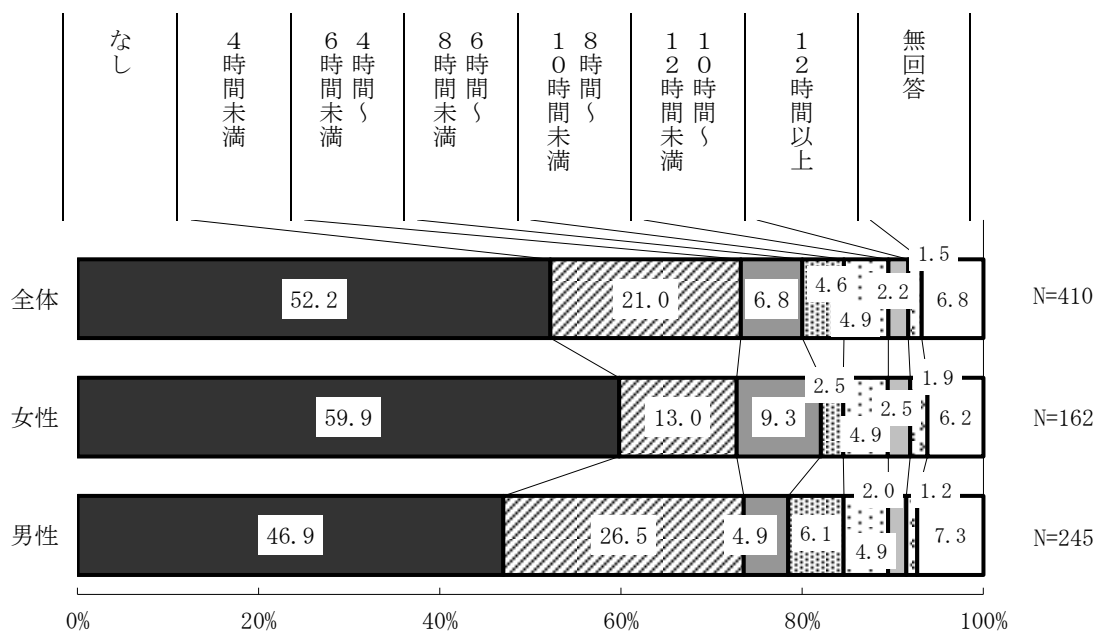


図1-3 1日の仕事の平均時間（休日）



■平日、女性は8時間未満が50%、男性は8時間以上が約80%

平日の場合は、女性では、「8時間～10時間未満」が最も高いものの27.8%で、男性より13ポイント低い。次いで、「6時間～8時間未満」が24.1%、「4時間～6時間未満」が14.2%で、『8時間未満』が50.0%を占めている。その一方で、『10時間以上』は19.1%となっている。

男性では、「8時間～10時間未満」が最も高く40.8%で、次いで、「10時間～12時間未満」が23.7%、

「12 時間以上」は 13.1%である。

休日の場合は、女性では、「なし」が最も高く 59.9%、次いで、「4 時間未満」が 13.0%、「4 時間～6 時間未満」が 9.3%である。男性では、「なし」が最も高く 46.9%、次いで、「4 時間未満」が 26.5%である。

【性別・年代別】

表 1-3 性別・年代別 1 日の仕事の平均時間（平日）

(%)

		対象者数 (人)	なし	4 時間 未満	6 4 時間 時間 未満	8 6 時間 時間 未満	1 8 時間 0 時間 未満	1 1 2 0 時間 時間 未満	1 2 時間 以上	無回答
女性	20 歳代	24	12.5	－	8.3	20.8	37.5	12.5	8.3	－
	30 歳代	44	4.5	6.8	13.6	25.0	29.5	11.4	6.8	2.3
	40 歳代	35	2.9	2.9	14.3	14.3	42.9	8.6	11.4	2.9
	50 歳代	26	－	7.7	15.4	30.8	11.5	15.4	11.5	7.7
	60 歳代	27	－	18.5	18.5	33.3	14.8	11.1	3.7	－
	70 歳以上	6	－	33.3	16.7	16.7	16.7	－	－	16.7
男性	20 歳代	22	－	4.5	4.5	9.1	50.0	18.2	13.6	－
	30 歳代	55	－	－	1.8	5.5	40.0	29.1	20.0	3.6
	40 歳代	71	1.4	2.8	1.4	5.6	32.4	35.2	19.7	1.4
	50 歳代	43	2.3	－	－	16.3	53.5	23.3	4.7	－
	60 歳代	40	－	12.5	7.5	25.0	45.0	5.0	5.0	－
	70 歳以上	14	－	21.4	42.9	7.1	21.4	7.1	－	－

年代別でみると、女性では、20～40 歳代で「8 時間～10 時間未満」が最も高く、50、60 歳代では「6 時間～8 時間未満」が最も高い。

男性では、40 歳代で「10 時間～12 時間未満」が 35.2%で、年代層の中で最も高い。30、40 歳代では『10 時間以上』が 49.1%、54.9%と約半数を占めている。

【性別・職業別】

表 1-4 性別・職業別 1日の仕事の平均時間（平日）

(%)

		対象者数 (人)	なし	4時間未満	6 4時間 時間未満	8 6時間 時間未満	1 8時間 0 時間未満	1 10時間 2 0 時間未満	1 2時間以上	無回答
女性	正社員・正職員	59	6.8	-	-	20.3	44.1	15.3	13.6	-
	パート・アルバイト、派遣	61	1.6	9.8	23.0	36.1	11.5	4.9	6.6	6.6
	農林漁業者・自営業主	7	-	28.6	42.9	28.6	-	-	-	-
男性	正社員・正職員	142	-	0.7	1.4	8.5	43.0	31.7	14.1	0.7
	パート・アルバイト、派遣	21	-	23.8	19.0	19.0	28.6	4.8	4.8	-
	農林漁業者・自営業主	22	-	13.6	9.1	13.6	27.3	13.6	13.6	9.1

職業別でみると、女性では、「正社員・正職員」では「8時間～10時間未満」が最も高く 44.1%、『10時間以上』は 28.9%である。

「パート・アルバイト、派遣」では「6時間～8時間未満」が最も高く 36.1%である。

「農林漁業者・自営業主」では「4時間～6時間未満」が最も高く 42.9%である。

男性では、職業にかかわらず「8時間～10時間未満」が最も高い。

「正社員・正職員」では、その割合は 43.0%であり、次いで、「10時間～12時間未満」が 31.7%、「12時間以上」14.1%と、『10時間以上』の割合は 45.8%を占めている。

「パート・アルバイト、派遣」では「8時間～10時間未満」「4時間未満」が 20%台で高く、「農林漁業者・自営業主」では「8時間～10時間未満」が最も高く 27.3%である。

(2) 家事・育児・介護等

図 1-4 1日の家事・育児・介護等の平均時間（平日）

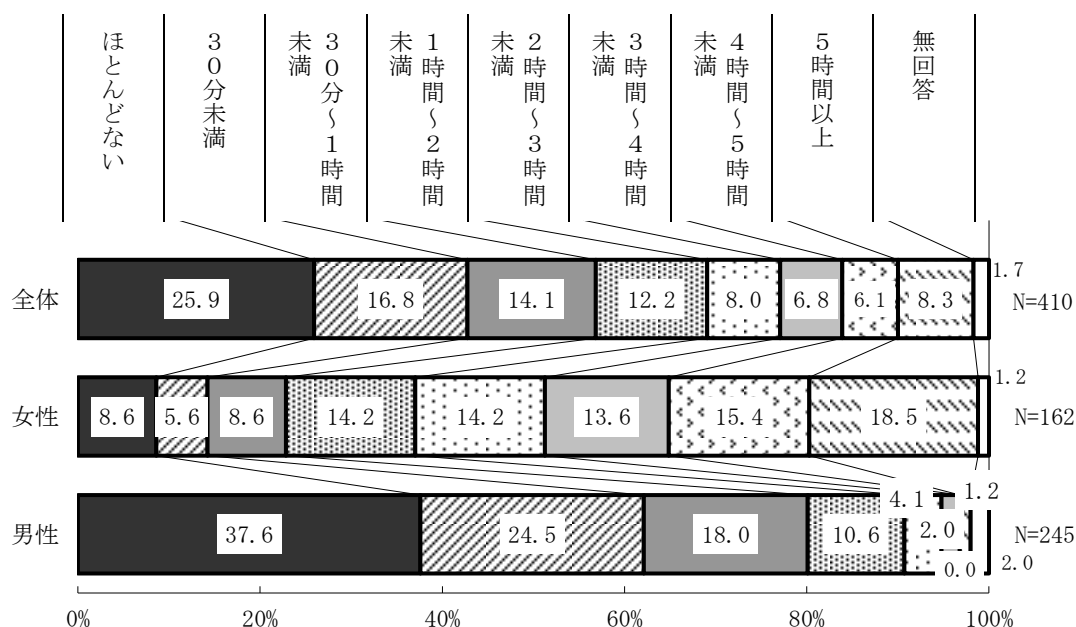
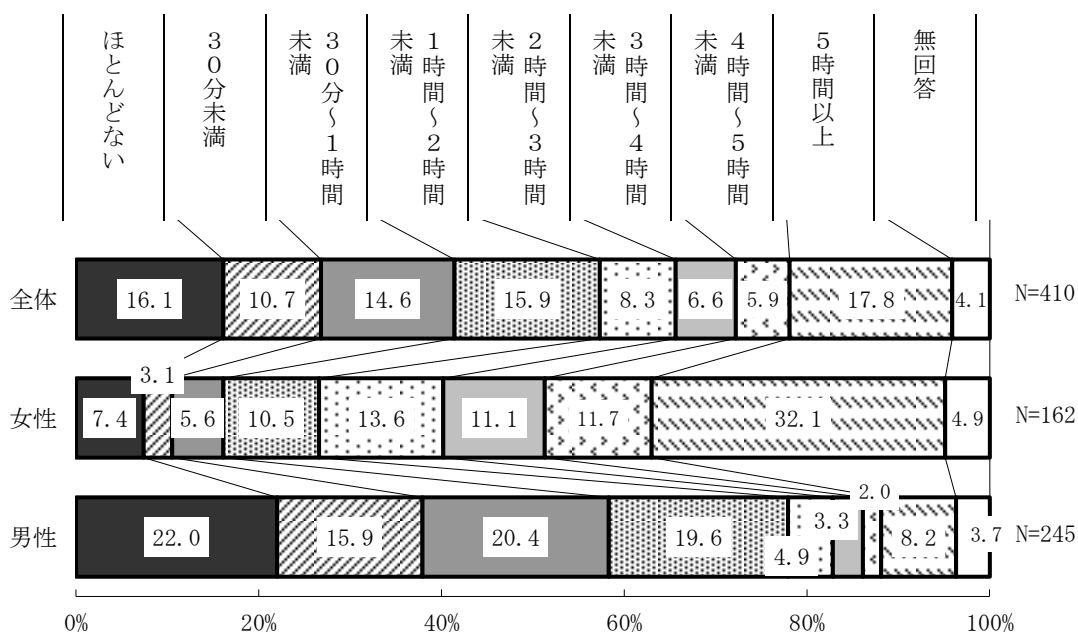


図 1-5 1日の家事・育児・介護等の平均時間（休日）



■平日、休日とも、女性は「5時間以上」、男性は「ほとんどない」が最も高い

平日の場合は、女性では、「5時間以上」が最も高く 18.5%、以下、「4時間～5時間未満」から「1時間～2時間未満」まで各 15%前後である。

男性では、「ほとんどない」が最も高く 37.6%である。「30分未満」は 24.5%で、それらを合わせると 60%を超える。

休日の場合は、女性では、「5時間以上」が最も高く、32.1%である。次いで「2～3時間未満」が13.6%、「4～5時間未満」が11.7%、「1～2時間未満」が10.5%である。

男性では、「ほとんどない」が最も高く22.0%で、平日よりも15.6ポイント低い。次いで、「30分～1時間未満」が20.4%、「1時間～2時間未満」が19.6%であり、平日よりも時間数は増えている。

【性別・年代別】

表 1-5 性別・年代別 1日の家事・育児・介護等の平均時間（平日）

(%)

		対象者数 (人)	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
女性	20歳代	24	29.2	16.7	8.3	16.7	-	4.2	8.3	16.7	-
	30歳代	44	6.8	2.3	11.4	15.9	11.4	11.4	18.2	22.7	-
	40歳代	35	2.9	2.9	5.7	11.4	17.1	14.3	25.7	20.0	-
	50歳代	26	3.8	11.5	-	11.5	23.1	19.2	15.4	15.4	-
	60歳代	27	3.7	-	11.1	18.5	22.2	22.2	3.7	14.8	3.7
	70歳以上	6	16.7	-	33.3	-	-	-	16.7	16.7	16.7
男性	20歳代	22	31.8	18.2	22.7	18.2	4.5	-	-	4.5	-
	30歳代	55	25.5	30.9	18.2	18.2	7.3	-	-	-	-
	40歳代	71	35.2	29.6	12.7	8.5	4.2	5.6	-	2.8	1.4
	50歳代	43	53.5	16.3	20.9	4.7	2.3	-	-	-	2.3
	60歳代	40	42.5	20.0	22.5	7.5	-	2.5	-	-	5.0
	70歳以上	14	42.9	21.4	14.3	7.1	7.1	-	-	-	7.1

年代別でみると、女性では、20歳代で「ほとんどない」が他の年代より高く29.2%である。30歳代と40歳代では「5時間以上」と「4時間～5時間未満」が各20%前後、50歳代と60歳代では「2時間～3時間未満」と「3時間～4時間未満」が各20%前後と、他の年代より高くなっている。

男性では、30歳代で「30分未満」が高く30.9%だが、それ以外の年代では「ほとんどない」が高い。50歳代では53.5%で最も高く、60歳代、70歳以上でも40%を超えている。

【性別・職業別】

表 1-6 性別・職業別 1日の家事・育児・介護等の平均時間（平日）

(%)

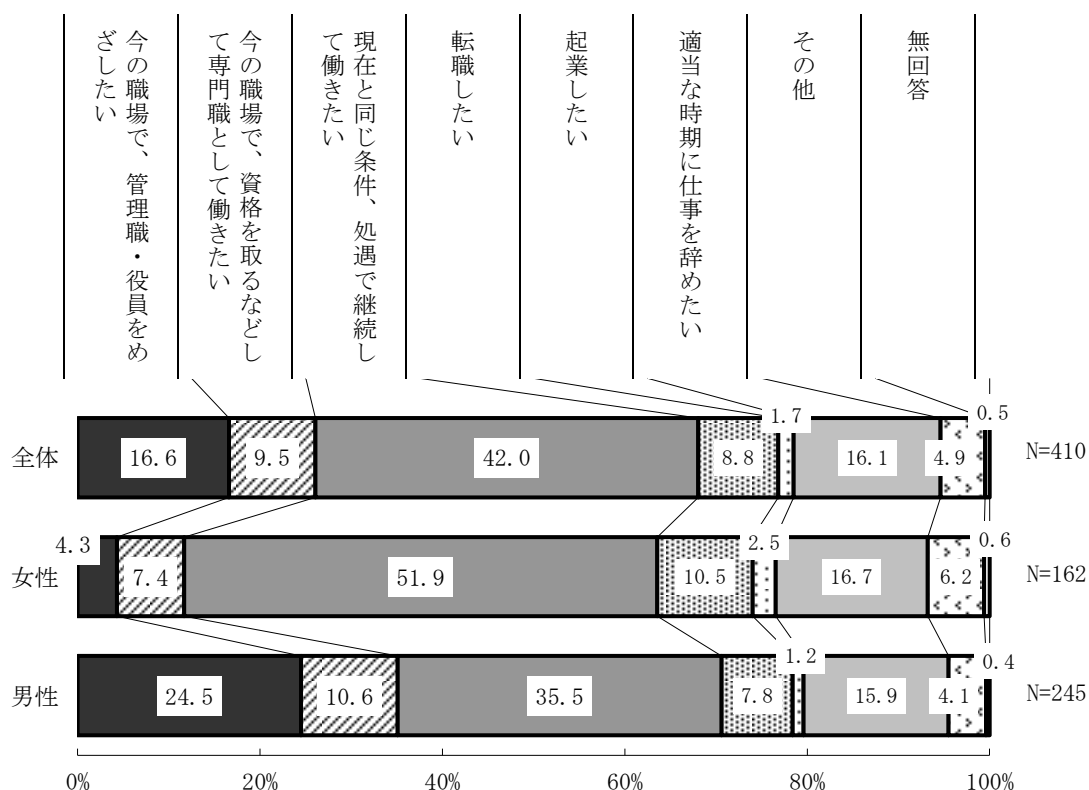
		対象者数（人）	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
女性	正社員・正職員	59	10.2	8.5	5.1	16.9	11.9	10.2	18.6	16.9	1.7
	パート・アルバイト、派遣	61	6.6	－	6.6	14.8	18.0	19.7	14.8	19.7	－
	農林漁業者・自営業主	7	－	－	42.9	14.3	－	－	－	42.9	－
男性	正社員・正職員	142	33.8	28.9	18.3	10.6	4.9	1.4	－	0.7	1.4
	パート・アルバイト、派遣	21	38.1	19.0	14.3	14.3	－	－	－	4.8	9.5
	農林漁業者・自営業主	22	31.8	13.6	27.3	9.1	9.1	9.1	－	－	－

職業別でみると、女性では、「正社員・正職員」で「4時間～5時間未満」が最も高く 18.6%である。「パート・アルバイト、派遣」では「5時間以上」と「3時間～4時間未満」が高く、各 19.7%である。「農林漁業者・自営業主」では「30分～1時間未満」と「5時間以上」が高く、各 42.9%である。

男性では、職業にかかわらず「ほとんどない」が最も高く 30%台である。

問 10 働くことについて、あなたは今後どうしたいと考えていますか。（○は1つ）

図 1-6 働くことについて



■管理職・役員をめざしたい女性は5%以下

女性では、「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が抜きん出て高く51.9%である。次いで、「適当な時期に仕事を辞めたい」が16.7%、「転職したい」が10.5%で続く。「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」は4.3%、「今の職場で、資格を取るなどして専門職として働きたい」は7.4%である。

男性では、「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が最も高く35.5%で、次いで、「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」が24.5%、「適当な時期に仕事を辞めたい」が15.9%と続く。

男女で比較すると、「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」では女性が16.4ポイント高く、「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」と「今の職場で、資格を取るなどして専門職として働きたい」の合計では男性の方が23.4ポイント高い。

【性別・年代別】

表 1-7 性別・年代別 働くことについて

(%)

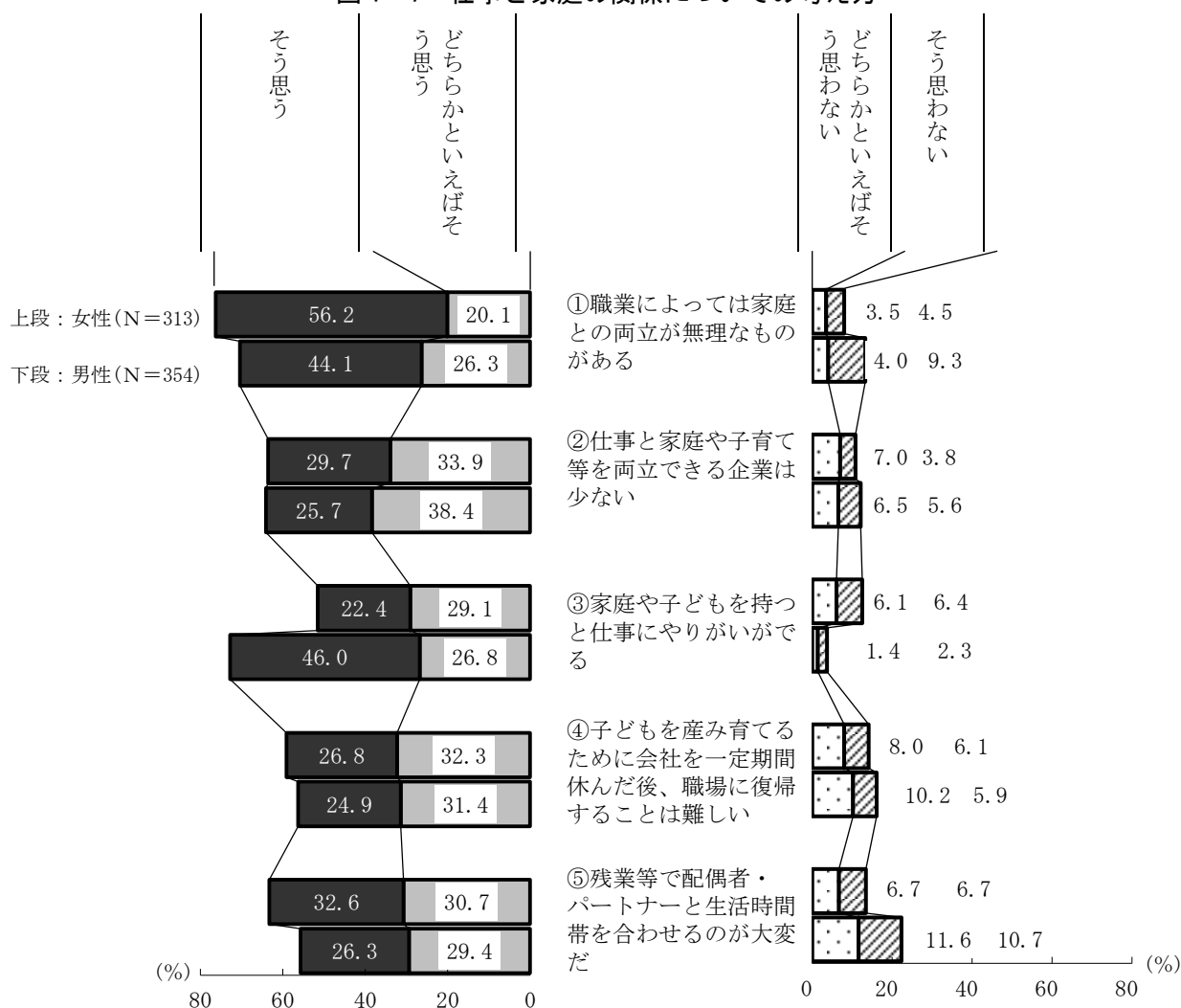
		対象者数 (人)	今の職場で、管理職・役 員をめざしたい	今の職場で、資格を取る などして専門職として 働きたい	現在と同じ条件、処遇で 継続して働きたい	転職したい	起業したい	適当な時期に仕事を辞 めたい	その他	無回答
女性	20 歳代	24	8.3	12.5	33.3	29.2	-	12.5	4.2	-
	30 歳代	44	-	11.4	45.5	13.6	2.3	13.6	13.6	-
	40 歳代	35	11.4	8.6	51.4	8.6	5.7	11.4	2.9	-
	50 歳代	26	3.8	3.8	69.2	3.8	3.8	11.5	3.8	-
	60 歳代	27	-	-	66.7	-	-	29.6	3.7	-
	70 歳以上	6	-	-	33.3	-	-	50.0	-	16.7
男性	20 歳代	22	68.2	-	4.5	13.6	4.5	9.1	-	-
	30 歳代	55	32.7	16.4	23.6	20.0	-	5.5	1.8	-
	40 歳代	71	31.0	16.9	38.0	5.6	2.8	1.4	4.2	-
	50 歳代	43	11.6	7.0	55.8	-	-	20.9	2.3	2.3
	60 歳代	40	-	5.0	50.0	2.5	-	40.0	2.5	-
	70 歳以上	14	-	-	14.3	-	-	57.1	28.6	-

年代別でみると、女性では、20 歳代で「転職したい」が他の年代よりも高く 29.2%である。40 歳代では「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」が 11.4%で他の年代より高い。50、60 歳代では「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が 65%を超え、50 歳代までは年代が高いほど高くなっている。

男性では、20 歳代で「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」が最も高く 68.2%にのぼる。30 歳代でも「今の職場で、管理職・役員をめざしたい」が最も高いものの 32.7%で、次いで、「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が 23.6%で続く。50、60 歳代では「現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい」が最も高く、それぞれ 50%を超えている。

問 11 あなたは、仕事と家庭との関係についてどう思いますか。①～⑤のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。（○は①～⑤のそれぞれで1つ）

図 1-7 仕事と家庭の関係についての考え方



※「どちらともいえない」「無回答」は省略

■すべての項目で半数以上が『思う』と回答

男女ともすべての項目で半数以上が『思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答している。

「①職業によっては家庭との両立が無理なものがある」では、男女ともに『思う』が70%を超えており、女性で「そう思う」が56.2%を占めている。

「②仕事と家庭や子育て等を両立できる企業は少ない」では、男女とも約64%が『思う』である。

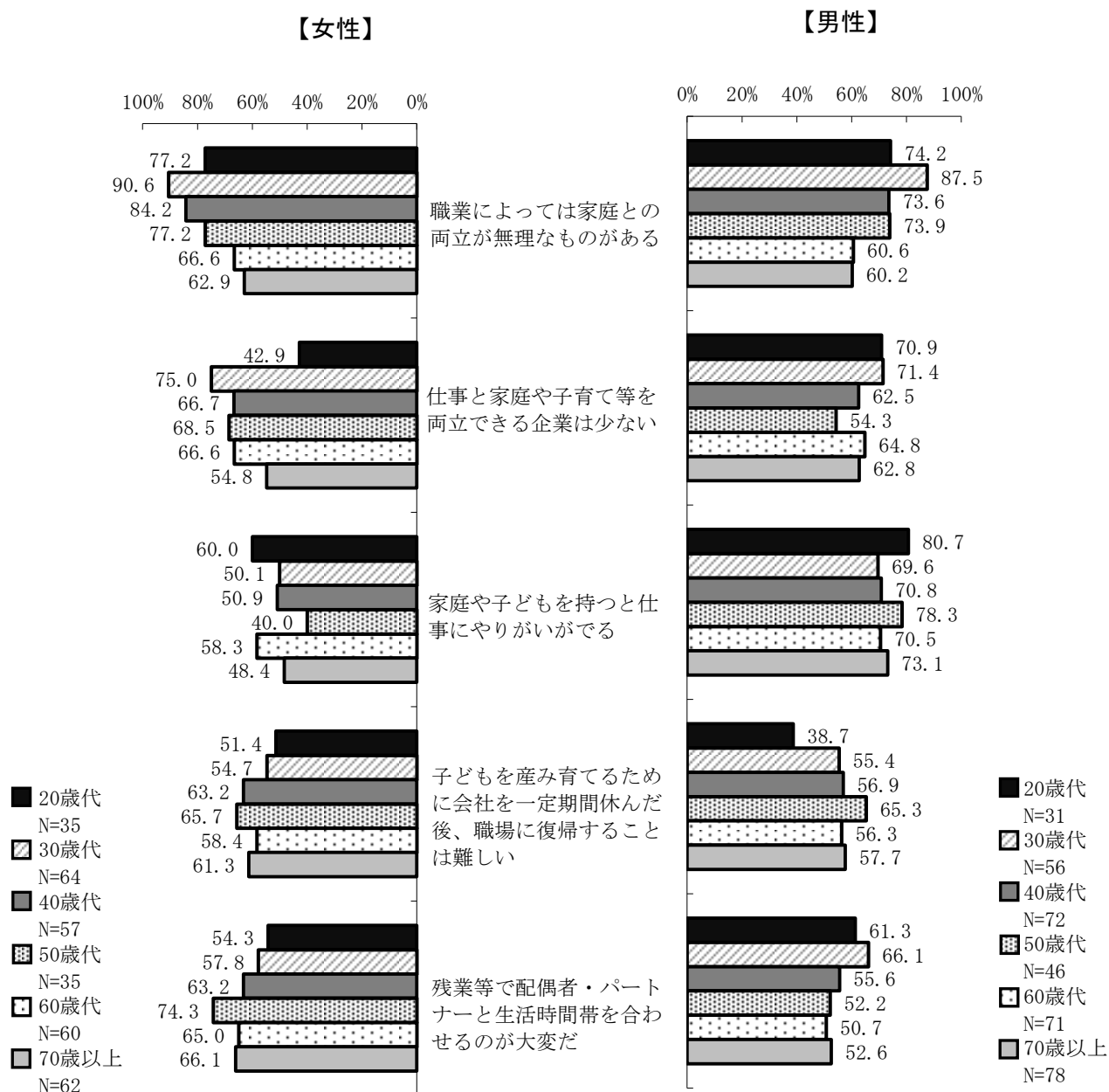
「③家庭や子どもを持つと仕事にやりがいができる」では、男性は72.8%で、女性より21.3ポイント高い。

「④子どもを産み育てるために会社を一定期間休んだ後、職場に復帰することは難しい」では、男女ではほぼ差がない。

「⑤残業等で配偶者・パートナーと生活時間帯を合わせるのが大変だ」では、女性63.3%・男性55.7%で女性の方が7.6ポイント高い。

【性別・年代別】

図1-8 性別・年代別 仕事と家庭の関係についての考え方
(そう思う+どちらかといえばそう思う)



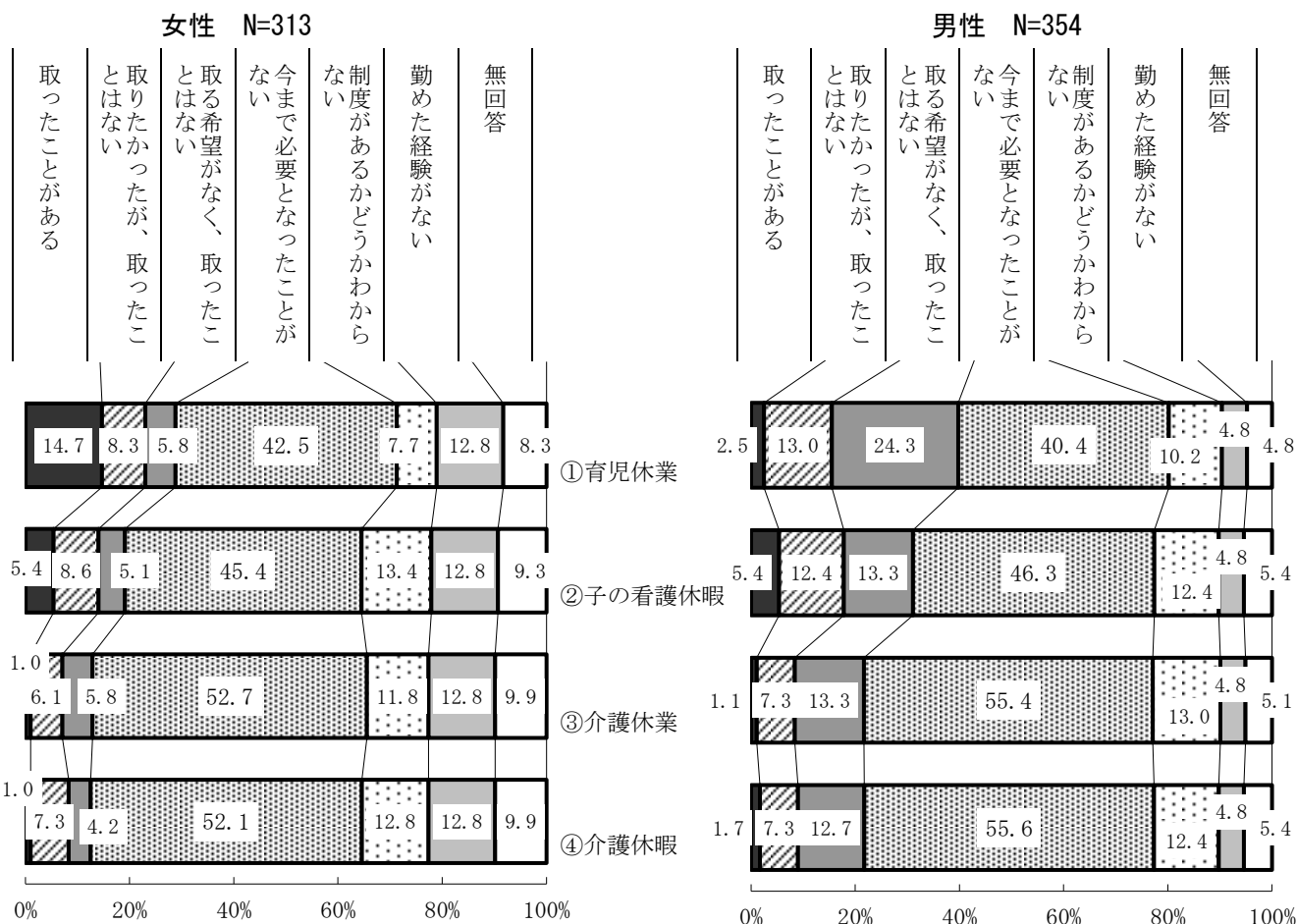
年代別でみると、男女とも、30歳代で「職業によっては家庭との両立が無理なものがある」が90%前後で高い。

女性では、「子どもを産み育てるために会社を一定期間休んだ後、職場に復帰することは難しい」「残業等で配偶者・パートナーと生活時間帯を合わせるのが大変だ」においては、20～50歳代で年代が高いほど割合が高くなっている。

男性では、「仕事と家庭や子育て等を両立できる企業は少ない」においては、20、30歳代で70%を超えている。「子どもを産み育てるために会社を一定期間休んだ後、職場に復帰することは難しい」では50歳代で65.3%と他の年代より高い。「残業等で配偶者・パートナーと生活時間帯を合わせるのが大変だ」では30歳代で66.1%と他の年代より高い。

問 12 あなたは、これまでのお勤めの中で、以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。あるいは、現在取っていますか。(○は①～④のそれぞれで1つ)

図 1-9 育児・介護休暇等の取得の有無



■男女とも、約10%がそれぞれの制度自体を知らない

4つの休業・休暇ともに「今まで必要とならなかったことがない」が最も高く40～50%台である。「制度があるかどうか分からない」は、女性では「育児休業」以外は、それぞれ10%強である。

<育児休業>

女性では、「取ったことがある」は14.7%、「取りたかったが、取ったことはない」は8.3%である。男性では、「取ったことがある」は2.5%である。「取りたかったが、取ったことはない」は13.0%で、女性よりやや高い。

「取る希望がなく、取ったことはない」では、女性が5.8%に対して男性は24.3%で、男性が18.5ポイント高い。

<子の看護休暇>

「取ったことがある」は男女とも5.4%であるが、「取りたかったが、取ったことはない」は女性が8.6%に対して男性は12.4%である。

<介護休業>

女性では、「取ったことがある」が1.0%、「取りたかったが、取ったことはない」は6.1%である。

男性では、「取ったことがある」が 1.1%、「取りたかったが、取ったことはない」は 7.3%で、男女でほとんど差がない。「取る希望がなく、取ったことはない」では、女性が 5.8%に対して男性は 13.3%で、男性が 7.5 ポイント高い。

<介護休暇>

「取ったことがある」は、女性 1.0%・男性 1.7%で、「取りたかったが、取ったことはない」は男女ともに 7.3%で同率である。「取る希望がなく、取ったことはない」では、女性が 4.2%に対して男性は 12.7%で、8.5 ポイント高い。

【性別・年代別】

<①育児休業>

表 1-8 性別・年代別 育児・介護休暇等の取得の有無「①育児休業」

(%)

		対象者数(人)	取ったことがある	取りたかったが、取ったことはない	取る希望がなく、取ったことはない	今まで必要となったことがない	制度があるかどうかわからない	勤めた経験がない	無回答
女性	20 歳代	35	14.3	0.0	2.9	60.0	8.6	11.4	2.9
	30 歳代	64	23.4	9.4	7.8	46.9	7.8	1.6	3.1
	40 歳代	57	21.1	7.0	10.5	43.9	7.0	7.0	3.5
	50 歳代	35	8.6	17.1	11.4	45.7	5.7	5.7	5.7
	60 歳代	60	13.3	6.7	3.3	45.0	11.7	10.0	10.0
	70 歳以上	62	4.8	9.7	0.0	22.6	4.8	37.1	21.0
男性	20 歳代	31	0.0	0.0	19.4	48.4	6.5	22.6	3.2
	30 歳代	56	3.6	16.1	14.3	51.8	10.7	0.0	3.6
	40 歳代	72	0.0	15.3	29.2	41.7	11.1	1.4	1.4
	50 歳代	46	0.0	15.2	26.1	47.8	10.9	0.0	0.0
	60 歳代	71	4.2	8.5	33.8	33.8	8.5	7.0	4.2
	70 歳以上	78	5.1	16.7	19.2	29.5	11.5	5.1	12.8

女性では、30、40 歳代で「取ったことがある」が 20%台と他の年代よりも高くなっている。50 歳代では「取りたかったが、取ったことがない」が 17.1%で他の年代より高い。

男性では、「取ったことがある」が 30 歳代で 3.6%（実数 2 人）、60 歳代で 4.2%（実数 3 人）、70 歳以上で 5.1%（実数 4 人）で、60 歳代では「取る希望がなく、取ったことがない」が 33.8%と高い。

<②子の看護休暇>

表 1-9 性別・年代別 育児・介護休暇等の取得の有無「②子の看護休業」

(%)

		対象者数(人)	取ったことがある	取りたかったが、取ったことはない	取る希望がなく、取ったことはない	今まで必要となったことがない	制度があるかどうかかわからない	勤めた経験がない	無回答
女性	20 歳代	35	5.7	0.0	2.9	62.9	14.3	11.4	2.9
	30 歳代	64	7.8	7.8	6.3	50.0	23.4	1.6	3.1
	40 歳代	57	5.3	10.5	7.0	56.1	8.8	7.0	5.3
	50 歳代	35	11.4	17.1	8.6	45.7	5.7	5.7	5.7
	60 歳代	60	3.3	8.3	5.0	43.3	18.3	10.0	11.7
	70 歳以上	62	1.6	8.1	1.6	22.6	6.5	37.1	22.6
男性	20 歳代	31	0.0	3.2	6.5	54.8	9.7	22.6	3.2
	30 歳代	56	1.8	16.1	3.6	60.7	14.3	0.0	3.6
	40 歳代	72	9.7	12.5	13.9	44.4	16.7	1.4	1.4
	50 歳代	46	4.3	15.2	17.4	54.3	8.7	0.0	0.0
	60 歳代	71	2.8	9.9	16.9	47.9	9.9	7.0	5.6
	70 歳以上	78	9.0	14.1	16.7	28.2	12.8	5.1	14.1

女性では、50 歳代で「取ったことがある」が 11.4%、「取りたかったが、取ったことはない」が 17.1%で年代層の中で最も高い。40 歳代でも「取りたかったが、取ったことはない」が 10.5%とやや高くなっている。

男性では、30 歳代で「取りたかったが、取ったことはない」が他の年代よりやや高い。40 歳代と 70 歳以上で「取ったことがある」が他の年代より高い。50～70 歳以上では「取る希望がなく、取ったことはない」が 17%前後である。

<③介護休業>

表 1-10 性別・年代別 育児・介護休暇等の取得の有無「③介護休業」

(%)

		対象者数(人)	取ったことがある	取りたかったが、取ったことはない	取る希望がなく、取ったことはない	今まで必要となったことがない	制度があるかどうかかわからない	勤めた経験がない	無回答
女性	20 歳代	35	0.0	0.0	5.7	62.9	17.1	11.4	2.9
	30 歳代	64	0.0	4.7	6.3	65.6	18.8	1.6	3.1
	40 歳代	57	0.0	5.3	8.8	66.7	7.0	7.0	5.3
	50 歳代	35	0.0	17.1	5.7	62.9	5.7	5.7	2.9
	60 歳代	60	5.0	6.7	6.7	43.3	15.0	10.0	13.3
	70 歳以上	62	0.0	4.8	1.6	24.2	6.5	37.1	25.8
男性	20 歳代	31	0.0	0.0	6.5	54.8	12.9	22.6	3.2
	30 歳代	56	0.0	0.0	8.9	75.0	12.5	0.0	3.6
	40 歳代	72	0.0	1.4	16.7	68.1	11.1	1.4	1.4
	50 歳代	46	0.0	10.9	15.2	63.0	10.9	0.0	0.0
	60 歳代	71	1.4	8.5	18.3	46.5	12.7	7.0	5.6
	70 歳以上	78	3.8	17.9	10.3	33.3	16.7	5.1	12.8

女性では、60 歳代のみ「取ったことがある」が 5.0%で、他の年代は 0.0%である。50 歳代では「取りたかったが、取ったことはない」が 17.1%と他の年代よりも 10 ポイント以上も高い。

男性では、60 歳代、70 歳以上で「取ったことがある」が、それぞれ 1.4%（実数 1 人）、3.8%（実数 3 人）で、70 歳以上では「取りたかったが、取ったことはない」が 17.9%と他の年代より高い。

<④介護休暇>

表 1-11 性別・年代別 育児・介護休暇等の取得の有無「④介護休暇」

(%)

		対象者数(人)	取ったことがある	取りたかったが、取ったことはない	取る希望がなく、取ったことはない	今まで必要とならなかった	制度があるかどうか	勤めた経験がない	無回答
女性	20 歳代	35	0.0	0.0	5.7	62.9	17.1	11.4	2.9
	30 歳代	64	1.6	1.6	6.3	65.6	20.3	1.6	3.1
	40 歳代	57	0.0	7.0	5.3	68.4	8.8	7.0	3.5
	50 歳代	35	0.0	22.9	5.7	54.3	5.7	5.7	5.7
	60 歳代	60	1.7	11.7	3.3	45.0	15.0	10.0	13.3
	70 歳以上	62	1.6	4.8	0.0	22.6	8.1	37.1	25.8
男性	20 歳代	31	0.0	0.0	6.5	54.8	12.9	22.6	3.2
	30 歳代	56	0.0	0.0	8.9	73.2	14.3	0.0	3.6
	40 歳代	72	1.4	1.4	16.7	65.3	11.1	1.4	2.8
	50 歳代	46	0.0	10.9	15.2	65.2	8.7	0.0	0.0
	60 歳代	71	1.4	9.9	16.9	46.5	12.7	7.0	5.6
	70 歳以上	78	5.1	16.7	9.0	37.2	14.1	5.1	12.8

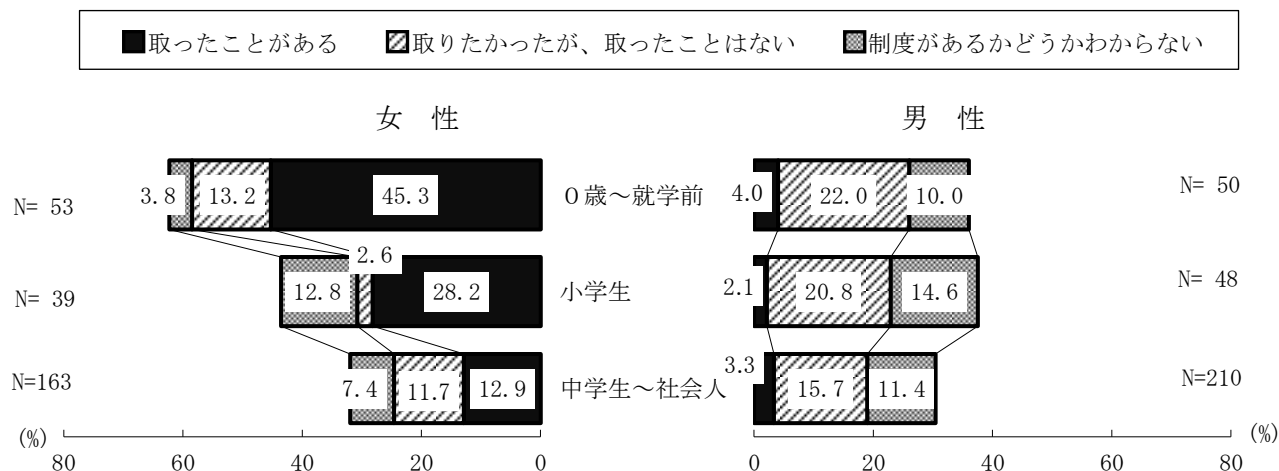
女性では、30、60 歳代、70 歳以上で「取ったことがある」が 1%台である。50 歳代では、「取りたかったが、取ったことはない」が 22.9%と他の年代より抜きん出て高い。

男性では、70 歳以上で「取ったことがある」が 5.1%、「取りたかったが、取ったことはない」が 16.7%と他の年代より高い。40、50、60 歳代では、「取る希望がなく、取ったことはない」が 15%を超えている。

【性別・子どもの年齢別】

図 1-10 性別・子どもの年齢別 育児・介護休暇等の取得の有無

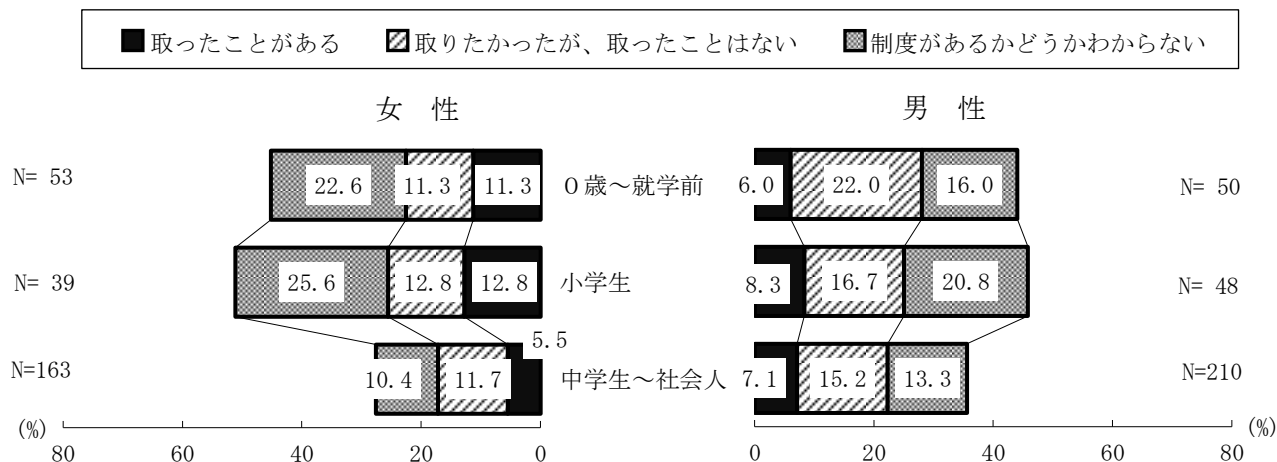
<育児休業>



子どもの年齢別でみると、女性では、「取ったことがある」は「0歳～就学前」で45.3%、「小学生」で28.2%と、子どもの年齢が低いほど「取ったことがある」は高くなっている。

男性では、「取ったことがある」は、子どもの年齢には関係なく5%未満である。

<子の看護休暇>



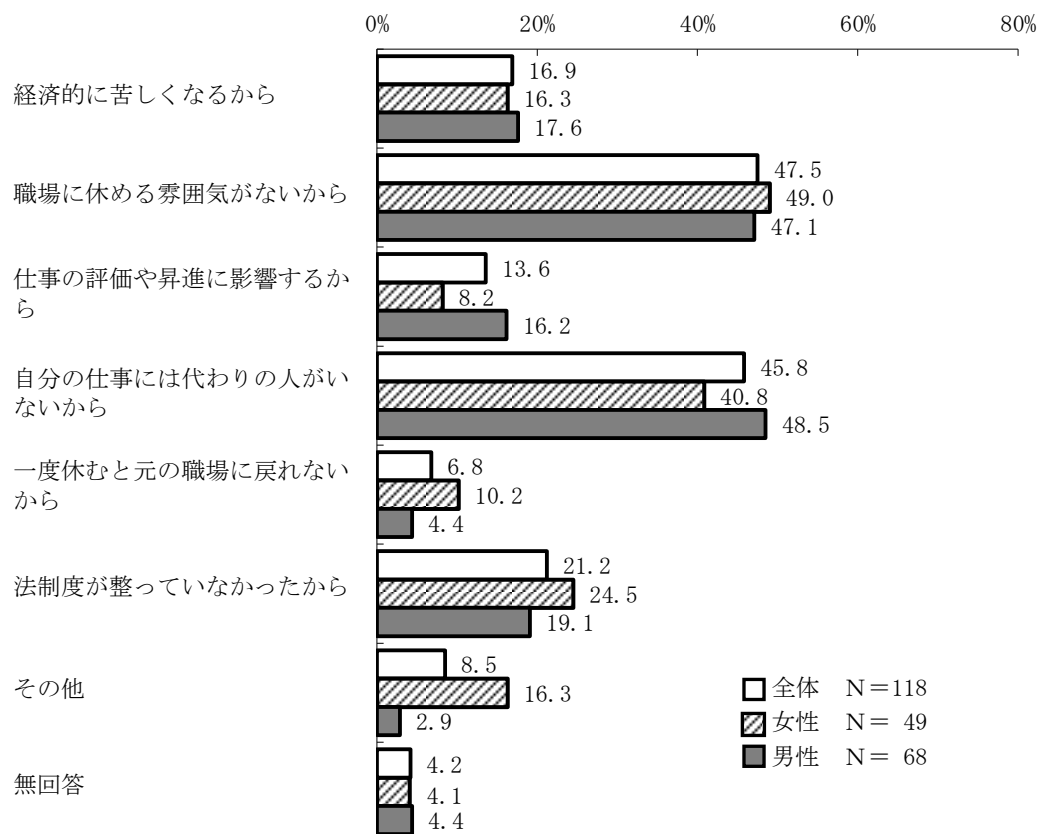
子どもの年齢別でみると、女性では、「0歳～就学前」「小学生」で「取ったことがある」「取りたかったが、取ったことはない」が各10%強である。「制度があるかどうか分からない」は20%を超えている。

男性では、子どもの年齢にかかわらず、「取ったことがある」が10%未満である。「取りたかったが、取ったことはない」は「0歳～就学前」では22.0%で最も高い。

問 12 で「取りたかったが、取ったことがない」と答えた方におたずねします。

問 12-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。
(〇はいくつでも)

図 1-11 育児・介護休暇等を取得することができなかった理由



■男女とも、「休める雰囲気がない」「代わりがない」が2大理由

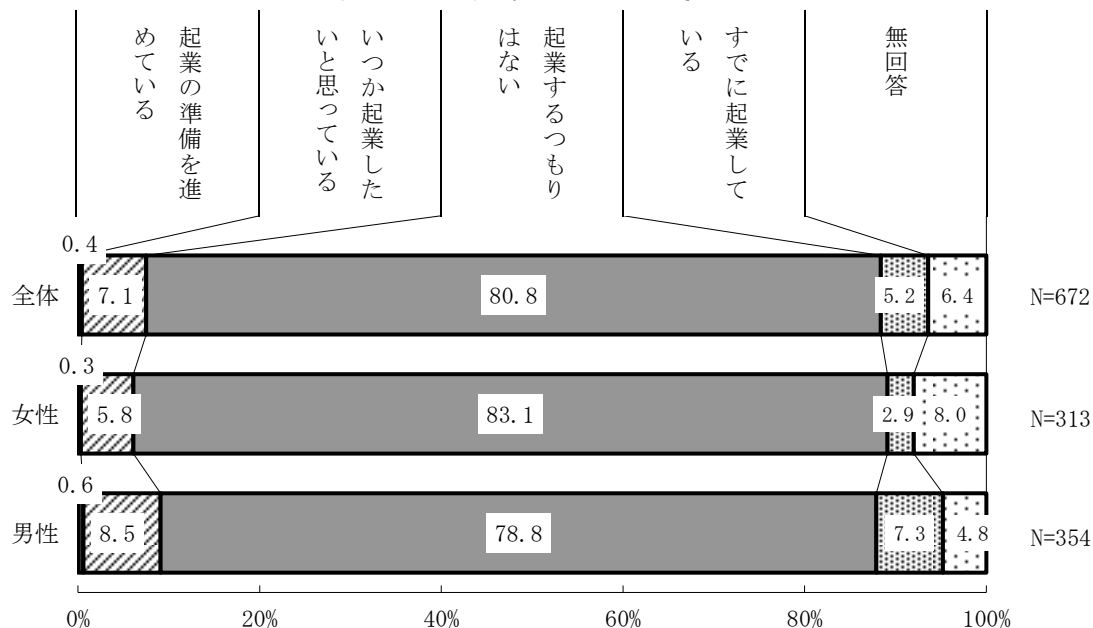
女性では、「職場に休める雰囲気がないから」が 49.0%、「自分の仕事には代わりの人がいないから」が 40.8%で2大理由である。

男性では、「自分の仕事には代わりの人がいないから」が 48.5%、「職場に休める雰囲気がないから」が 47.1%で2大理由である。

「仕事の評価や昇進に影響するから」「自分の仕事には代わりの人がいないから」では、男性の方が女性より約 8 ポイント高く、「一度休むと元の職場に戻れないから」「法制度が整っていなかったから」では、女性の方が男性より 5～6 ポイント高くなっている。

問 13 近年、起業に関心が高まっています。あなたは、起業についてどのように思いますか。
(○は1つ)

図 1-12 起業についての考え



■「起業の準備を進めている」「いつかは起業したい」は、女性の6.1%、男性の9.1%

「起業するつもりはない」が女性83.1%・男性78.8%である。「いつか起業したいと思っている」は、女性の5.8%、男性の8.5%となっている。

【性別・年代別】 表 1-12 性別・年代別 起業についての考え (%)

		対象者数 (人)	起業の準備 を進めている	いつか起業 したいと思 っている	起業する つもりは ない	すでに 起業 している	無 回 答
女性	20 歳代	35	-	14.3	85.7	-	-
	30 歳代	64	-	7.8	90.6	-	1.6
	40 歳代	57	-	7.0	86.0	3.5	3.5
	50 歳代	35	-	8.6	82.9	-	8.6
	60 歳代	60	1.7	1.7	85.0	6.7	5.0
	70 歳以上	62	-	-	69.4	4.8	25.8
男性	20 歳代	31	3.2	16.1	80.6	-	-
	30 歳代	56	-	14.3	78.6	7.1	-
	40 歳代	72	1.4	13.9	72.2	9.7	2.8
	50 歳代	46	-	13.0	76.1	8.7	2.2
	60 歳代	71	-	1.4	84.5	8.5	5.6
	70 歳以上	78	-	-	80.8	6.4	12.8

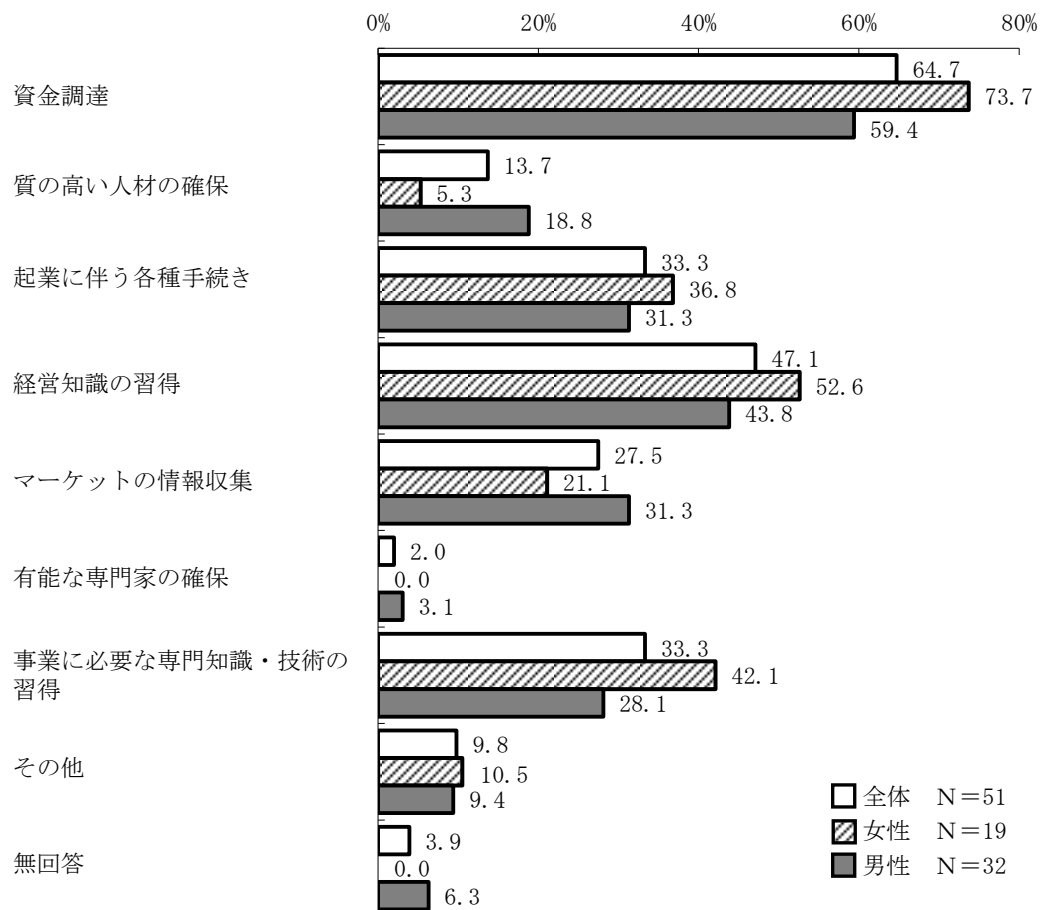
年代別でみると、「起業の準備を進めている」と「いつか起業したいと思っている」を合わせた割合は、女性では、20 歳代で 14.3%と二桁であり、30～50 歳代では 7～8 %台である。

男性では、「起業の準備を進めている」と「いつか起業したいと思っている」を合わせた割合は、20 歳代で 19.3%である。30～50 歳代でも 13～15%台である。

問 13 で「起業の準備を進めている」「いつか起業したいと思っている」と答えた方におたずねします。

問 13-1 あなたは、起業するにあたってどのような不安がありますか。（○はいくつでも）

図 1-13 起業するにあたっての不安



■男女とも、「資金調達」と「経営知識の習得」が大きな不安

女性では、「資金調達」（73.7%）、「経営知識の習得」（52.6%）、「事業に必要な専門知識・技術の習得」（42.1%）、「起業に伴う各種手続き」（36.8%）が30%を超えている。

男性では、「資金調達」（59.4%）、「経営知識の習得」（43.8%）、「起業に伴う各種手続き」「マーケットの情報収集」（それぞれ31.3%）が30%を超えている。

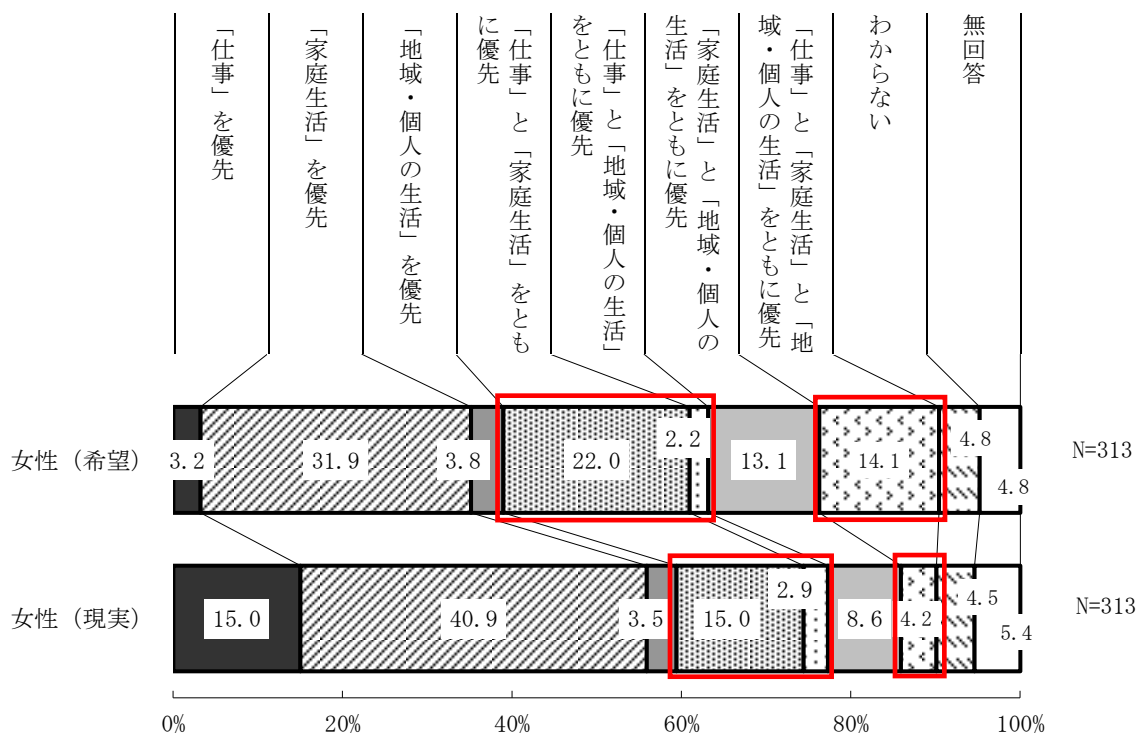
「質の高い人材の確保」「マーケットの情報収集」は、男性が高く、「資金調達」「経営知識の習得」「事業に必要な専門知識・技術の習得」では女性が高くなっている。

問 14 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について伺います。

（１）あなたの希望に最も近いものはどれですか。（○は１つ）

（２）あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は１つ）

図 1-14 ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（女性）



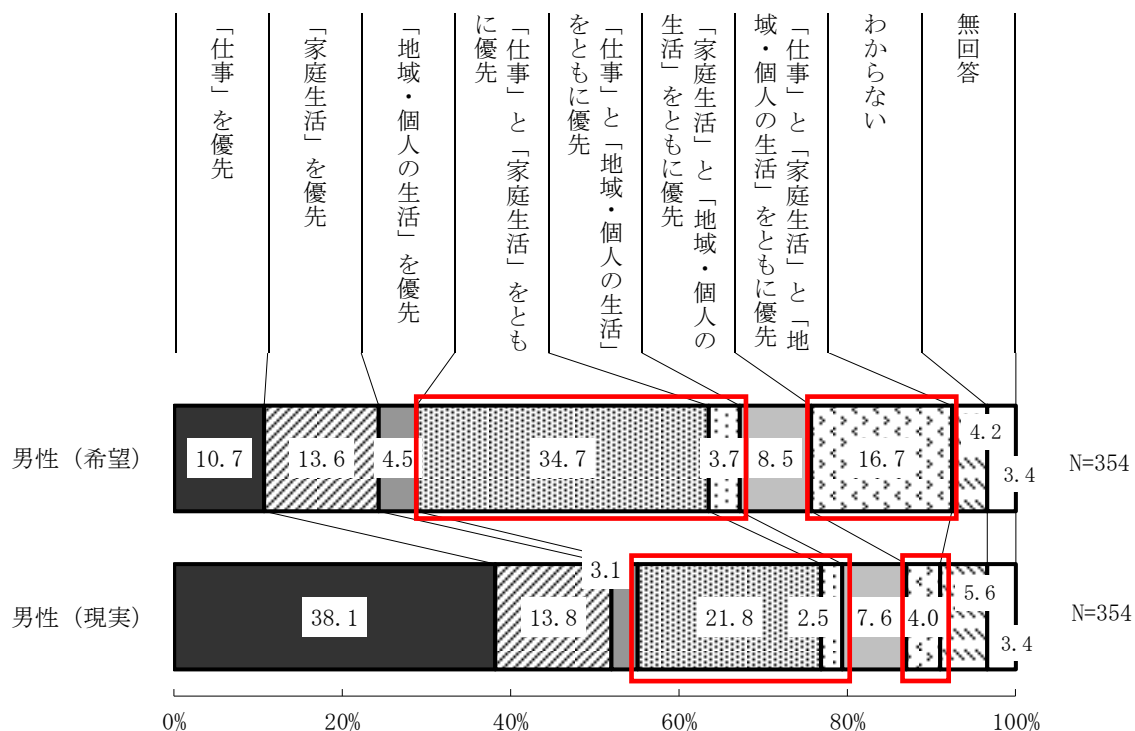
■現実に、仕事と生活を両立している女性は5人に1人

生活における仕事とその他の生活のバランスについて、希望と現実をたずねたところ、【希望】では、「『家庭生活』を優先」が最も高く 31.9%であるのに対して、【現実】でも「『家庭生活』を優先」が最も高く 40.9%である。

複線的に暮らす『仕事と生活を両立』*は、【希望】が 38.3%なのに対して、【現実】では 22.1%で、16.2 ポイント低くなっている。

*『仕事と生活を両立』とは、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」+「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先」+「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の合計

図 1-15 ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（男性）

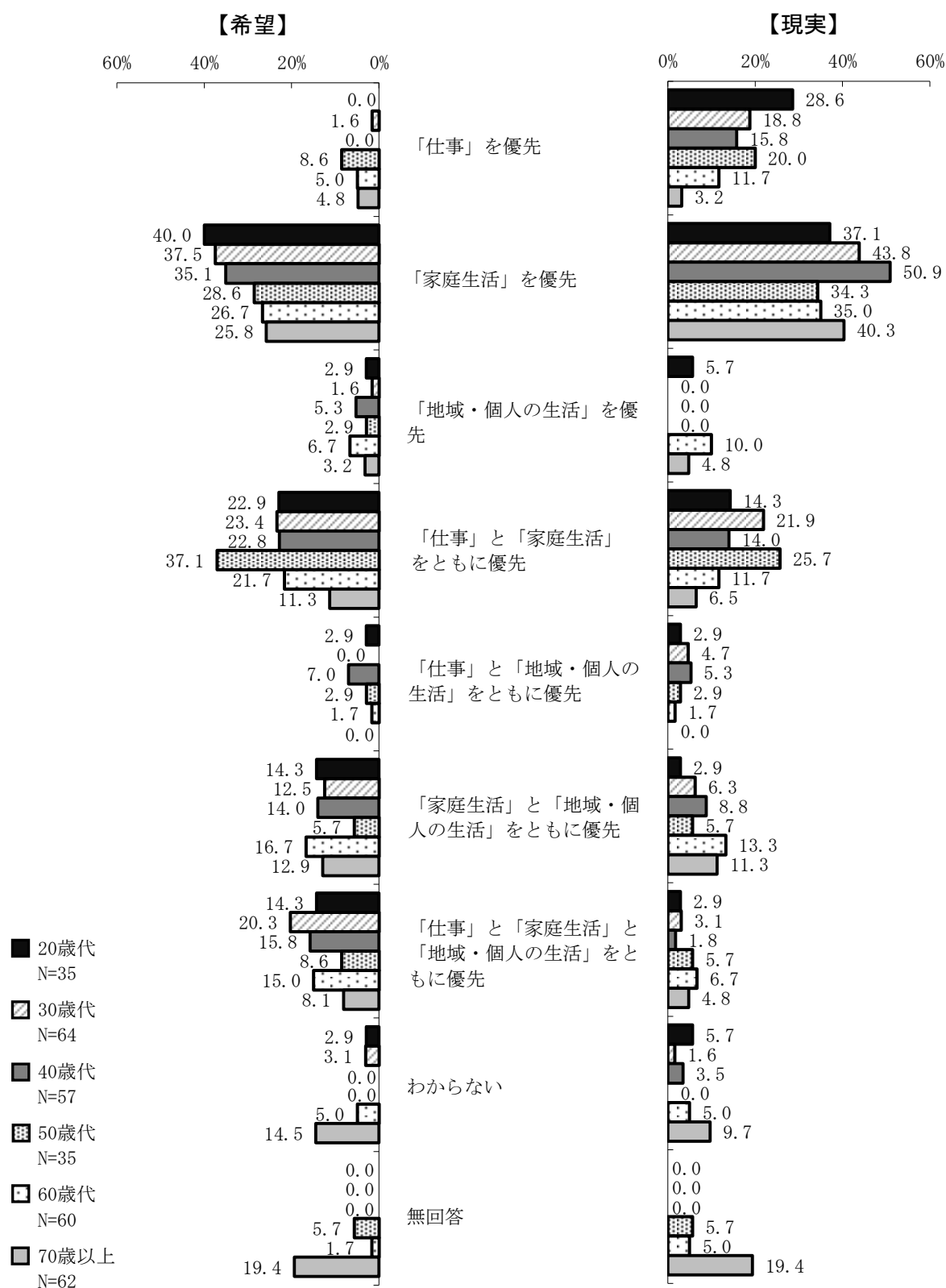


■現実には、男性の40%弱が仕事優先、仕事と生活を両立している割合は30%弱

【希望】では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高く 34.7%であるのに対して、【現実】では『「仕事」を優先』が最も高く 38.1%である。

複線的に暮らす『仕事と生活を両立』*は、【希望】が 55.1%なのに対して、【現実】では 28.3%で、26.8 ポイント低くなっている。

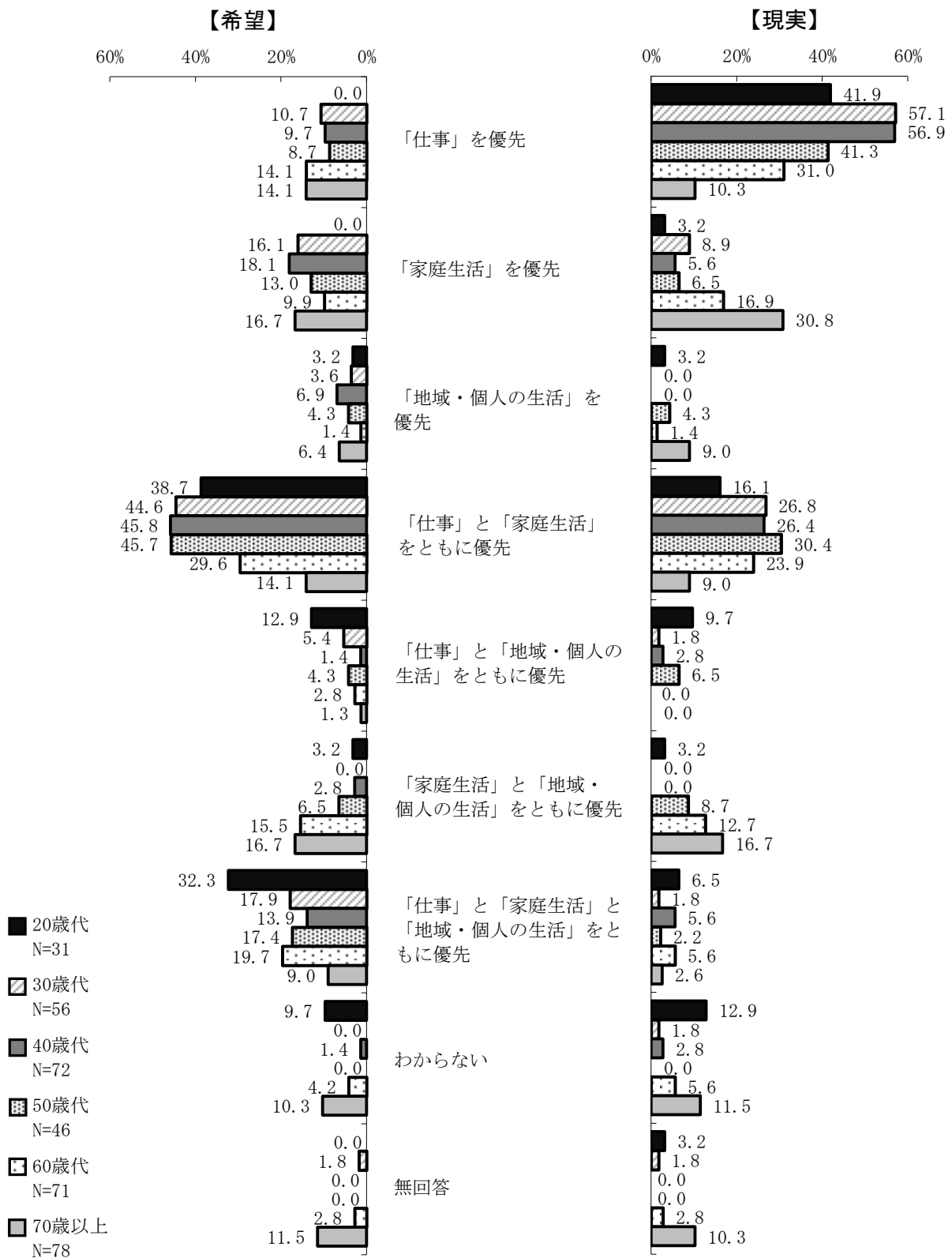
【性別・年代別】 図1-16 性別・年代別 ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（女性）



【希望】では、『家庭生活』を優先は年代が低いほど高くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先では50歳代で37.1%と他の年代層より10ポイント以上高い。

【現実】では、『仕事』を優先は20歳代が高く、『家庭生活』を優先は40歳代が高い。『仕事』と『家庭生活』をともに優先では30、50歳代が他の年代より高い。

図 1-17 性別・年代別 ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（男性）

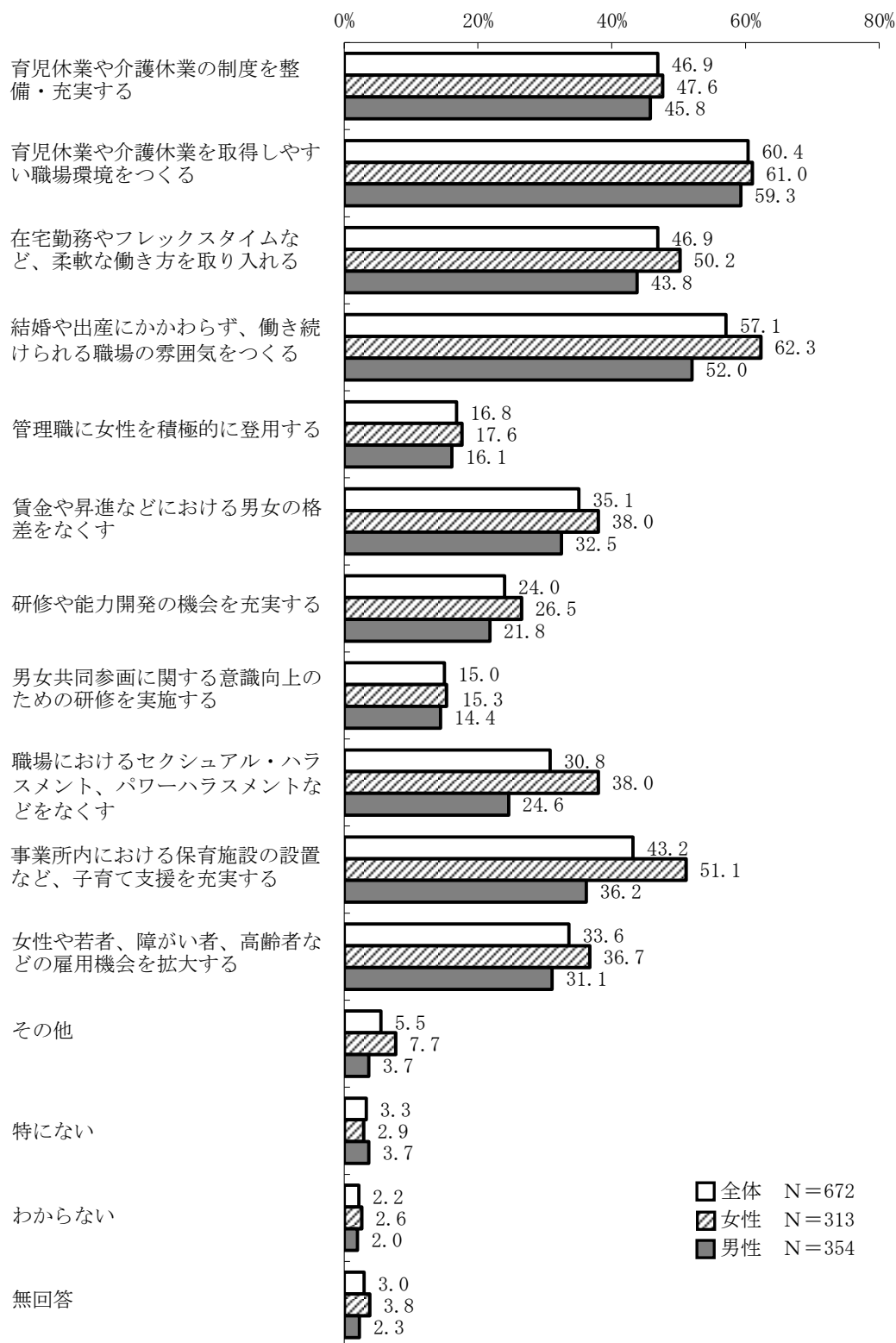


【希望】では、20 歳代で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が年代層の中で最も高く 32.3%である。

【現実】では、30 歳代と 40 歳代で『仕事』を優先」が高く 60%近くを占める。50 歳代では『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 30.4%とやや高い。

問 15 あなたは、男女がいきいきと働ける職場をつくるためには、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

図 1-18 男女がいきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れること



■休みを取りやすい、働き続けられる職場の雰囲気づくりが重要

女性では、第1位「結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」(62.3%)、

2位「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」（61.0%）、3位「事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する」（51.1%）、4位「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」（50.2%）の順で高くなっている。

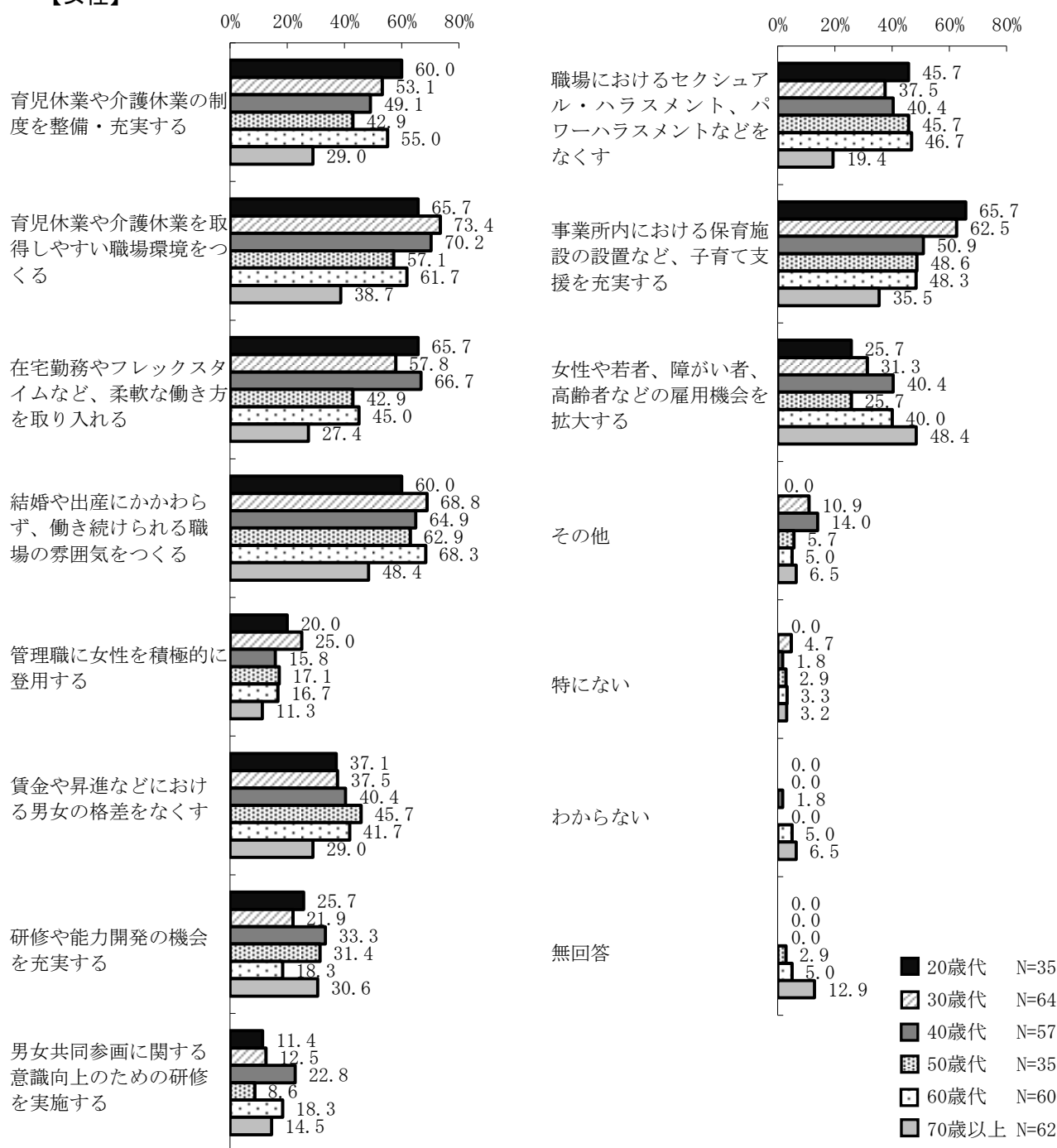
男性では、第1位「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」（59.3%）、2位「結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」（52.0%）、3位「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」（45.8%）、4位「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」（43.8%）の順で高くなっている。

すべての項目で女性の割合の方が男性の割合より高く、特に「結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントなどをなくす」「事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する」では10～15ポイントの開きがある。

【性別・年代別】

図 1-19 性別・年代別 男女がいきいきと働ける職場をつくるために企業が力を入れること

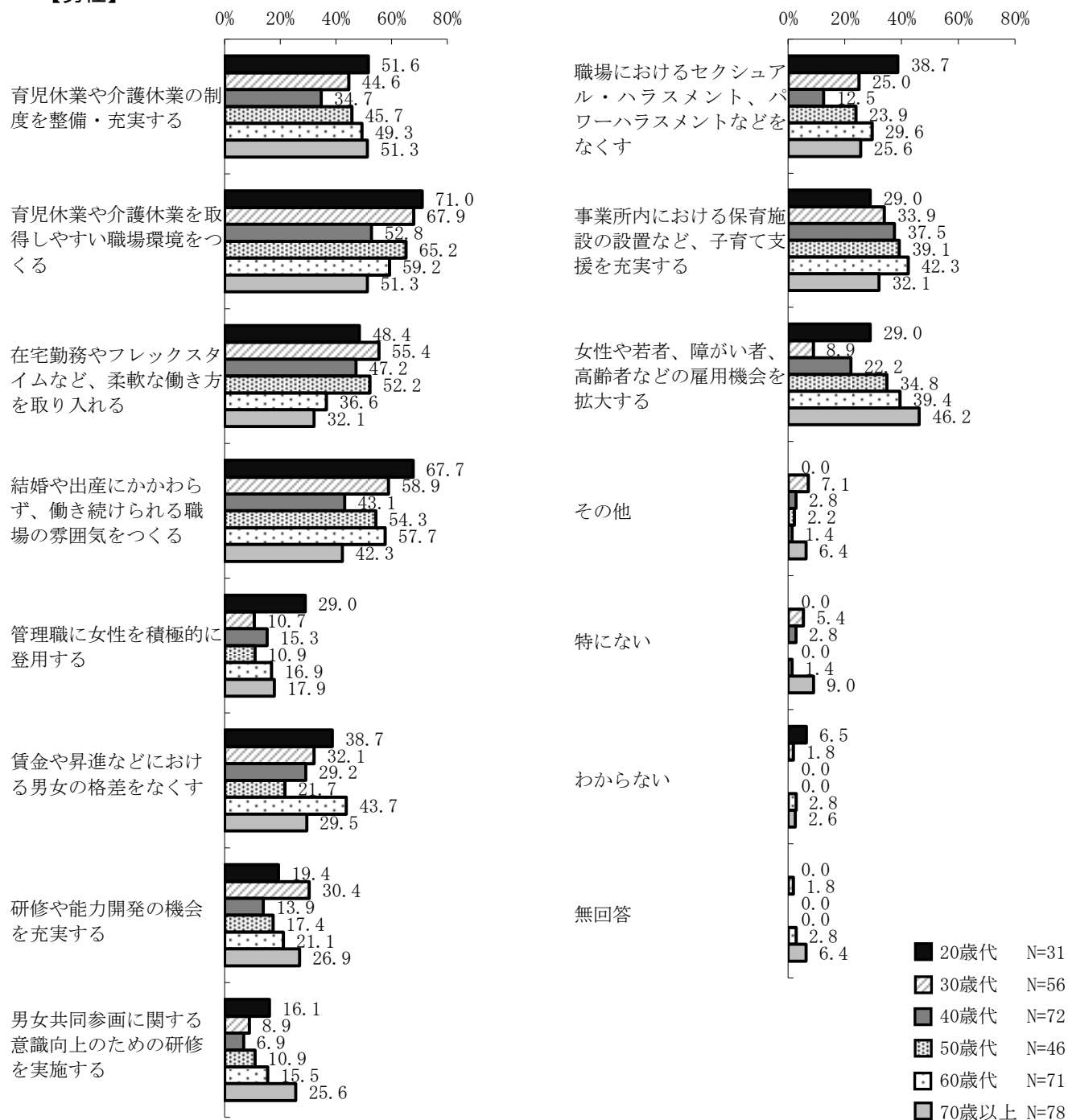
【女性】



年代別でみると、女性では、20歳代で「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」「事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する」が年代層の中で最も高く各60.0%、65.7%である。30歳代と40歳代で「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」は70%台である。

「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる」は20～40歳代で高い。70歳以上を除く20～60歳代で「結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」が60%を超えている。

【男性】

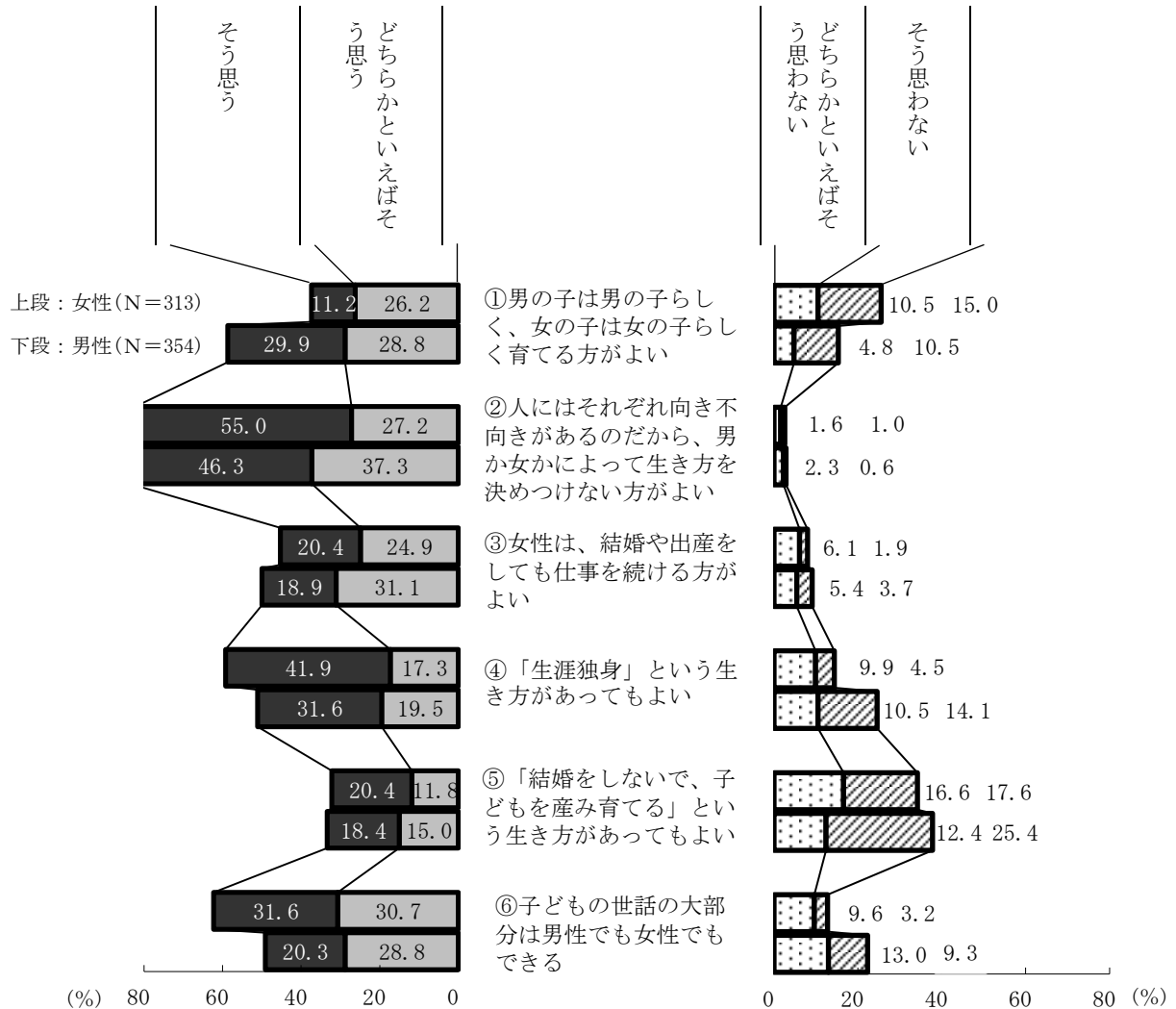


男性では、20歳代で「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」「結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる」「管理職に女性を積極的に登用する」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントなどをなくす」が他の年代と比べて高い。

2. 子育てや暮らしなどについて

問 16 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(○は①～⑥のそれぞれで1つ)

図 2-1 子育てや生き方についての考え



※「どちらともいえない」「無回答」は省略

■男女とも「結婚をしないで、子どもを産み育てる生き方」には意見が二分

「①男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」では、男性の『思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は58.7%で、女性の37.4%より21.3ポイント高い。

「②人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい」では、男女ともに高く、女性82.2%・男性83.6%である。

「③女性は、結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい」では、『思う』は女性45.3%・男性50.0%である。

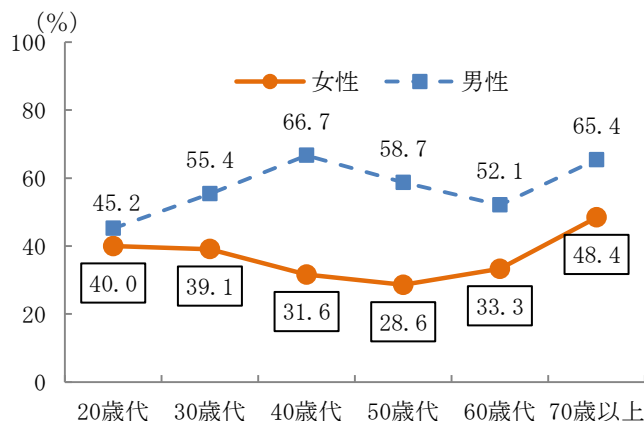
「④『生涯独身』という生き方があってもよい」では、『思う』は女性59.2%・男性51.1%で女性の方が8.1ポイント高い。

「⑤『結婚をしないで、子どもを産み育てる』という生き方があってもよい」では、男女ともに『思う』と『思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が拮抗している。

「⑥子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる」では、『思う』は女性62.3%・男性49.1%で、女性の方が13.2ポイント高い。

【性別・年代別】

図 2-2 性別・年代別 子育てや生き方についての考え『思う』割合
 (「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)
 <男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい>

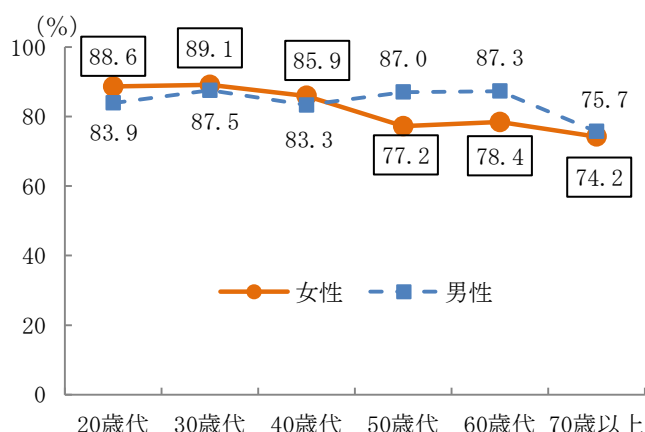


女性では、70歳以上が最も高く48.4%。次いで、20、30歳代が約40%と高い。最も低い50歳代とでは、10ポイント以上の開きがある。

男性では、40歳代と70歳以上で60%半ばと高く、最も低い20歳代とでは約20ポイントの開きがある。

20歳代では男女の開きはほとんどないが、他の年代では男性の方が15ポイント以上高くなっている。

図 2-3 性別・年代別 子育てや生き方についての考え『思う』割合
 <人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女によって生き方を決めつけない方がよい>

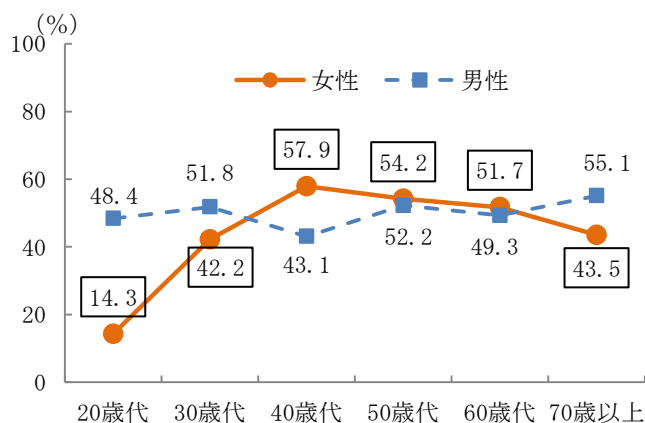


女性では、40歳代以下は80%台だが、50歳代以上は70%台となっている。

男性では、70歳以上は70%台でやや低いですが、60歳代以下は80%台で大きな差はみられない。

50、60歳代では女性の方が約10ポイント低くなっている。

図 2-4 性別・年代別 子育てや生き方についての考え『思う』割合
 <女性は、結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい>

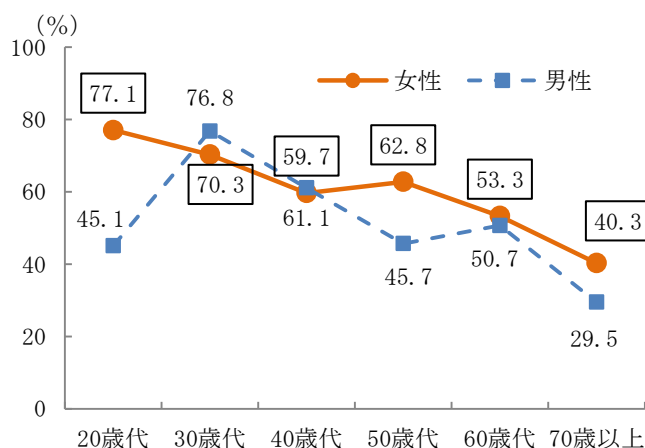


女性では、20歳代で14.3%と他の年代と比べて極端に低く、40、50、60歳代で50%を超えている。

男性では、40歳代でやや低く、70歳以上で最も高いものの、他の年代では50%前後である。

20、40歳代、70歳以上では男女の開きが大きくなっている。

図 2-5 性別・年代別 子育てや生き方についての考え『思う』割合
 <「生涯独身」という生き方があってもよい>

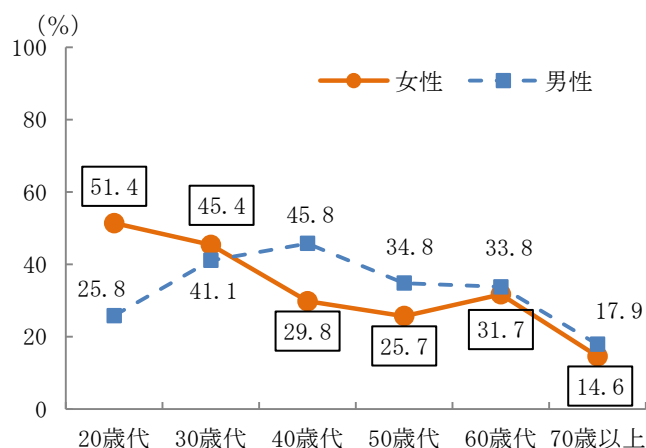


女性では、20歳代で77.1%と高いが、年代が高いほど低い傾向がみられ、70歳以上では40.3%である。

男性では、20歳代で45.1%だが、30歳代では76.8%と年代の中で最も高くなっている。

20、50歳代では17ポイント以上も女性が高くなっている。

図 2-6 性別・年代別 子育てや生き方についての考え『思う』割合
 <結婚をしないで、子どもを産み育てる』という生き方があってもよい>

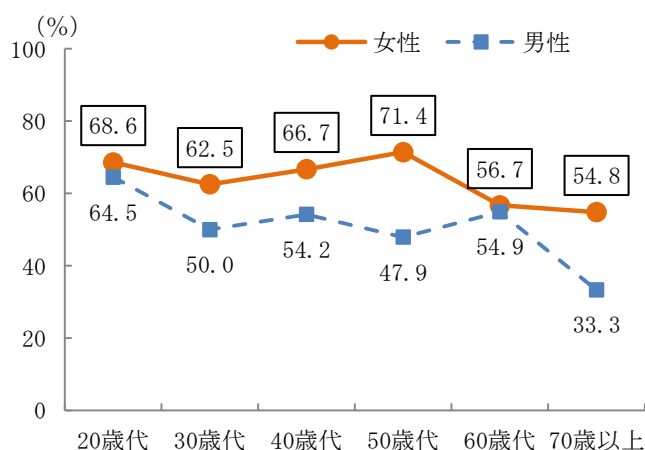


女性では、20歳代で51.4%と最も高く、年代が高いほど低い傾向である。

男性では、40歳代が45.8%と最も高く、20歳代、70歳以上で低くなっている。

20歳代では女性が約25ポイント高く、40歳代では、男性が16ポイント高い。

図 2-7 性別・年代別 子育てや生き方についての考え『思う』割合
 <子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる>



女性では、20、40、50歳代で高く、50歳代で71.4%と最も高い。

男性では、20歳代が64.5%で最も高く、70歳以上では33.3%と最も低くなっている。

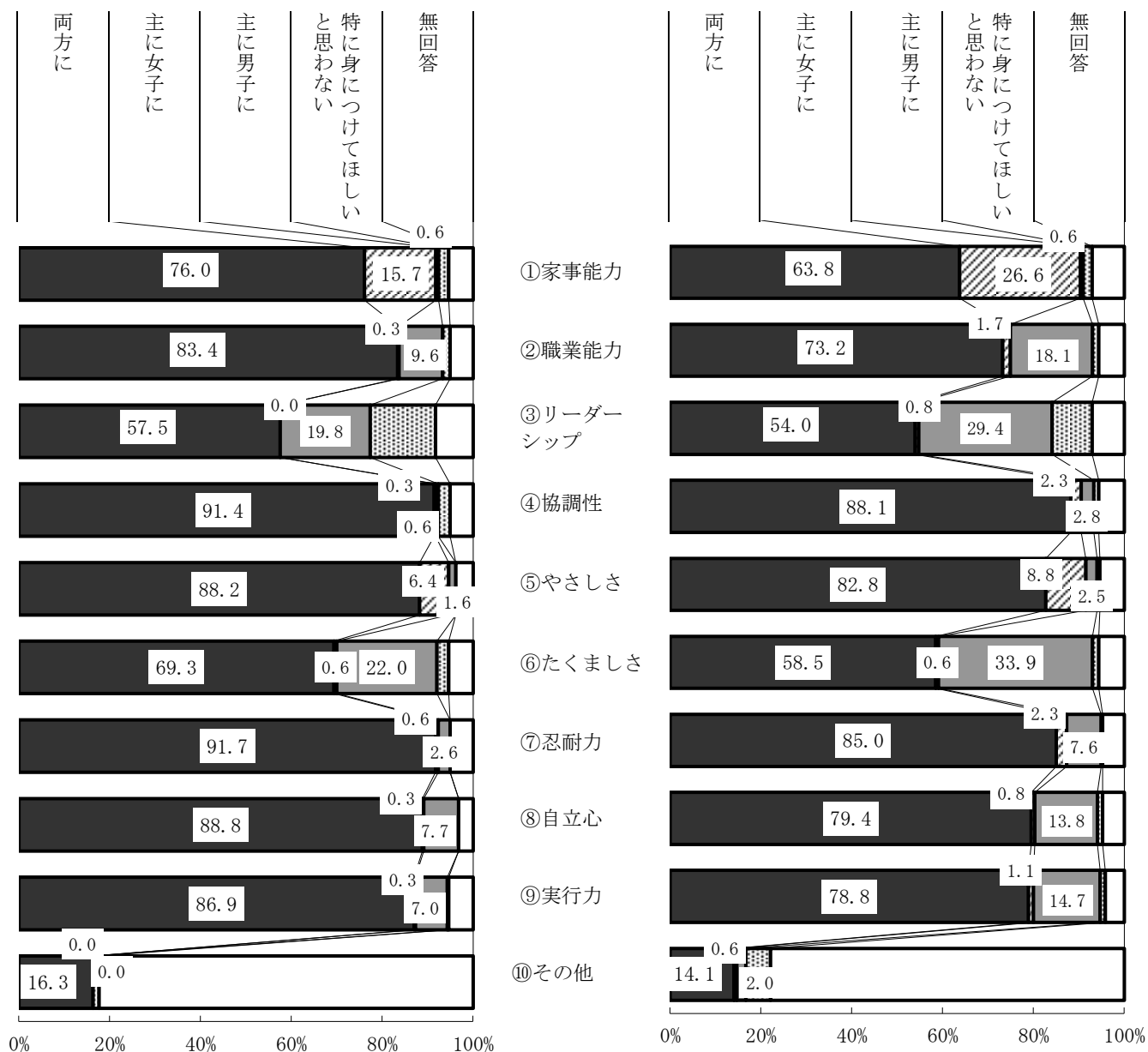
すべての年代で女性の方が高く、30～50歳代では12ポイント以上、70歳代では20ポイント以上の開きがある。

問17 あなたは、子どもにどのような能力を身につけてほしいですか（ほしかったですか）。
※子どものいない方もお答えください。（〇は①～⑩のそれぞれで1つ）

図 2-8 子どもに身につけてほしい能力

女性 N=313

男性 N=354



※「特に身につけてほしいと思わない」「無回答」は数値を省略。（次頁表 2-1 参照）

(参考) 表2-1 性別・能力別 子どもに身につけてほしい能力

(%)

女性(N=313)						男性(N=354)				
両方に	主に女子に	主に男子に	特に身につけてほしいと思わない	無回答		両方に	主に女子に	主に男子に	特に身につけてほしいと思わない	無回答
76.0	15.7	0.6	2.2	5.4	①家事能力	63.8	26.6	0.6	2.0	7.1
83.4	0.3	9.6	1.6	5.1	②職業能力	73.2	1.7	18.1	1.4	5.6
57.5	0.0	19.8	14.4	8.3	③リーダーシップ	54.0	0.8	29.4	8.8	7.1
91.4	0.3	0.6	2.6	5.1	④協調性	88.1	2.3	2.8	1.1	5.6
88.2	6.4	1.6	0.0	3.8	⑤やさしさ	82.8	8.8	2.5	0.6	5.4
69.3	0.6	22.0	2.6	5.4	⑥たくましさ	58.5	0.6	33.9	1.4	5.6
91.7	0.6	2.6	0.0	5.1	⑦忍耐力	85.0	2.3	7.6	0.3	4.8
88.8	0.3	7.7	0.0	3.2	⑧自立心	79.4	0.8	13.8	1.1	4.8
86.9	0.3	7.0	0.3	5.4	⑨実行力	78.8	1.1	14.7	1.1	4.2
16.3	0.0	0.0	1.3	82.4	⑩その他	14.1	0.6	2.0	5.4	78.0

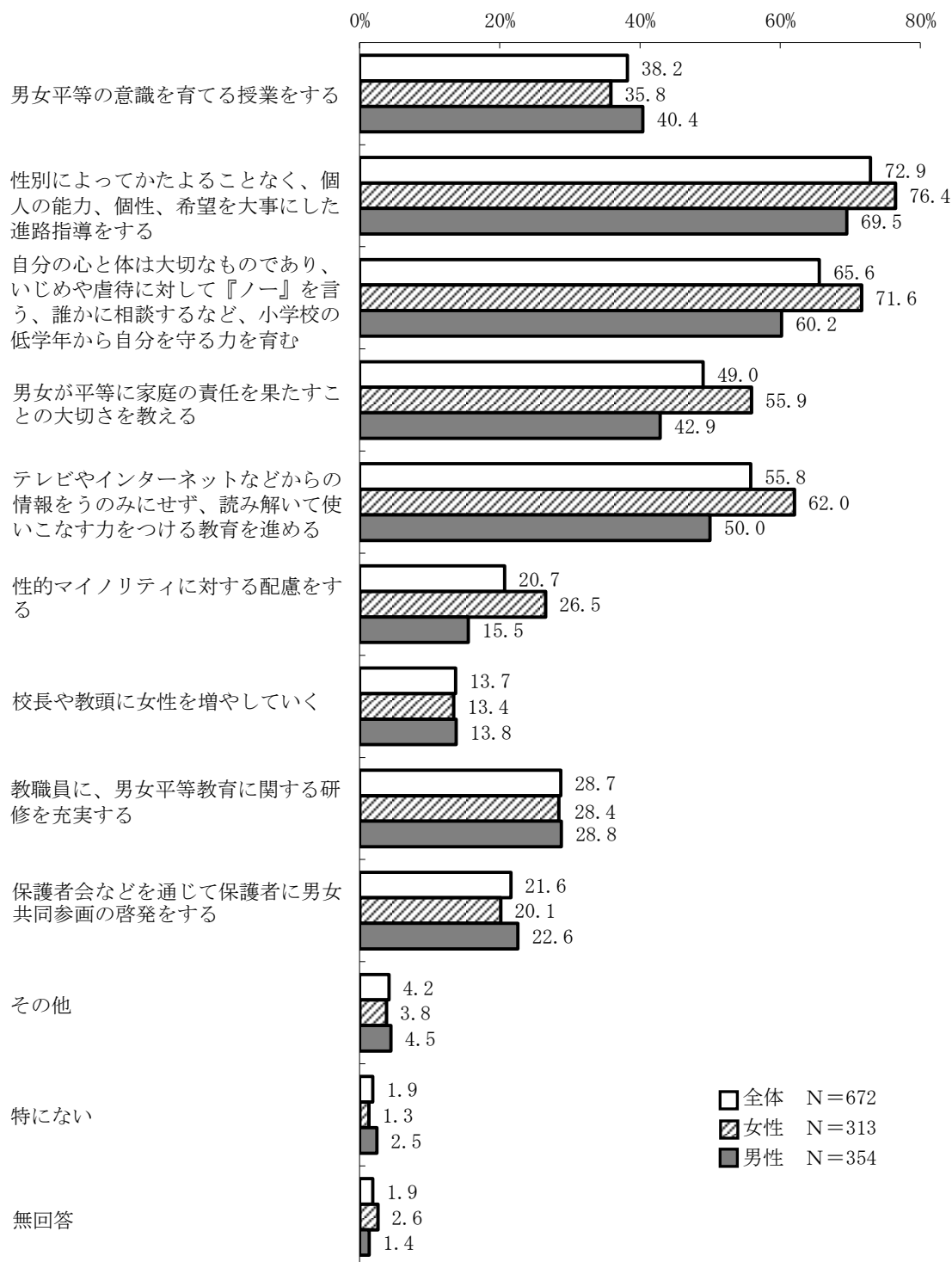
■女子・男子の両方にさまざまな能力を身につけてほしいとする割合は高いものの、「たくましさ」と「リーダーシップ」は「主に男子に」望む割合が高い

総合的にみると、男女ともに、女子・男子の両方にさまざまな能力を身につけてほしいとする割合が高くなっている。しかし、「⑥たくましさ」では女性 22.0%・男性 33.9%が、「③リーダーシップ」では女性 19.8%・男性 29.4%が「主に男子に」を選択している。また、「①家事能力」では女性 15.7%・男性 26.6%が「主に女子に」を選択している。

男性では、「②職業能力」「⑧自立心」「⑨実行力」においても「主に男子に」が 10%を超えている。

問 18 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取組が重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

図 2-9 男女平等を進めるために、小学校・中学校で重要だと思う取組



■男女ともに「個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導」の割合が高い

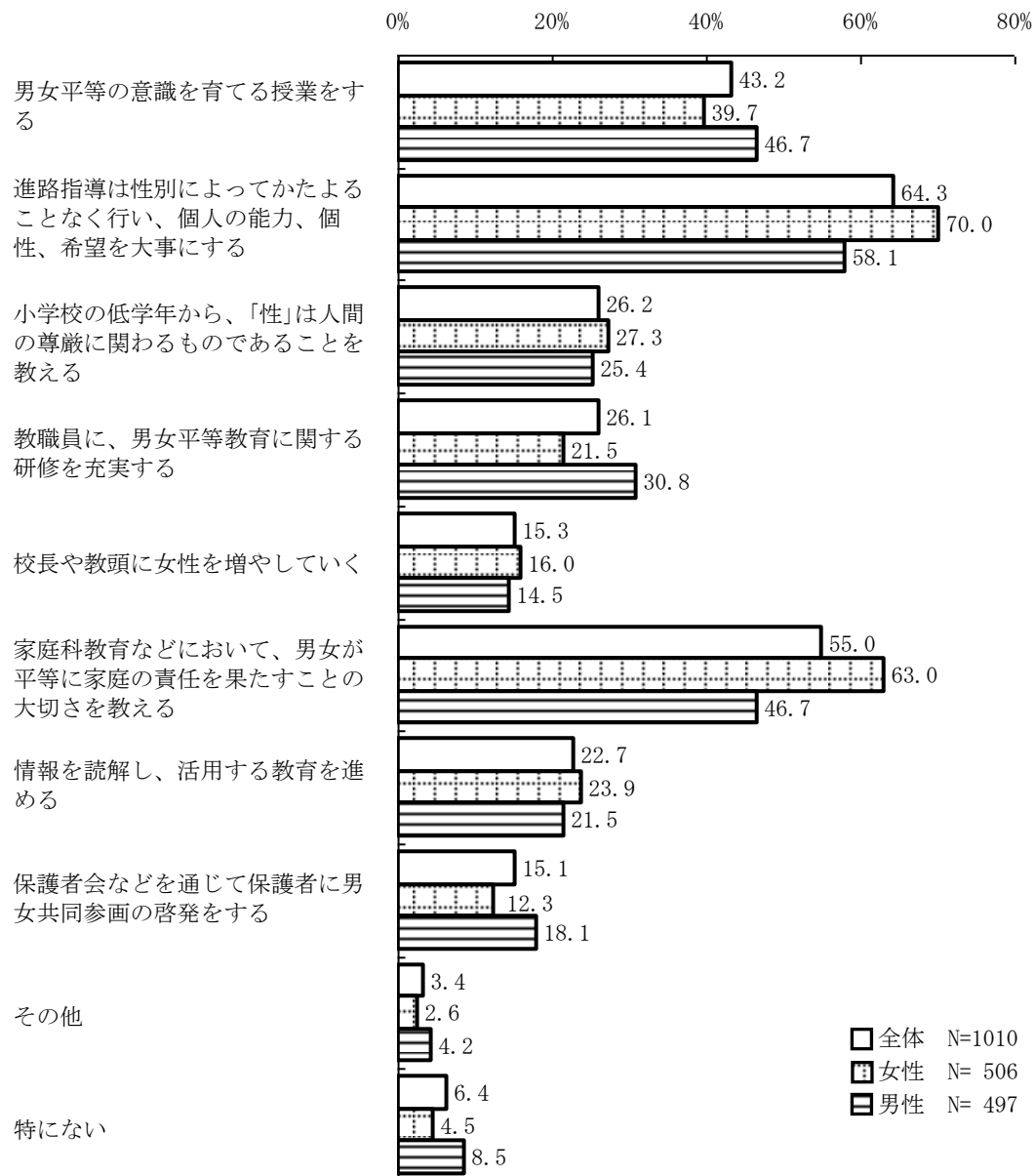
男女ともに、第1位「性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」(女性 76.4%・男性 69.5%)、2位「自分の心と体は大切なものであり、いじめや虐待に対して『ノー』を言う、誰かに相談するなど、小学校の低学年から自分を守る力を育む」(女

性 71.6%・男性 60.2%)、3 位「テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、読み解いて使いこなす力をつける教育を進める」(女性 62.0%・男性 50.0%)、4 位「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」(女性 55.9%・男性 42.9%)である。

「自分を守る力を育む」「家庭責任を果たす大切さを教える」「情報を読み解いて使いこなす力をつける教育を進める」「性的マイノリティに対する配慮をする」では、女性が 10 ポイント以上高い。

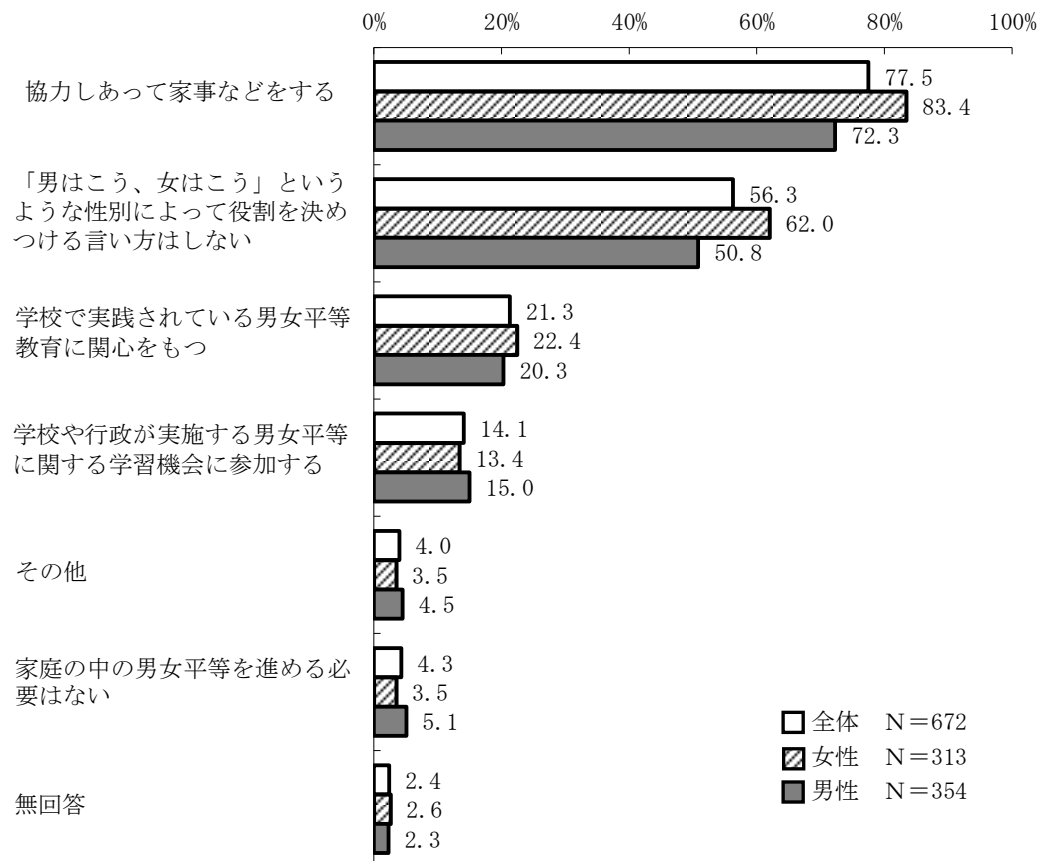
下記の平成 21 年度調査と比較すると、項目の表現の違いはあるものの、『男女平等での進路指導』、『メディア・リテラシー』は今回調査の方が高い。

【参考 平成 21 年度調査】



問19 あなたは、家庭教育の中で男女平等の考え方を育むためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

図 2-10 家庭教育の中で男女平等の考え方を育むため必要だと思うこと



■男女ともに「協力しあって家事などをする」が最も高く、女性は80%超

男女ともに「協力しあって家事などをする」（女性83.4%・男性72.3%）、「『男はこう、女はこう』というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」（女性62.0%・男性50.8%）が抜きん出て高く、また、どちらも女性の方が高くなっている。

【性別・年代別】

表2-2 性別・年代別 家庭教育の中で男女平等の考え方を育むため必要だと思うこと

(%)

		対象者数 (人)	協力しあ つて家事 などを する	「男はこ う、女は こう」 というよ うな性別 によつて 役割を決 めつける 言い方は しない	学校で実 践されて いる男女 平等教育 に関心を もつ	学校や行 政が実施 する男女 平等に関 する学習 機会に参 加する	その他	家庭の中 の男女平 等を進め る必要は ない	無回答
女性	20 歳代	35	77.1	62.9	11.4	14.3	-	5.7	-
	30 歳代	64	84.4	53.1	18.8	9.4	6.3	4.7	3.1
	40 歳代	57	91.2	63.2	17.5	12.3	-	1.8	-
	50 歳代	35	85.7	71.4	17.1	2.9	2.9	5.7	-
	60 歳代	60	85.0	76.7	31.7	11.7	3.3	3.3	-
	70 歳以上	62	75.8	50.0	30.6	25.8	6.5	1.6	9.7
男性	20 歳代	31	80.6	71.0	19.4	16.1	6.5	-	-
	30 歳代	56	82.1	57.1	17.9	16.1	-	7.1	1.8
	40 歳代	72	59.7	43.1	9.7	6.9	6.9	11.1	1.4
	50 歳代	46	82.6	50.0	15.2	10.9	6.5	4.3	-
	60 歳代	71	67.6	50.7	16.9	15.5	4.2	2.8	5.6
	70 歳以上	78	71.8	46.2	38.5	23.1	3.8	2.6	2.6

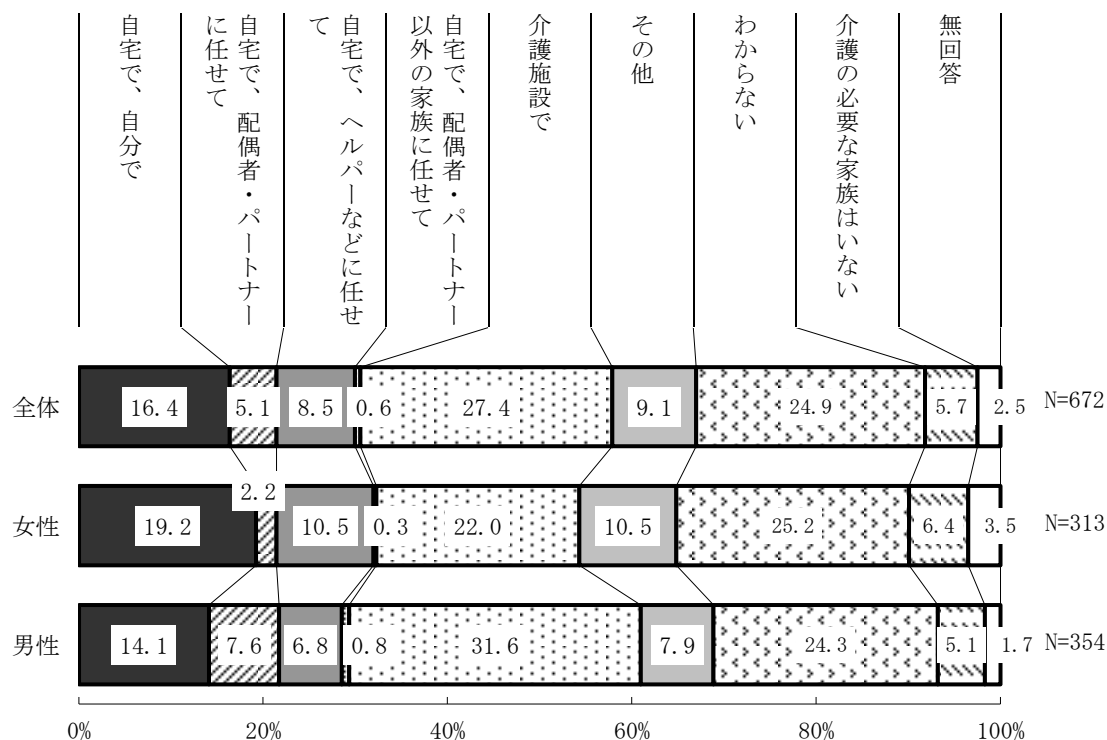
年代別でみると、男女とも全ての年代で「協力しあつて家事などをする」が最も高く、女性では40歳代が91.2%、男性では50歳代が82.6%と最も高い。

女性の50、60歳代と男性の20歳代では『男はこう、女はこう』というような性別によって役割を決めつける言い方はしない」が他の年代より高く、70%台である。

男性の40歳代では、「家庭の中の男女平等を進める必要はない」が他の年代より高く11.1%で、その分、他の項目での割合は低くなっている。

問 20 もし、家族が介護を必要とする状態になった場合、あなたは、どのような方法でその家族の世話をすると思いますか。(○は1つ)

図 2-11 家族が介護を必要とする状態になった場合、世話をする方法



■男女とも「介護施設で」が最も高く、男性の方が高い

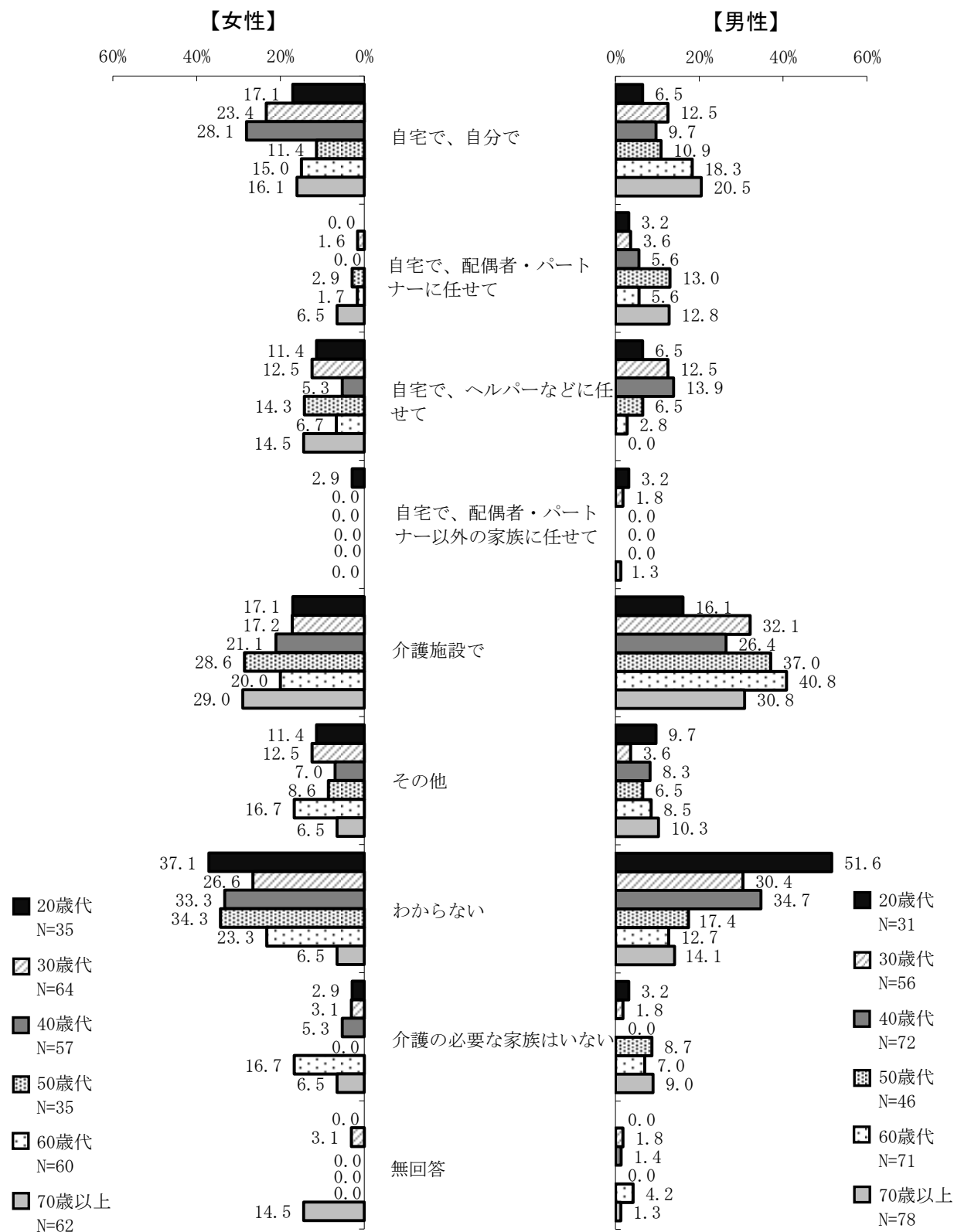
女性では、「介護施設で」が 22.0%で最も高いものの、男性よりも 9.6 ポイント低い。次いで、「自宅で、自分で」が 19.2%、「自宅で、ヘルパーなどに任せて」「その他」が各 10.5%である。『自宅で』*は 32.2%である。

男性では、「介護施設で」の割合が最も高く、31.6%。次いで、「自宅で、自分で」が 14.1%、「その他」が 7.9%、「自宅で、配偶者・パートナーに任せて」が 7.6%、「自宅で、ヘルパーなどに任せて」が 6.8%である。『自宅で』は 29.3%である。

*『自宅で』とは、「自宅で、自分で」「自宅で、配偶者・パートナーに任せて」「自宅で、ヘルパーなどに任せて」「自宅で、配偶者・パートナー以外の家族に任せて」の合計

【性別・年代別】

図 2-12 性別・年代別 家族が介護を必要とする状態になった場合、世話をする方法



年代別でみると、女性は、30歳代と40歳代で「自宅、自分で」が高く、50歳代と70歳以上で「介護施設で」が高くなっている。

男性は、60歳代と70歳以上で「自宅、自分で」が高く、50歳代と60歳代で「介護施設で」が高くなっている。

【性別・共働き／片働き別】

表 2-3 性別・共働き／片働き別 家族が介護を必要とする状態になった場合、世話をする方法

(%)

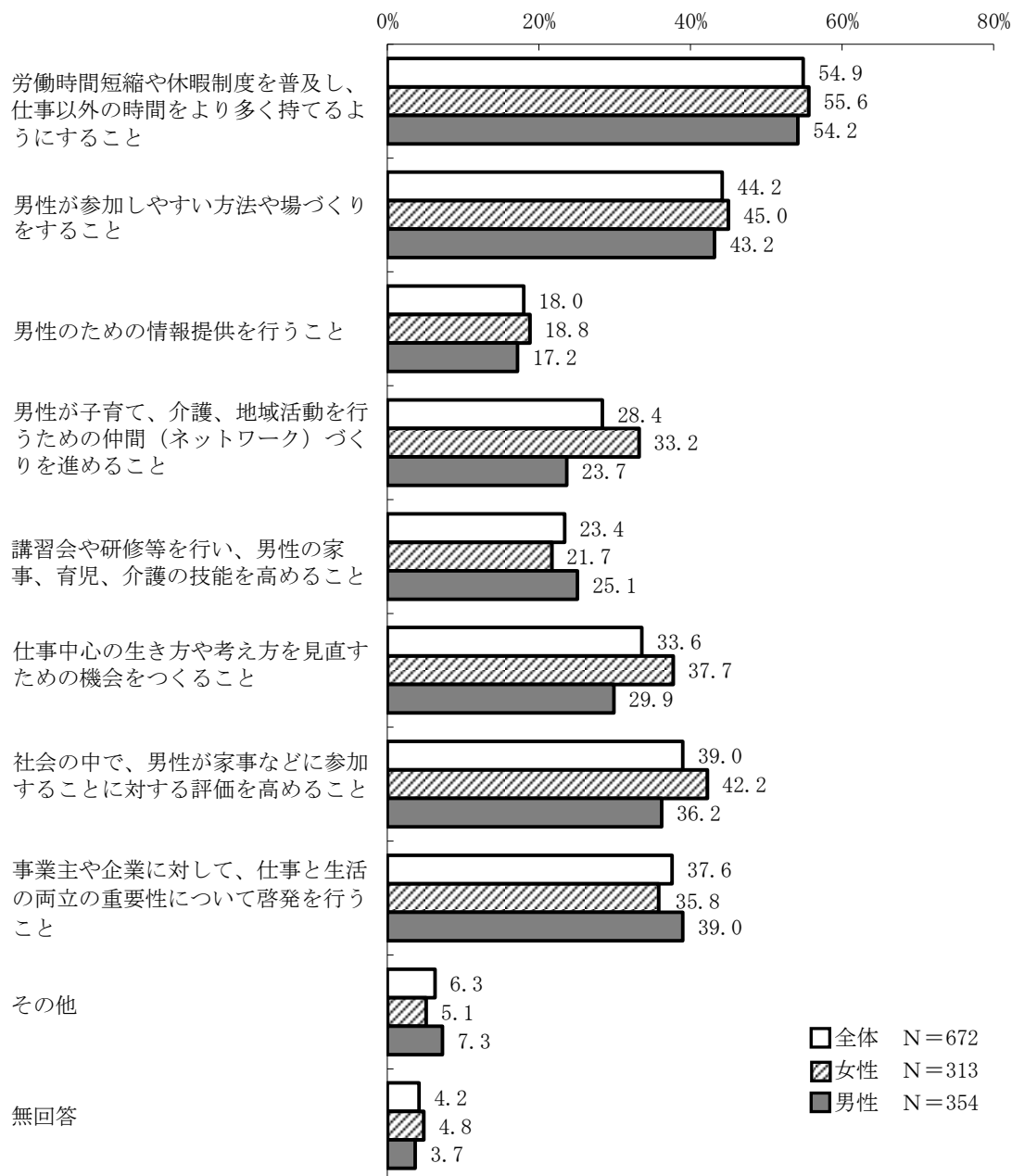
		対象者数(人)	自宅で、自分で	自宅で、配偶者・パートナーに任せて	自宅で、ヘルパーなどに任せて	自宅で、配偶者・パートナー以外の家族に任せて	介護施設で	その他	わからない	介護の必要な家族はいない	無回答
女性	共働き	98	16.3	1.0	6.1	1.0	27.6	11.2	28.6	8.2	-
	片働き (夫が有職)	59	18.6	5.1	6.8	-	22.0	10.2	33.9	3.4	-
	片働き (妻が有職)	8	12.5	12.5	12.5	-	12.5	12.5	37.5	-	-
男性	共働き	118	9.3	5.9	10.2	0.8	32.2	4.2	30.5	5.9	0.8
	片働き (夫が有職)	90	11.1	8.9	4.4	1.1	40.0	7.8	22.2	2.2	2.2
	片働き (妻が有職)	12	50.0	-	-	-	16.7	8.3	16.7	8.3	-

共働き／片働き別でみると、女性では、共働きで「介護施設で」がやや高くなっているものの、共働きと片働き（夫が有職）での違いはほとんどない。

男性では、共働きで「自宅で、ヘルパーなどに任せて」が 10.2%で高く、片働き（夫が有職）で「介護施設で」が 40.0%で高い。

問 21 あなたは、今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

図 2-13 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと



■「仕事以外の時間を持てるようにする」「男性が参加しやすい方法や場づくり」が必要

女性では、第1位「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（55.6%）、2位「男性が参加しやすい方法や場づくりをすること」（45.0%）、3位「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること」（42.2%）である。

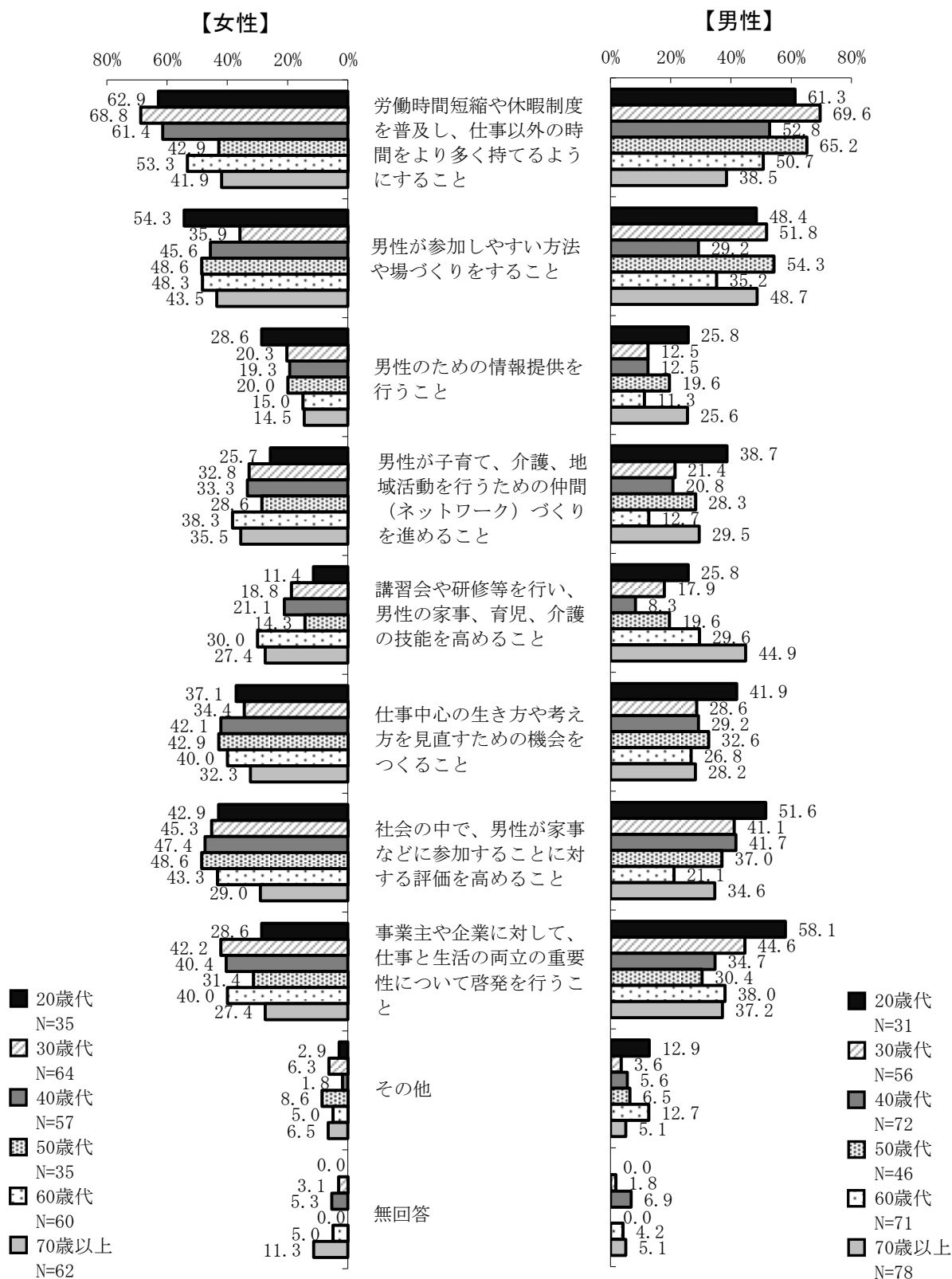
男性では、第1位「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（54.2%）、2位「男性が参加しやすい方法や場づくりをすること」（43.2%）、3位「事業主や企業に対して、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行うこと」（39.0%）である。

また、「男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること」

(女性 33.2%・男性 23.7%) は 9.5 ポイント、「仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること」(女性 37.7%・男性 29.9%) は 7.8 ポイント、女性の方が高くなっている。

【性別・年代別】

図 2-14 性別・年代別 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと



年代別でみると、女性では、20～40 歳代で「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 60%を超え、特に 30 歳代では 68.8%と高い。また、20 歳代で「男性のための情報提供を行うこと」が他の年代より高い。

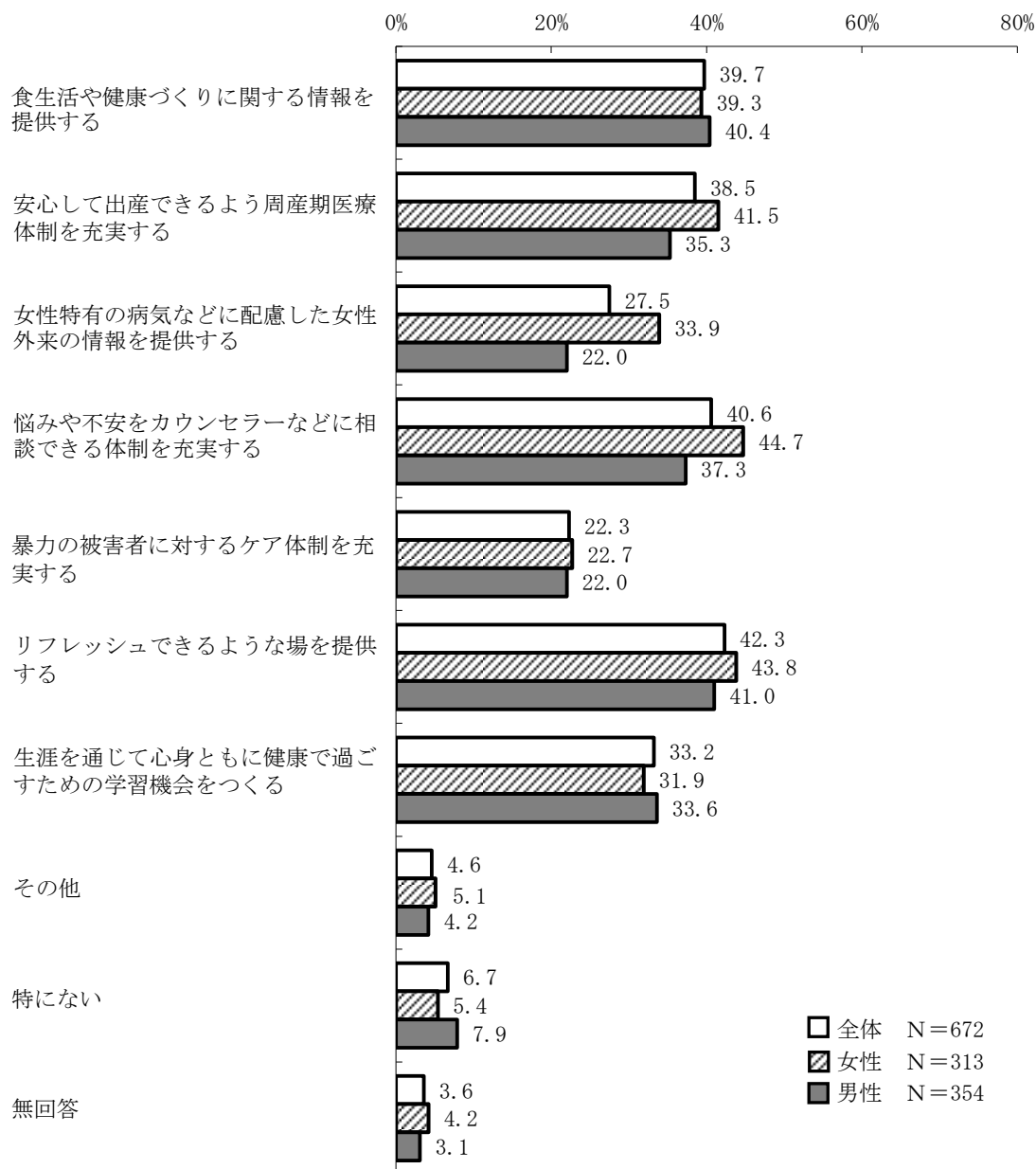
男性では、20 歳代で「男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること」、「仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること」、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること」、「事業主や企業に対して、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行うこと」が他の年代より高い。

30、50 歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 69.6%、65.2%と高い。

70 歳以上では、「講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高めること」が 44.9%で他の年代より 15 ポイント以上高い。

問 22 心と体の健康を保つために、長岡京市はどのような取組をする必要があると思いますか。
(〇はいくつでも)

図 2-15 心と体の健康を保つために、長岡京市に必要な取組



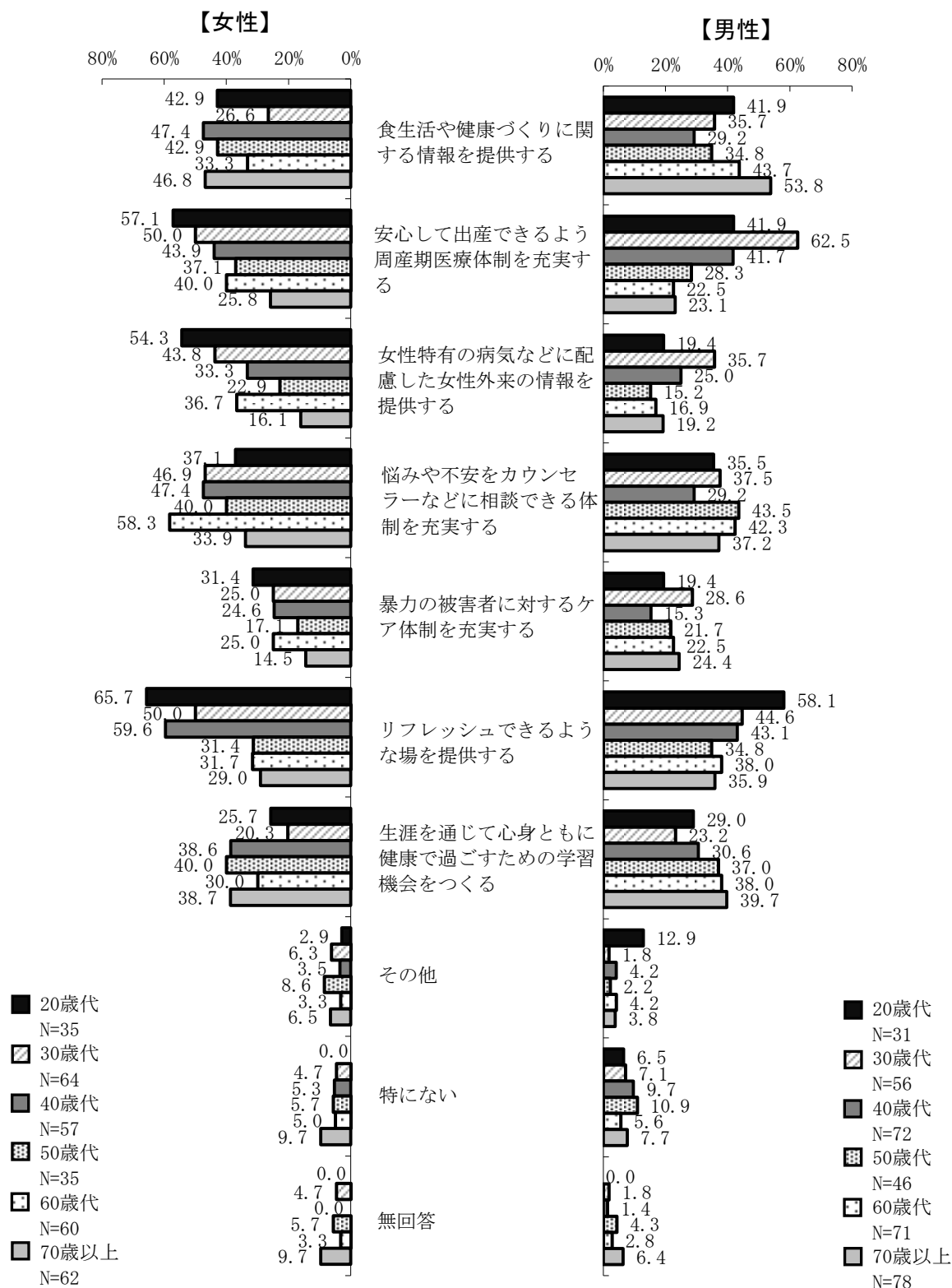
■ 「リフレッシュできる場の提供」「相談体制の整備」「食生活等の情報提供」「周産期医療体制の充実」への希望が高い

女性では、第1位「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する」(44.7%)、2位「リフレッシュできるような場を提供する」(43.8%)、3位「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」(41.5%)である。次いで、「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる」が30%台である。

男性では、第1位「リフレッシュできるような場を提供する」(41.0%)、2位「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」(40.4%)、3位「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する」(37.3%)である。

【性別・年代別】

図 2-16 性別・年代別 心とからだの健康を保つために、長岡京市に必要な取組

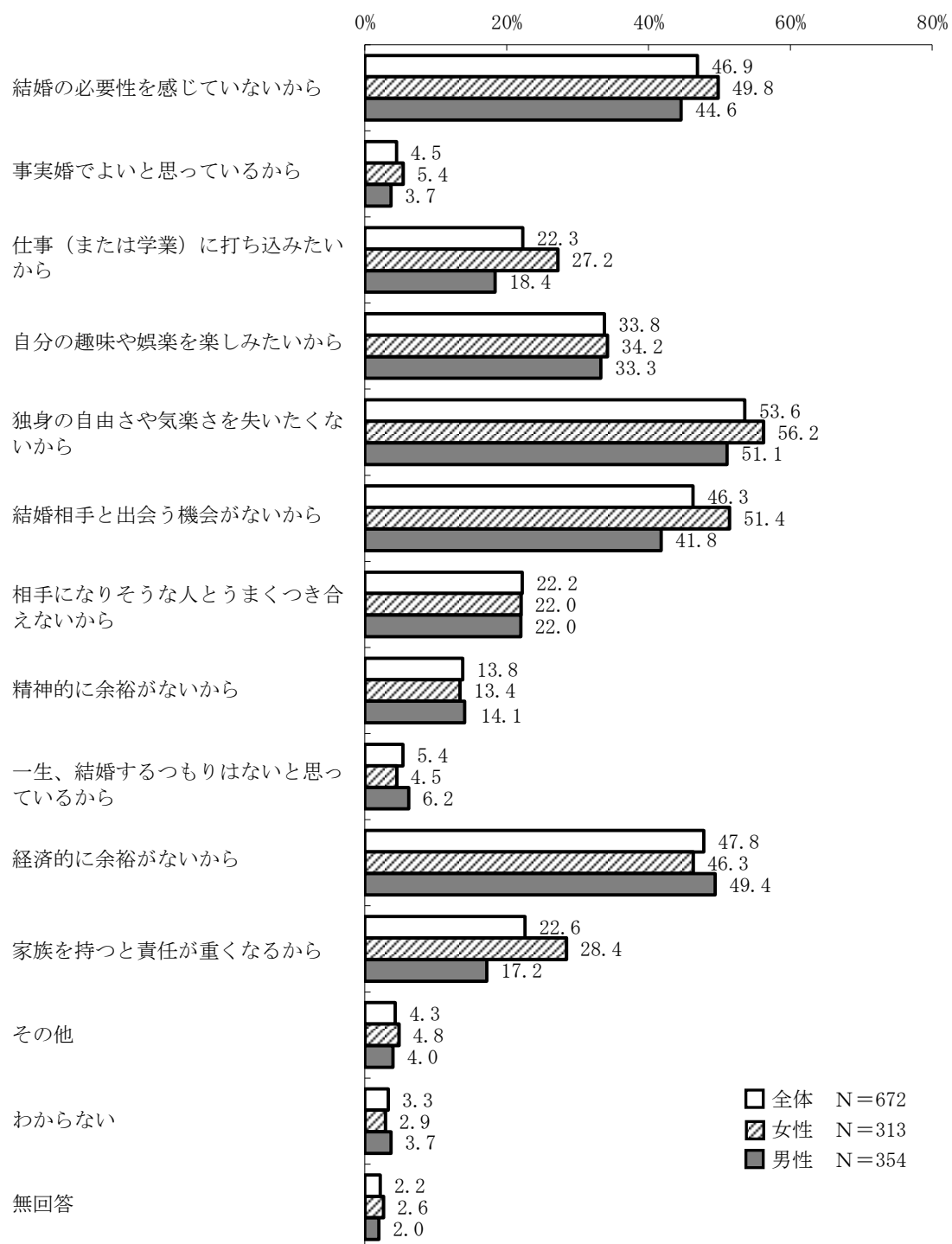


年代別でみると、女性では、40歳代以下で「リフレッシュできるような場を提供する」が高く、20歳代では「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」も高い。

男性では、20歳代で「リフレッシュできるような場を提供する」が高く、30歳代で「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」が高い。

問 23 若い世代で「未婚」「晩婚」が増えています。その理由はどんなことだと思いますか。
(〇はいくつでも)

図 2-17 「未婚」「晩婚」が増えている理由



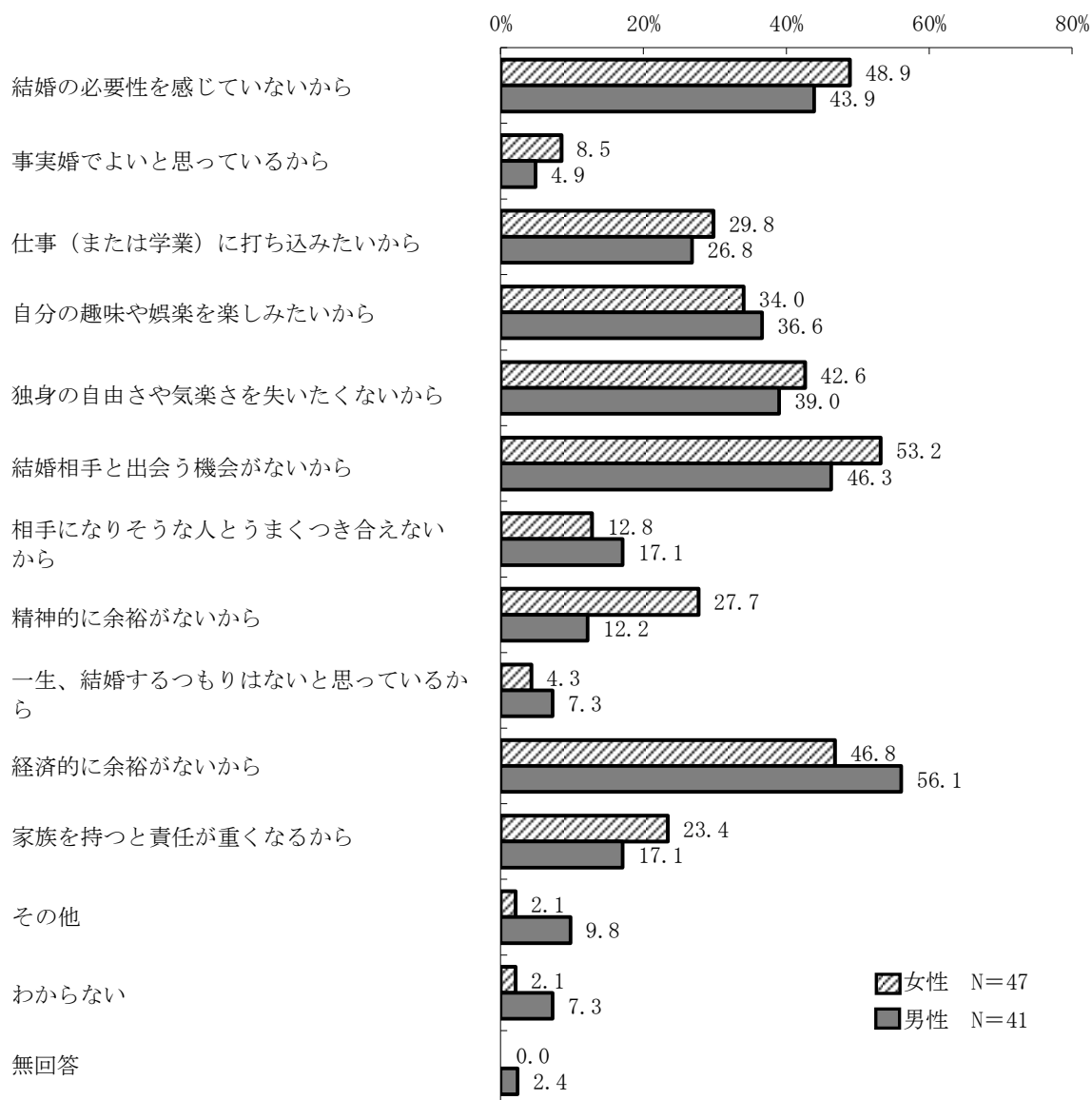
■全体では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が50%を超える

女性では、第1位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(56.2%)、2位「結婚相手と出会う機会がないから」(51.4%)、3位「結婚の必要性を感じていないから」(49.8%)である。

男性では、第1位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(51.1%)、2位「経済的に余裕がないから」(49.4%)、3位「結婚の必要性を感じていないから」(44.6%)である。

【性別・結婚していない人】

図 2-18 性別・結婚していない人 「未婚」「晩婚」が増えている理由



「結婚していない人」の結果をみると、女性では、第1位「結婚相手と出会う機会がないから」（53.2%）、2位「結婚の必要性を感じていないから」（48.9%）、3位「経済的に余裕がないから」（46.8%）である。

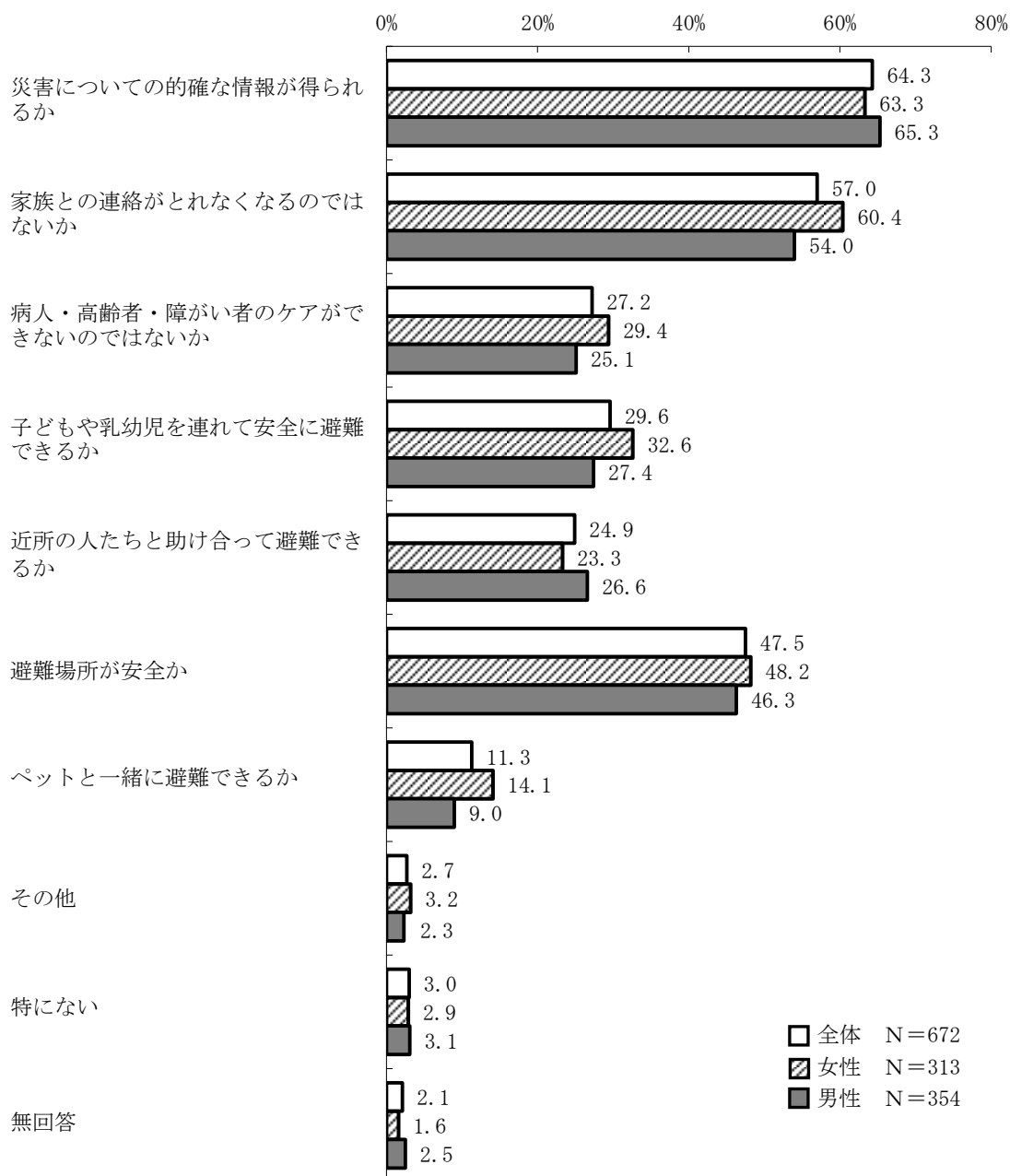
男性では、第1位「経済的に余裕がないから」（56.1%）、2位「結婚相手と出会う機会がないから」（46.3%）、3位「結婚の必要性を感じていないから」（43.9%）である。

男性の1位の「経済的に余裕がないから」では男女で約10ポイントの開きがある。

「全体」（前頁図2-17参照）と比較すると、最も高かった「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」は、男女ともに10ポイント以上低く、女性では「相手になりそうな人とうまくつき合えないから」も約10ポイント低くなっている。「精神的に余裕がないから」は女性で14.3ポイント高くなっている。

問 24 大きな地震などの災害時に避難する必要がある場合、あなたが特に心配なことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

図 2-19 災害時に避難する必要がある場合、特に心配なこと

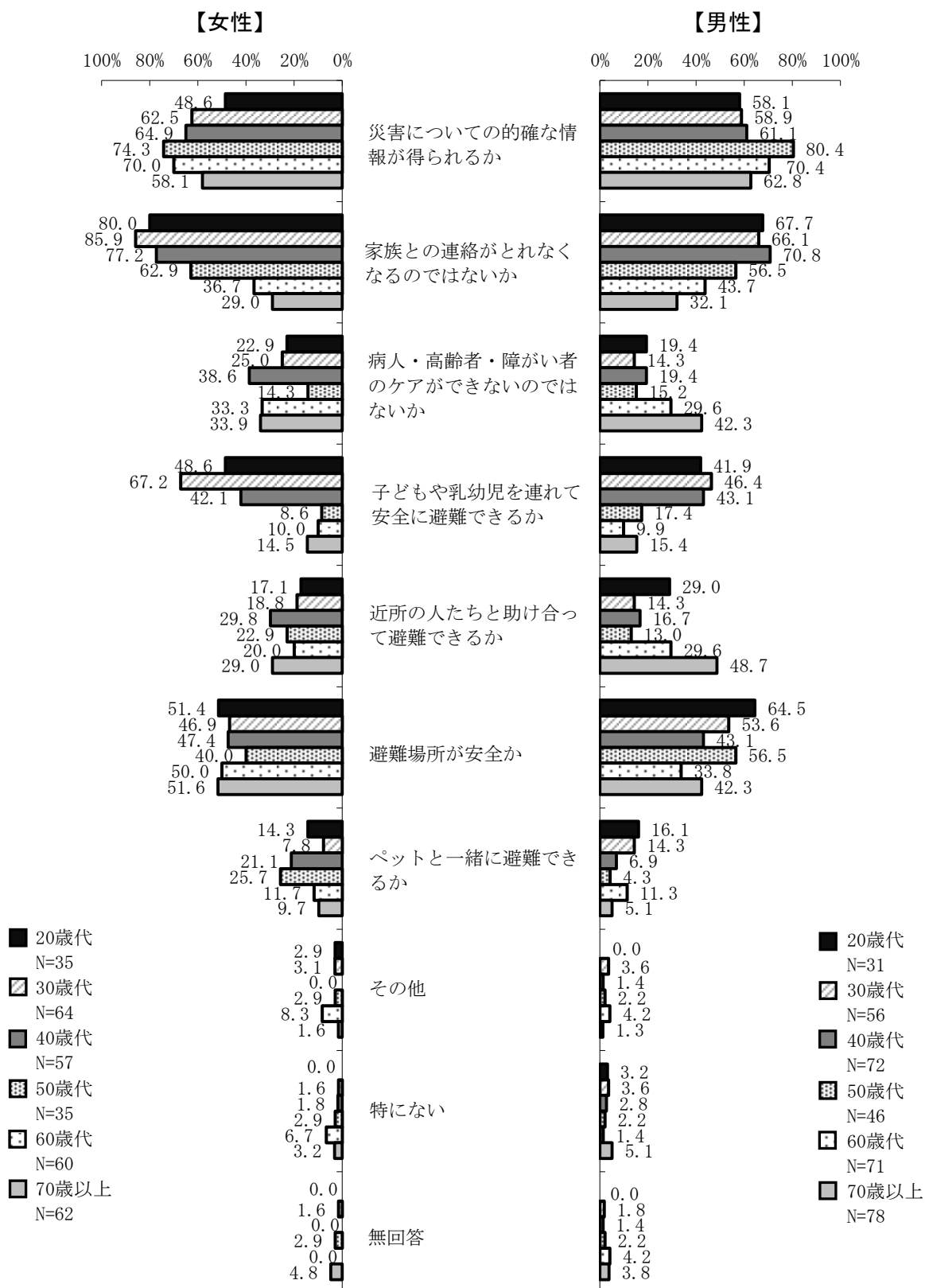


■災害時の避難で特に心配なことは「的確な情報」と「家族との連絡」

男女とも、「災害についての的確な情報が得られるか」(女性 63.3%・男性 65.3%)、「家族との連絡がとれなくなるのではないかな」(女性 60.4%・男性 54.0%)が高く、次いで、「避難場所が安全かな」(女性 48.2%・男性 46.3%)が続く。いずれの項目も男女で大きな違いはみられない。

【性別・年代別】

図 2-20 性別・年代別 災害時に避難する必要がある場合、特に心配なこと



年代別でみると、20～40 歳代では、男女ともに「家族との連絡がとれなくなるのではないかな」「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるかな」が高い。また、50 歳代では男女ともに「災害についての的確な情報が得られるかな」が年代層の中で最も高い。

男性の 70 歳以上では、「近所の人たちと助け合って避難できるかな」が他の年代より高く 48.7%

である。

また、女性の40歳代と50歳代で「ペットと一緒に避難できるか」が20%台でやや高い。

【性別・子どもの年齢別】

表 2-4 性別・子どもの年齢別 災害時に避難する必要がある場合、特に心配なこと

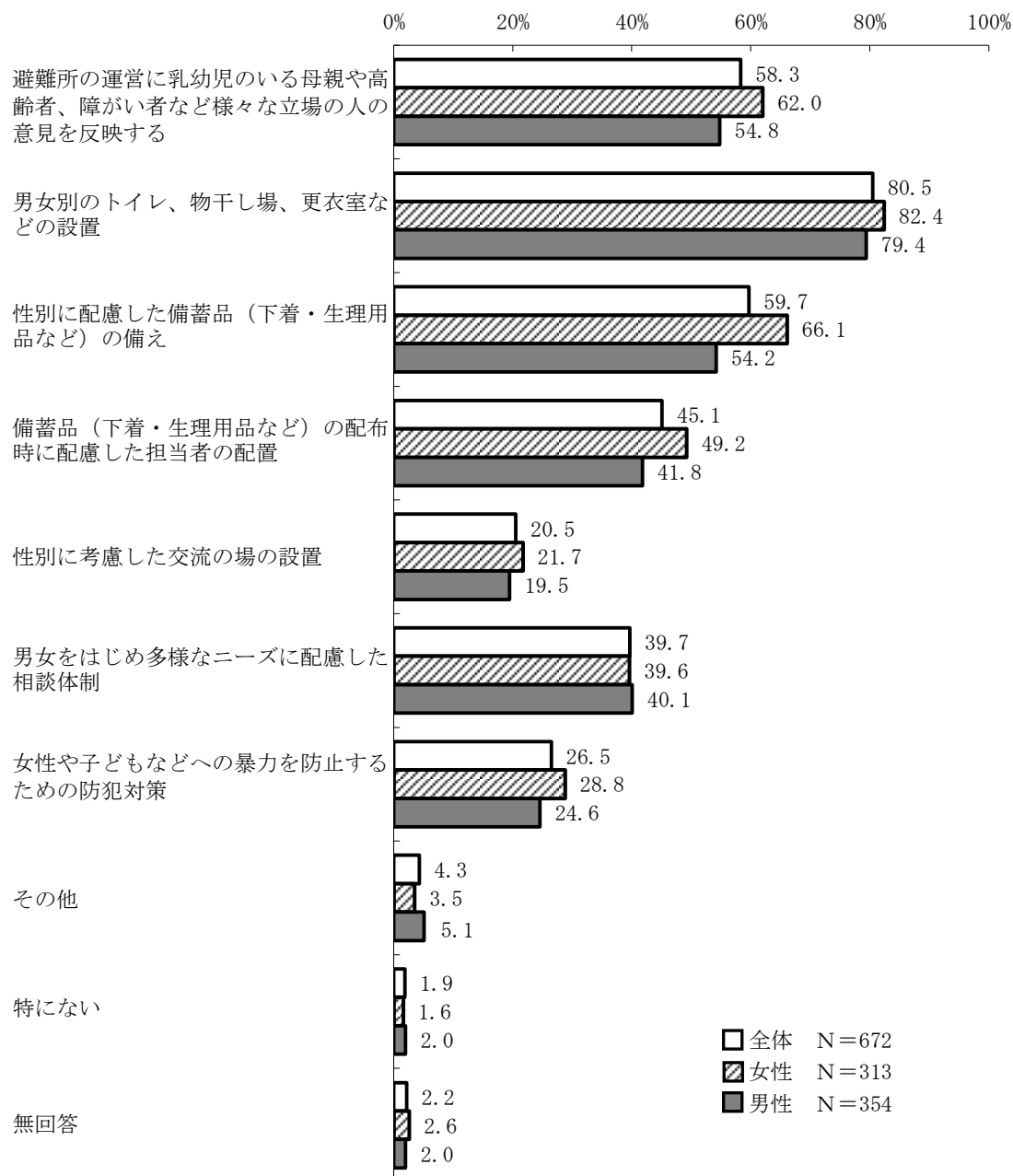
(%)

		対象者数 (人)	災害についての 的確な情報が 得られるか	家族との連絡がとれなくなる のではないか	病人・高齢者・障がい者のケア ができないのではないか	子どもや乳幼児を連れて安全 に避難できるか	近所の人たちと助け合って避 難できるか	避難場所が安全か	ペットと一緒に避難できるか	その他	特 に な い	無 回 答
女性	0歳～就学前	53	50.9	79.2	11.3	92.5	9.4	32.1	9.4	3.8	-	-
	小学生	39	56.4	87.2	25.6	71.8	23.1	46.2	10.3	2.6	-	-
	中学生～社会人	163	68.1	47.2	31.9	17.2	22.7	49.7	14.7	3.7	3.7	1.2
男性	0歳～就学前	50	60.0	74.0	14.0	78.0	16.0	56.0	4.0	2.0	-	-
	小学生	48	60.4	70.8	18.8	54.2	20.8	45.8	10.4	2.1	2.1	2.1
	中学生～社会人	210	67.1	48.6	31.0	18.1	32.9	41.0	8.1	2.9	2.4	3.8

子どもの年齢別でみると、男女とも、「0歳～就学前」は「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか」、「小学生」は「家族との連絡がとれなくなるのではないか」、「中学生～社会人」は「災害についての的確な情報が得られるか」が最も高い。

問 25 避難所において、みんなが快適に過ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。（〇はいくつでも）

図 2-21 避難所でみんなが快適に過ごすための取組



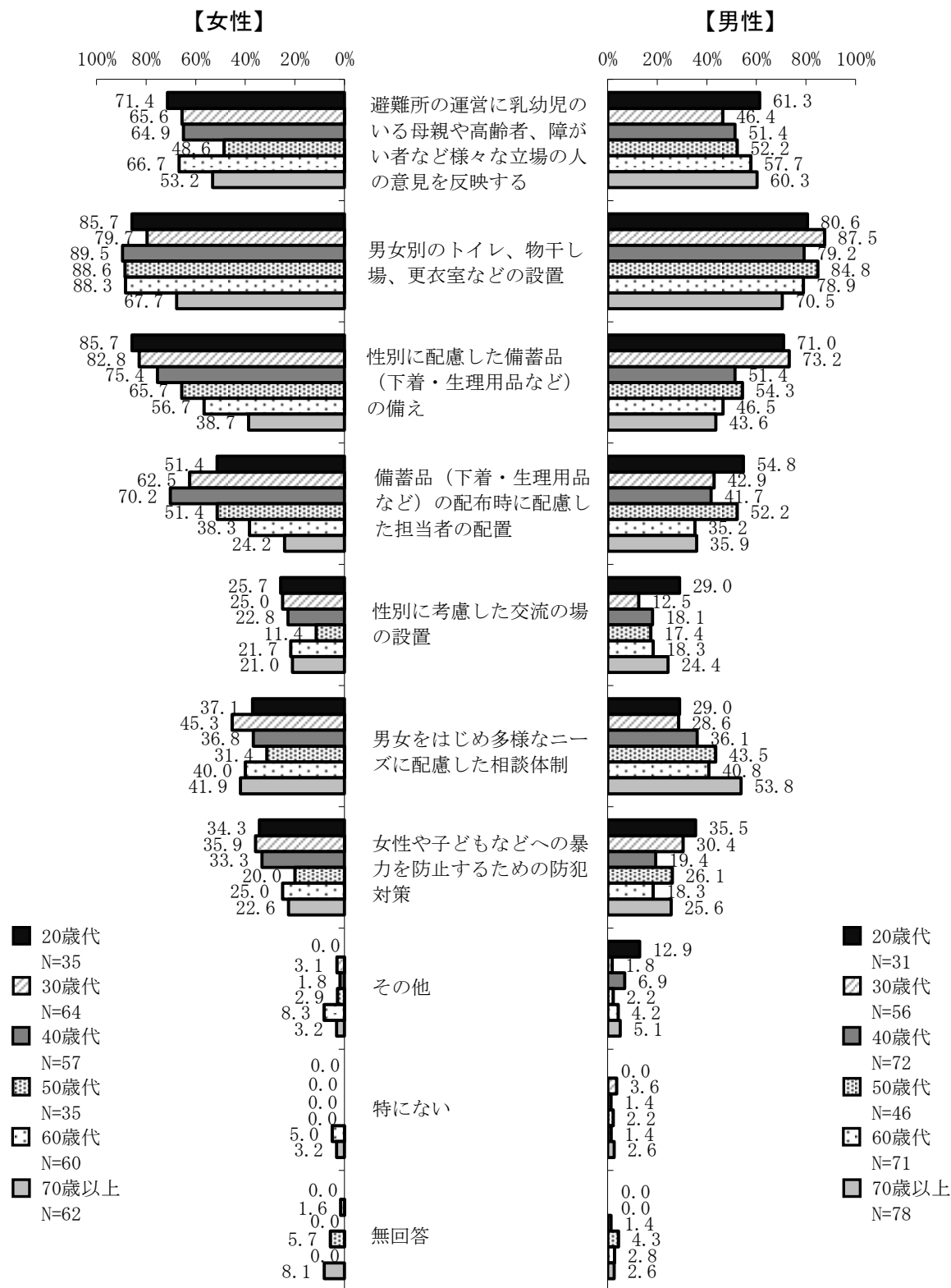
■男女とも「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」を約 80%が挙げている

女性では、第1位「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」（82.4%）、2位「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」（66.1%）、3位「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」（62.0%）である。

男性では、第1位「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」（79.4%）、2位「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」（54.8%）、3位「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」（54.2%）である。

「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」「備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置」など、ほとんどの項目で女性の方が高くなっている。

【性別・年代別】 図2-22 性別・年代別 避難所でみんなが快適に過ごすための取組



年代別でみると、女性では、「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」で年代が低いほど選択率が高い。40歳代では「備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置」が70.2%で他の年代より高い。

「女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策」では20～40歳代でその以降の年代より高い。

男性では、女性と同じく20、30歳代で「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」

が他の年代より高く、70%を超えている。70 歳以上では「男女をはじめ多様なニーズに配慮した相談体制」が 53.8%と他の年代より高い。

【性別・子どもの年齢別】

表 2-5 性別・子どもの年齢別 避難所でみんなが快適に過ごすための取組

(%)

		対象者数（人）	避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する	男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置	性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え	備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置	性別に考慮した交流の場の設置	男女をはじめ多様なニーズに配慮した相談体制	女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策	その他	特にない	無回答
女性	0 歳～就学前	53	73.6	79.2	83.0	54.7	15.1	34.0	32.1	1.9	-	-
	小学生	39	61.5	84.6	76.9	66.7	23.1	30.8	25.6	5.1	-	-
	中学生～社会人	163	56.4	83.4	57.7	42.9	21.5	39.9	23.9	4.9	3.1	2.5
男性	0 歳～就学前	50	64.0	84.0	68.0	52.0	18.0	28.0	28.0	4.0	-	-
	小学生	48	47.9	77.1	54.2	45.8	22.9	39.6	20.8	8.3	2.1	2.1
	中学生～社会人	210	56.2	78.6	49.5	41.9	20.0	45.7	22.9	5.2	1.4	2.4

子どもの年齢別でみると、女性では、「0 歳～就学前」で「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」が高く、「小学生」で「備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置」が高い。

男性では、「中学生～社会人」で「男女をはじめ多様なニーズに配慮した相談体制」が 45.7%と高い。

3. 人権の尊重について

問 26 あなたは、職場や学校、地域などにおいて次のような行為をされたことがありますか。
(○は項目ごとにいくつでも)

表 3-1 性別 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験

(%)

		対象者 数(人)	職場	学校	地域	その他 の場所
年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる	女性	313	15.7	9.9	4.2	5.8
	男性	354	9.9	9.0	2.0	2.3
卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる	女性	313	9.9	1.6	1.9	5.4
	男性	354	4.8	1.7	0.6	1.7
身体をじろじろ見られたり、触られたりする	女性	313	6.4	－	4.8	8.3
	男性	354	2.0	0.6	0.8	2.5
宴会などでお酌やデュエットを強要される	女性	313	10.9	－	0.3	5.1
	男性	354	4.0	0.3	0.8	2.0
性的なうわさを流される	女性	313	1.9	1.9	1.0	2.9
	男性	354	2.0	0.3	0.3	2.3
しつこくつきまとわれる(ストーカー行為)	女性	313	2.9	2.6	1.3	7.0
	男性	354	0.8	－	－	2.0
上記のような経験はない	女性	313	49.8	49.2	53.0	43.5
	男性	354	64.7	52.8	61.9	46.3

■「職場」「学校」「地域」でのセクシュアル・ハラスメント等の被害は少ないとは言えない

＜職場＞では、女性の 49.8%、男性の 64.7%が「上記のような経験はない」と答えており、女性の 50.2%、男性の 35.3%が何らかの被害経験があることになる。

女性では、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が 15.7%、「宴会などでお酌やデュエットを強要される」が 10.9%、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」が 9.9%である。

男性では、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が 9.9%で、それ以外は 5%未満である。

＜学校＞では、女性の 49.2%、男性の 52.8%が「上記のような経験はない」と答えており、女性の 50.8%、男性の 47.2%が何らかの被害経験があることになる。

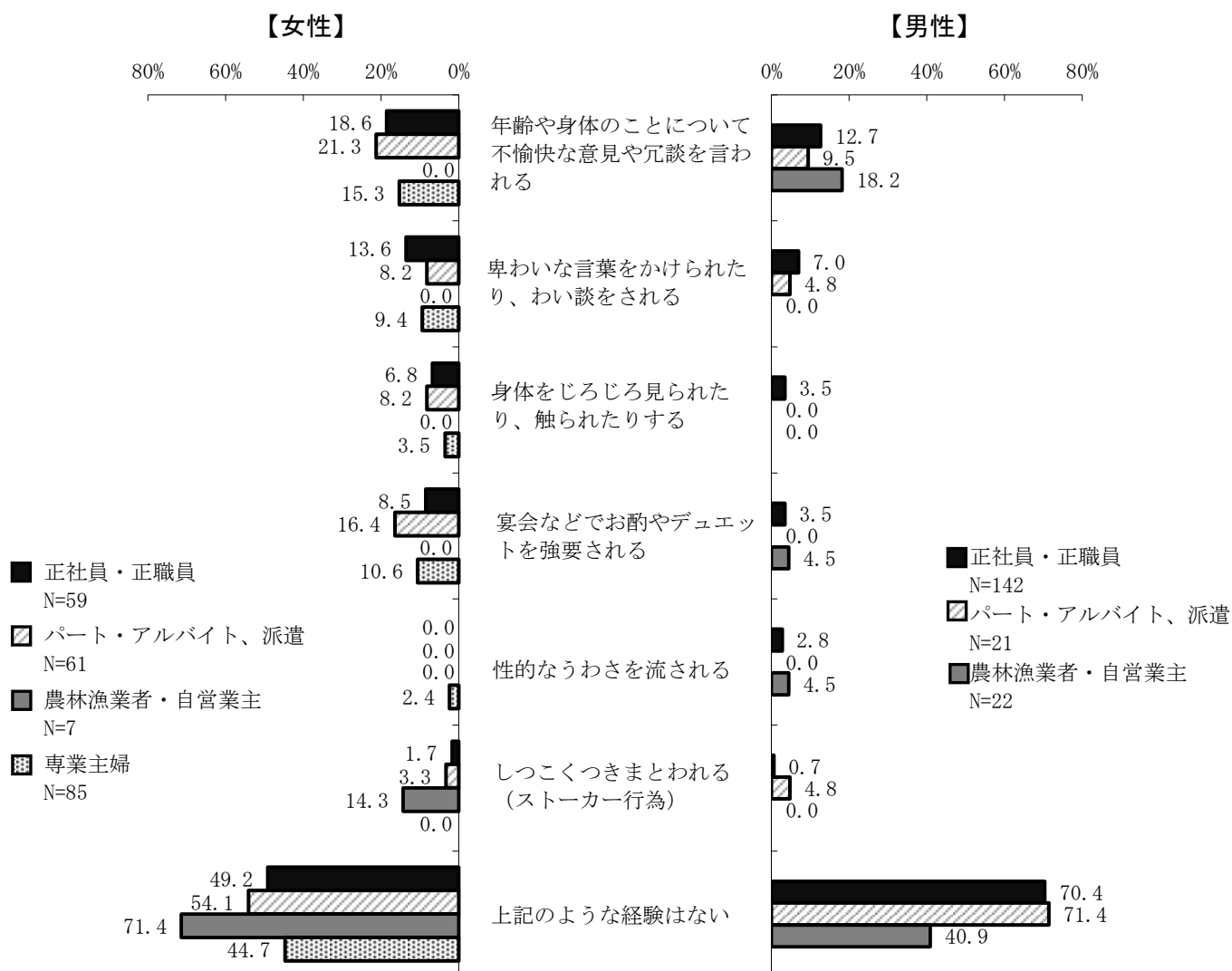
男女ともに「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が高く、女性 9.9%・男性 9.0%である。

＜地域＞では、女性の 53.0%、男性の 61.9%が「上記のような経験はない」と答えており、女性の 47.0%、男性の 38.1%が何らかの被害経験があることになる。

女性では、「身体をじろじろ見られたり、触られたりする」「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」がそれぞれ 4.8%、4.2%である。

【性別・職業別】

図 3-1 性別・職業別 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験【職場】



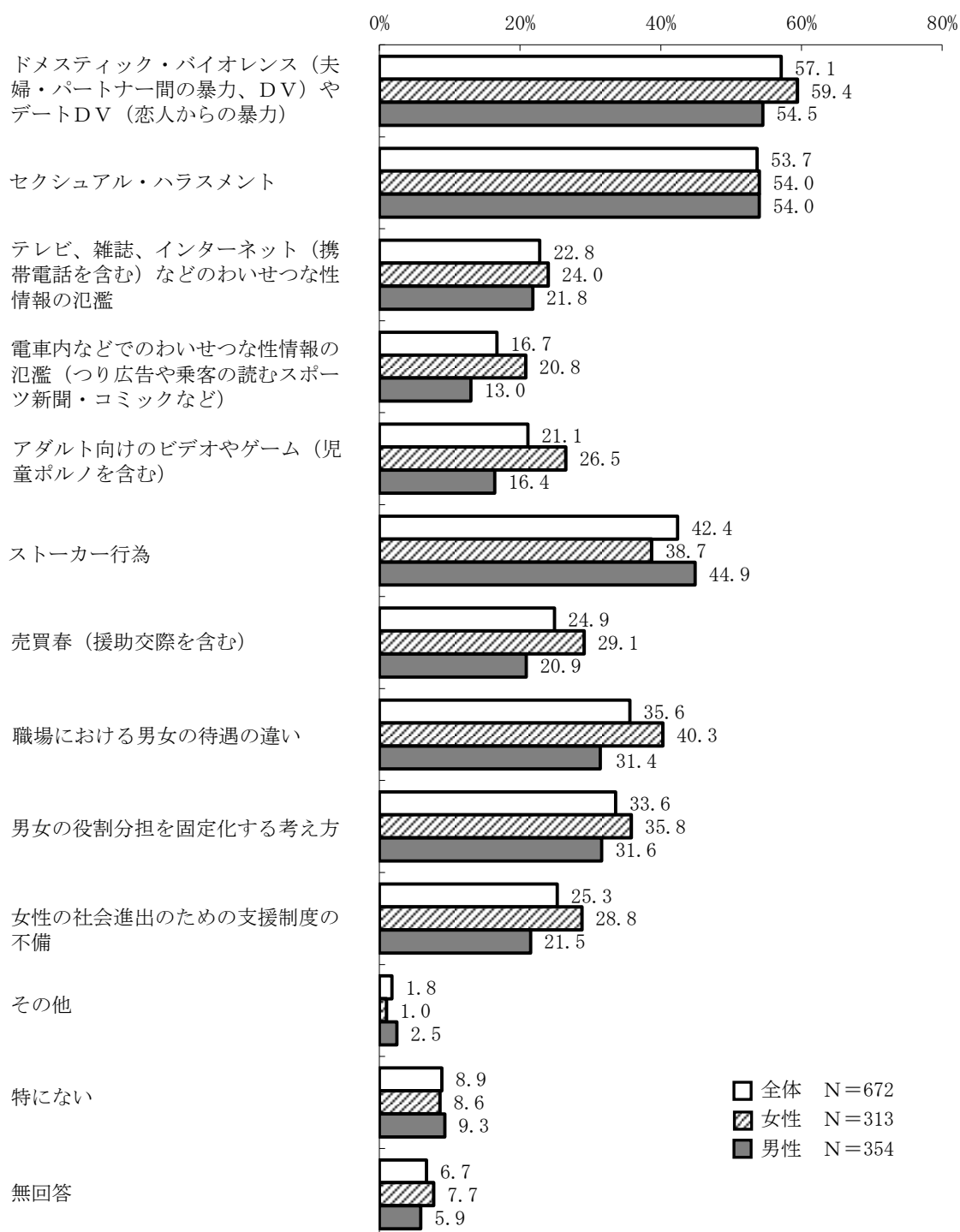
＜職場＞におけるセクシュアル・ハラスメント等の被害の経験を職業別でみると、女性では、「正社員・正職員」で「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」が13.6%と他の働き方よりやや高い。

「パート・アルバイト、派遣」では「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が21.3%、「宴会などでお酌やデュエットを強要される」が16.4%で、他の職業よりも高い。

男性では、「農林漁業者・自営業主」で「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が18.2%と他の働き方より高い。

問 27 あなたが、女性の人権が侵害されていると思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

図 3-2 女性の人権が侵害されていると思うこと



■人権侵害されていると思う割合は、女性の方が高い

女性では、第1位「ドメスティック・バイオレンス (夫婦・パートナー間の暴力、DV) やデートDV (恋人からの暴力)」(59.4%)、2位「セクシュアル・ハラスメント」(54.0%)、3位「職場における男女の待遇の違い」(40.3%)、4位「ストーカー行為」(38.7%)である。

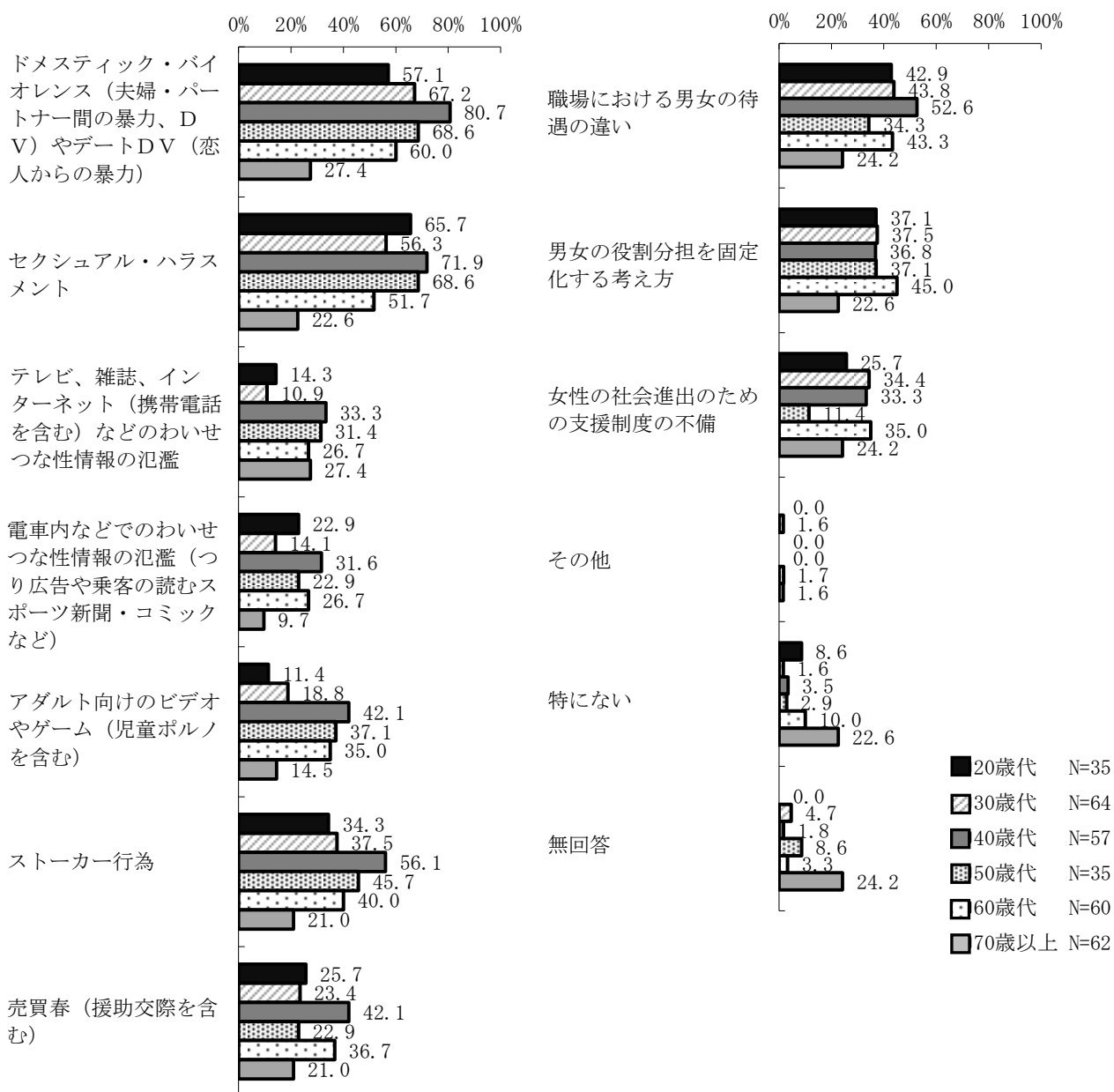
男性では、第1位「ドメスティック・バイオレンス (夫婦・パートナー間の暴力、DV) やデートDV (恋人からの暴力)」(54.5%)、2位「セクシュアル・ハラスメント」(54.0%)、3位

「ストーカー行為」(44.9%)、4位「男女の役割分担を固定化する考え方」(31.6%)である。

「電車内などでのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けビデオやゲーム」「売買春(援助交際を含む)」「職場における男女の待遇の違い」「女性の社会進出のための支援制度の不備」では、女性の方が男性より7ポイント以上高い。

【性別・年代別】

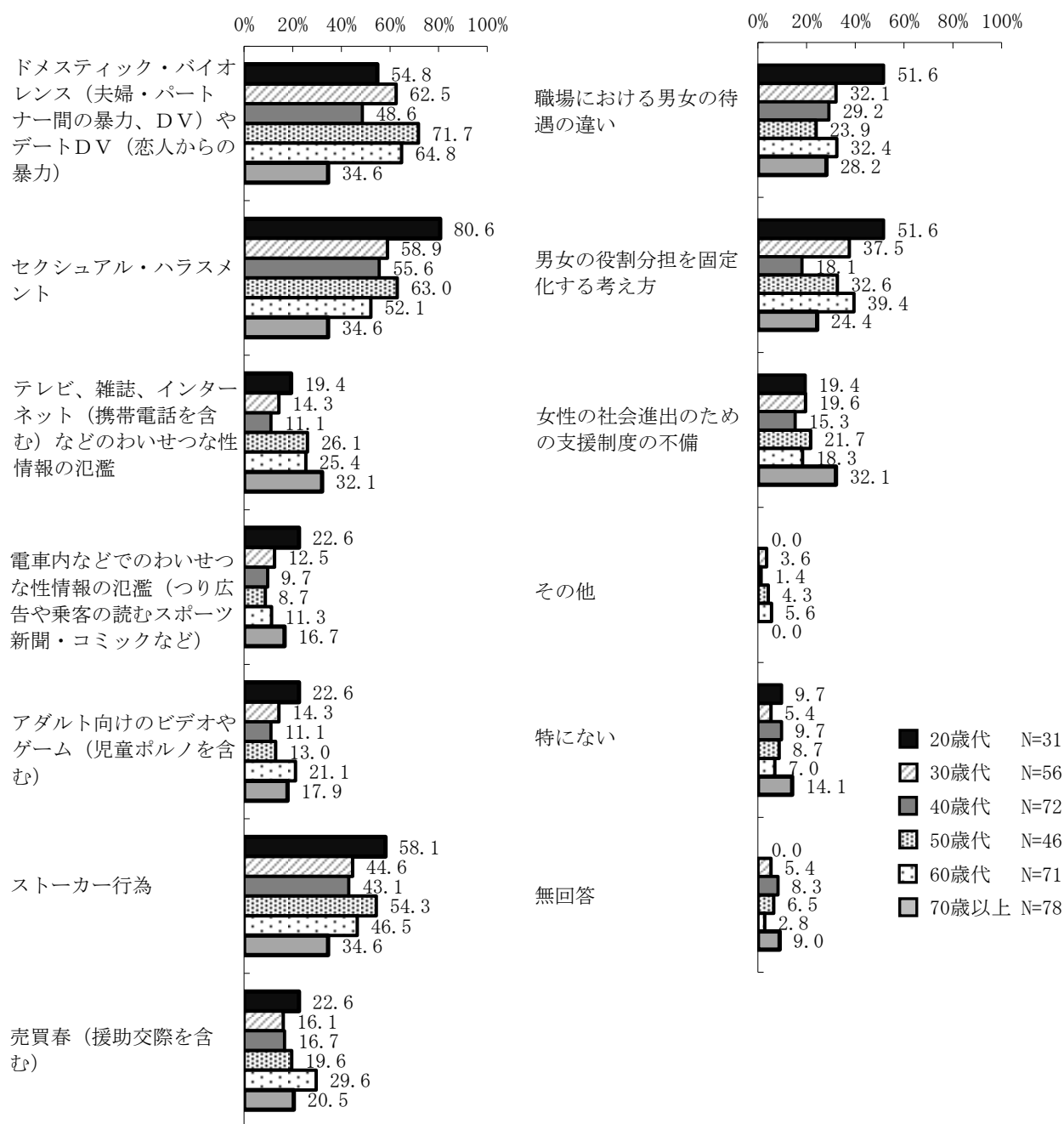
図 3-3 性別・年代別 女性の人権が侵害されていると思うこと(女性)



女性では、40歳代で「ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力、DV)やデートDV(恋人からの暴力)」「セクシュアル・ハラスメント」が高く、それぞれ80.7%、71.9%である。また、「男女の役割分担を固定化する考え方」「女性の社会進出のための支援制度の不備」を除く項目で、年代層の中で最も高い。

60歳代では「男女の役割分担を固定化する考え方」が45.0%で、他の年代よりやや高い。

図 3-4 性別・年代別 女性の人権が侵害されていると思うこと（男性）

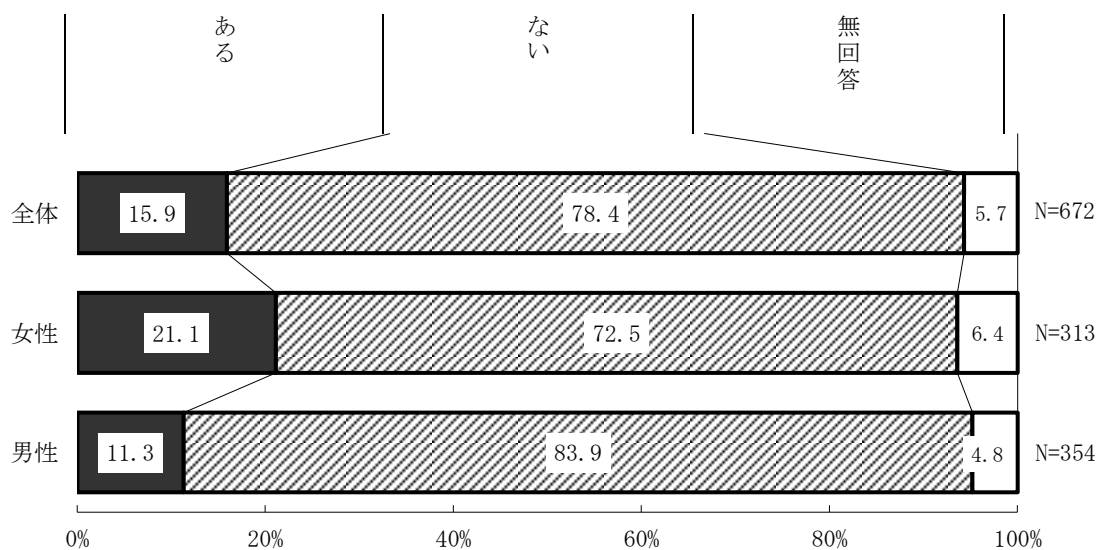


男性では、20歳代で「セクシュアル・ハラスメント」「電車内などでのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）」「ストーカー行為」「職場における男女の待遇の違い」「男女の役割分担を固定化する考え方」が他の年代より高く、「セクシュアル・ハラスメント」は80.6%である。

50歳代では「ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）」が高く71.7%である。

問 28 あなたは、これまでにご自身の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

図 3-5 人権侵害の経験の有無

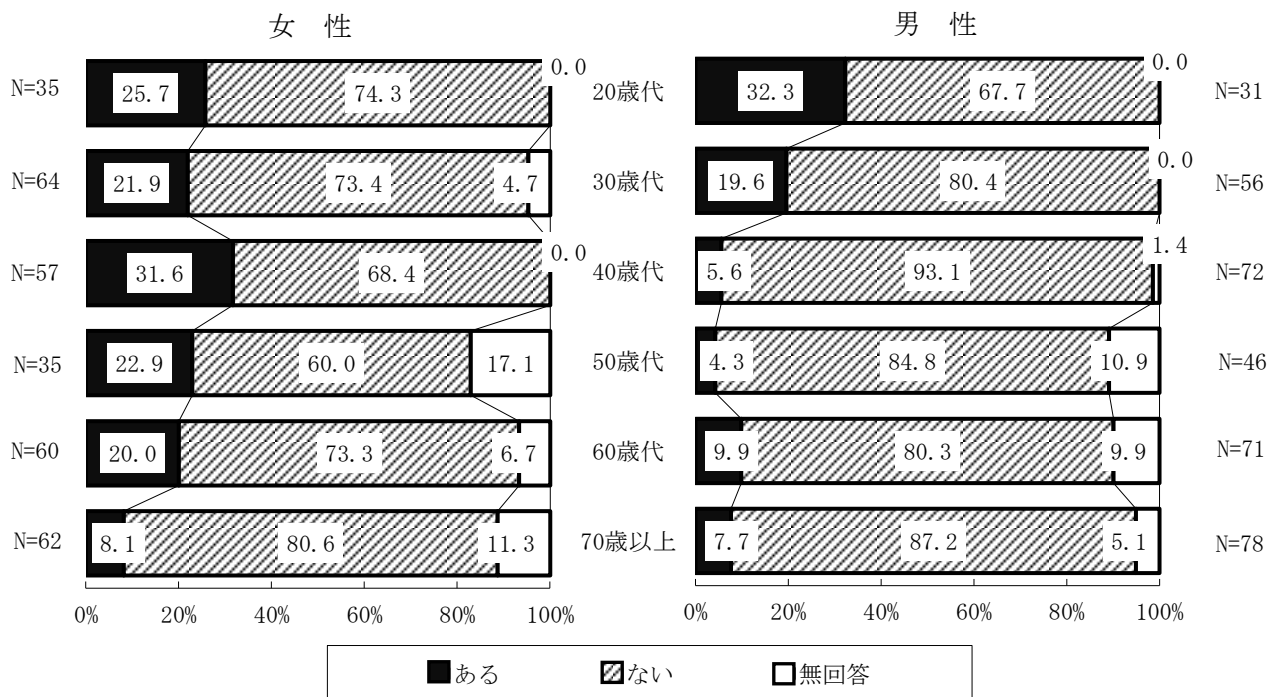


■女性の21.1%、男性の11.3%が「人権が侵害された」と感じたことがある

人権が侵害されたと感じたことが「ある」は、女性は21.1%、男性は11.3%で、女性の方が男性より約10ポイント高い。

【性別・年代別】

図 3-6 性別・年代別 人権侵害の経験の有無



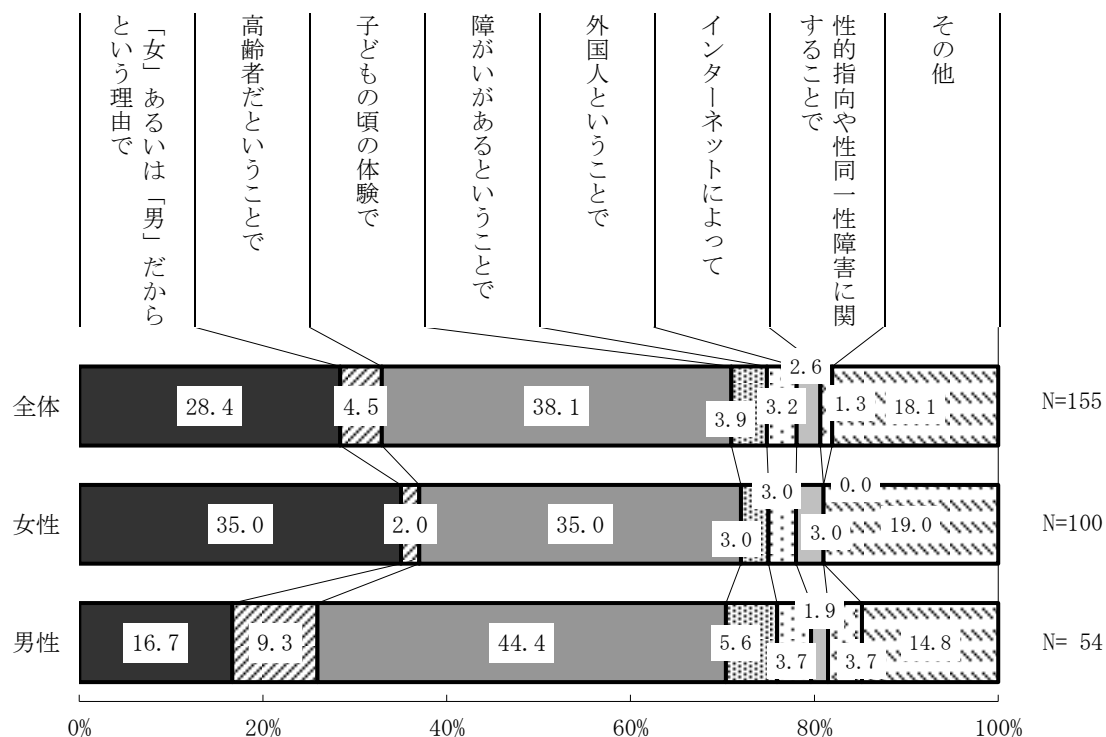
女性では、60歳代以下の年代で「ある」が20%以上で、中でも40歳代は31.6%と高い。

男性では、「ある」は、20歳代が32.3%、30歳代が19.6%と、他の年代よりも高い。40歳代以上の年代での「ある」は10%以下である。

問 28 で「1. ある」と答えた方のみお答えください。

問 28-1 それは下記のどれにあたりますか。(○は3つまで)

図 3-7 人権侵害の種類（※全体数=①～③の延べ有回答者数）



(参考) 表 3-2 性別 人権侵害の種類（※全体数=①～③の延べ有回答者数）

	上段:人数 下段:%	「女」あるいは「男」だからという理由で	高齢者だということ	子どもの頃の体験で	障がいがあるということ	外国人ということ	インターネットによって	性的指向や性同一性障害に関すること	その他
女性	100	35	2	35	3	3	3	-	19
	100.0	35.0	2.0	35.0	3.0	3.0	3.0	-	19.0
男性	54	9	5	24	3	2	1	2	8
	100.0	16.7	9.3	44.4	5.6	3.7	1.9	3.7	14.8

■男女とも、「子どもの頃の体験で」「女」あるいは「男」だからという理由で」が高い

人権が侵害されたと感じたことがある人に、その内容を3つ挙げてもらった。その延べ有回答者数をみると、女性では「『女』あるいは『男』だからという理由で」と「子どもの頃の体験で」が各35.0%である。

男性では、「子どもの頃の体験で」が最も高く44.4%、次いで「『女』あるいは『男』だからという理由で」が16.7%、「高齢者だということ」が9.3%である。「『女』あるいは『男』だからという理由で」は女性の方が18.3ポイント高い。

(参考) 表 3-3 性別・年代別 人権侵害の種類 (※全体数=①～③の延べ有回答者数)

(上段：実数、下段：%)

		対象者数	「女」あるいは「男」だからという理由で	高齢者だということ	子どもの頃の体験で	障がいがあるということ	外国人ということ	インターネットによって	性的指向や性同一性障害に関する	その他
女性	20 歳代	13 100.0	3 23.1	- -	7 53.8	- -	- -	1 7.7	- -	2 15.4
	30 歳代	21 100.0	7 33.3	- -	9 42.9	- -	1 4.8	- -	- -	4 19.0
	40 歳代	30 100.0	11 36.7	- -	9 30.0	2 6.7	2 6.7	2 6.7	- -	4 13.3
	50 歳代	12 100.0	2 16.7	- -	5 41.7	1 8.3	- -	- -	- -	4 33.3
	60 歳代	18 100.0	8 44.4	2 11.1	5 27.8	- -	- -	- -	- -	3 16.7
	70 歳以上	6 100.0	4 66.7	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2 33.3
男性	20 歳代	15 100.0	5 33.3	- -	8 53.3	1 6.7	1 6.7	- -	- -	- -
	30 歳代	15 100.0	3 20.0	- -	7 46.7	1 6.7	- -	1 6.7	1 6.7	2 13.3
	40 歳代	4 100.0	- -	2 50.0	2 50.0	- -	- -	- -	- -	- -
	50 歳代	3 100.0	- -	- -	3 100.0	- -	- -	- -	- -	- -
	60 歳代	12 100.0	1 8.3	1 8.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	- -	1 8.3	3 25.0
	70 歳以上	5 100.0	- -	2 40.0	- -	- -	- -	- -	- -	3 60.0

年代別でみると、標本数が少ないためコメントは控えるものの、女性では、「『女』あるいは『男』だからという理由で」はすべての年代で選択されている。また、「子どもの頃の体験で」は男女ともに 70 歳以上を除いた 20～60 歳代で選択されている。

問 28-1 の番号ごとにお答えください。

問 28-2 それはどのようなことですか。（下記の表に問 28-1 の番号ごとに番号を記入）

表 3-4 性別・年代別 人権侵害の種類（※全体数＝①～③の延べ有回答者数） (人)

	対象者数	悪口、かげ口など差別的な言動	じろじろ見られる	学校でのいじめ	地域での嫌がらせ	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ	セクシアル・ハラスメント	DV、高齢者虐待など	体罰や虐待（児童虐待や	性犯罪被害	アパート等への入居の拒否	結婚問題	プライバシーの流出	その他
「女」あるいは「男」だからという理由で														
女性	68	16	5	3	2	18	7	2	1	-	8	1	5	
男性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高齢者だということ														
女性	6	3	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
男性	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
子どもの頃の体験で														
女性	77	31	2	27	4	-	-	4	3	-	-	-	1	5
男性	10	5	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
障がいがあるということ														
女性	13	3	3	1	2	3	-	-	-	1	-	-	-	-
男性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外国人ということ														
女性	7	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
男性	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
インターネットによって														
女性	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
男性	4	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-
性的指向や性同一性障害に関することで														
女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	3	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
その他														
女性	32	6	4	-	1	11	1	1	-	-	2	1	5	
男性	8	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	3

■子どもの頃の体験は「悪口、かげ口など差別的な言動」が高い

標本数が2桁の項目（「その他」は除く）は、「『女』あるいは『男』だからという理由で」「子どもの頃の体験で」「障がいがあるということ」である。

＜「女」あるいは「男」だからという理由で＞

女性では、「就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ」が68人中18人で最も高く、次いで「悪口、

かげ口など差別的な言動」が 16 人、「結婚問題」が 8 人、「セクシュアル・ハラスメント」が 7 人である。

＜子どもの頃の体験で＞

女性では、「悪口、かげ口など差別的な言動」（77 人中 31 人）、「学校でのいじめ」（27 人）が抜き出て高い。次いで、「地域での嫌がらせ」「体罰や虐待（児童虐待やDV、高齢者虐待など）」が 4 人、「性犯罪被害」が 3 人である。

男性では、「悪口、かげ口など差別的な言動」が 10 人中 5 人、「じろじろ見られる」「学校でのいじめ」が 2 人である。

＜障がいがあるということ＞

女性では、「悪口、かげ口など差別的な言動」「じろじろ見られる」「就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ」が 13 人中各 3 人、次いで、「地域での嫌がらせ」が 2 人、「学校でのいじめ」「アパート等への入居の拒否」が各 1 人である。

その他の項目については、標本数が少ないために分析を控える。

【自由記述】

性別	問 28-1 人権侵害の方法	問 28-2 人権侵害の具体的な内容
1. 「女」あるいは「男」だからという理由で		
女性	悪口、かげ口など差別的な言動	子どものことで
		出産経験の有無で
		女なのに夜遅くまで飲みに行くな
	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ	何時間も退職強要
		子どもが来ると、女性は仕事しづらい。独身の時とは仕事の仕方を変えないといけない
		男女の待遇が明らかに違う
	セクシュアル・ハラスメント	結婚しないのか、子どもは産まないのかと発言される
	体罰や虐待(児童虐待やDV、高齢者虐待など)	DV
		夫のDV
その他	女は子を持って一人前、子どもがいないのは不完全	
男性	その他	育児
		電車にて女性だけ専用車両があること
3. 子どもの頃の体験で		
女性	悪口、かげ口など差別的な言動	中学校の頃、いじめにあった

	学校でのいじめ	中学校の頃、いじめにあった
	体罰や虐待(児童虐待やDV、高齢者虐待など)	母は私の兄弟に体罰の虐待をしていた。私には、ネグレクトや差別、言葉の暴力
	その他	家庭内で親から兄と差を付けた扱いを受けた 無視
男性	悪口、かげ口など差別的な言動	くせ毛をバカにされた
	体罰や虐待(児童虐待やDV、高齢者虐待など)	教員の体罰
	その他	唾、かけられた
5. 外国人ということで		
女性	悪口、かげ口など差別的な言動	パワーハラスメント
	その他	パワーハラスメント
		家庭内で親から兄と差を付けた扱いを受けた
男性	その他	教員の体罰
7. 性的指向や性同一性障害に関することで		
男性	その他	教員の体罰
8. その他		
女性	(学歴、出身)	悪口、かげ口など差別的な言動、じろじろ見られる、その他として(親戚の集まりの場で侮辱された)
	(新卒ということで)	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ として
	(性格、病気等)	悪口、かげ口など差別的な言動、じろじろ見られる、就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ、セクシュアル・ハラスメント、結婚問題 として
	(身に覚えのないことへの文句)	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ、その他 として
	(職場で)	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ、その他 として(次々と気分次第で他の人をいじめる人物がいて、私もいじめの対象になった事がある)
	(元職場等で)	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ として
	(地域外から引っ越してきたということ)	悪口、かげ口など差別的な言動、じろじろ見られる として
	(家庭内)	悪口、かげ口など差別的な言動、じろじろ見られる、結婚問題として
	(若手だからという理由で)	その他として(パワーハラスメント)
	(嫁ということで)	結婚問題として(姑からのいやがらせ、わざと人前でものしり、私からのあいさつを無視、しかと…、その他 etc)
	無記入	その他として(他人の訴えで、無実のことを自分の責任とされた)
	無記入	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ、その他 として(私のいない場所で、嘘をいいふらされたこと。上記の方法でグループを作り、支配したい人物に従った人々の行動…無視や批

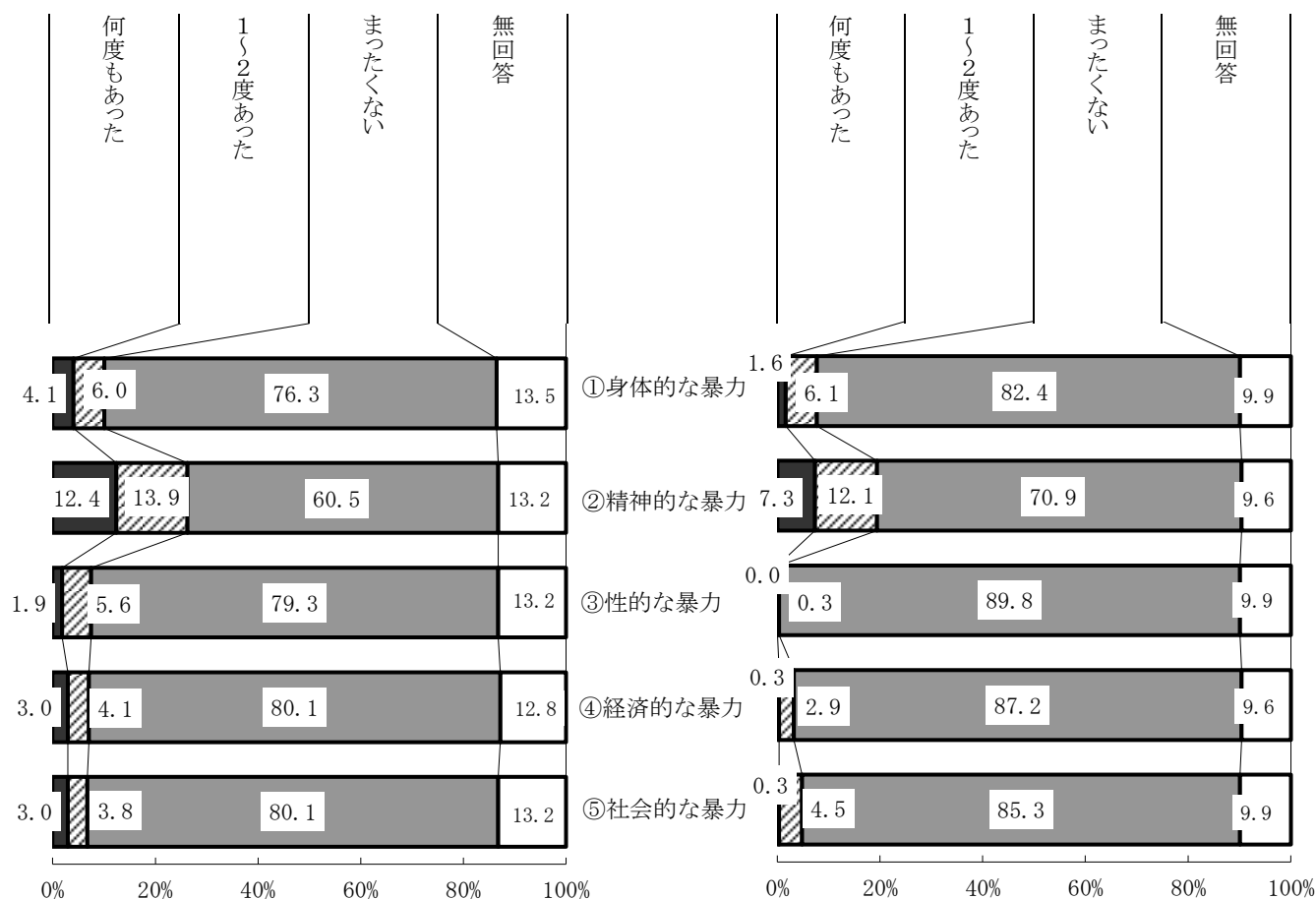
		難)
	無記入	その他 として(働いているので、子供に愛情がないと言われる)
男性	(居住地によって)	悪口やかげ口など差別的な言動 として
	(学歴)	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ として(不当な処遇)
	無記入	就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ として(昇進、昇給差別)
		結婚問題 として(両親が私の結婚後に仕事を辞めるよう要求し、できなければ結婚を認めないと言われ続けた。)
		その他 として(名前をわざと汚い言葉で言われた)
答え ない	その他	その他 として(引っ越してきた、近隣、お隣さんが、高学歴者特有の身勝手、自己中心的な思想)
		就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ として(職場でのいじめ、あらぬ噂を流される)

問 29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者（パートナー）や恋人から次のようなことをされたことがありますか。（○は①～⑤で「配偶者やパートナーから」「恋人から」それぞれで1つ）

図 3-8 配偶者やパートナーからの暴力の有無

女性 N=266

男性 N=313

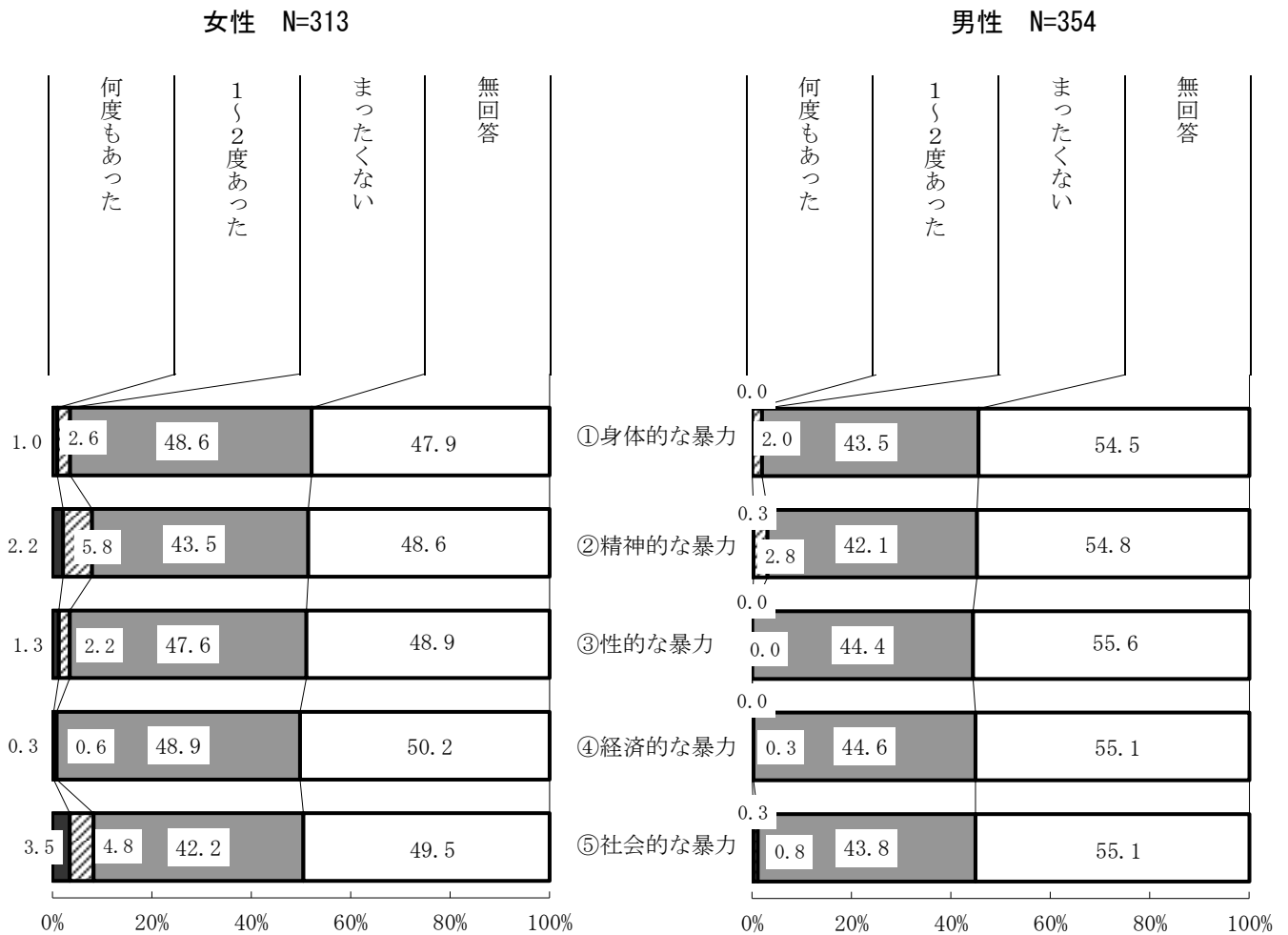


■女性の12.4%、男性の7.3%が「精神的な暴力」が「何度もあった」

配偶者やパートナーからの暴力の有無をみると、女性では、『あった』（「何度もあった」と「1～2度あった」の合計）は、「②精神的な暴力」が26.3%、「①身体的な暴力」が10.1%、「③性的な暴力」が7.5%、「④経済的な暴力」が7.1%、「⑤社会的な暴力」が6.8%である。「②精神的な暴力」は「何どもあった」が12.4%と10%を超えている。

男性では、『あった』は「②精神的な暴力」が19.4%、「①身体的な暴力」が7.7%、「⑤社会的な暴力」が4.8%、「④経済的な暴力」が3.2%、「③性的な暴力」が0.3%である。「②精神的な暴力」は「何どもあった」が7.3%で、女性と同様に他の暴力よりも高くなっている。

図 3-9 恋人からの暴力の有無



■女性の約8%が「精神的な暴力」と「社会的な暴力」を経験

恋人からの暴力の有無をみると、女性では、『あった』は「⑤社会的な暴力」が8.3%、「②精神的な暴力」が8.0%、「①身体的な暴力」が3.6%、「③性的な暴力」が3.5%、「④経済的な暴力」が0.9%である。

男性では、『あった』は「②精神的な暴力」が3.1%、「①身体的な暴力」が2.0%、「⑤社会的な暴力」が1.1%、「④経済的な暴力」が0.3%で、すべての項目で女性の方が高くなっている。

【性別・年代別】

表 3-5 性別・年代別 配偶者やパートナーからの暴力の有無

(上段：実数、下段：%)

		対象者数 (人)	①身体的な暴力			②精神的な暴力			③性的な暴力			④経済的な暴力			⑤社会的な暴力		
			何度もあった	1～2度あった	まったくない	何度もあった	1～2度あった	まったくない	何度もあった	1～2度あった	まったくない	何度もあった	1～2度あった	まったくない	何度もあった	1～2度あった	まったくない
女性	20 歳代	15 100.0	1 6.7	1 6.7	10 66.7	4 26.7	－ －	8 53.3	－ －	1 6.7	13 86.7	1 6.7	－ －	13 86.7	－ －	－ －	13 86.7
	30 歳代	51 100.0	2 3.9	2 3.9	42 82.4	3 5.9	8 15.7	35 68.6	－ －	2 3.9	43 84.3	1 2.0	2 3.9	44 86.3	1 2.0	3 5.9	42 82.4
	40 歳代	49 100.0	2 4.1	1 2.0	43 87.8	8 16.3	7 14.3	32 65.3	2 4.1	3 6.1	41 83.7	1 2.0	2 4.1	43 87.8	3 6.1	3 6.1	41 83.7
	50 歳代	33 100.0	2 6.1	2 6.1	28 84.8	4 12.1	4 12.1	24 72.7	－ －	2 6.1	30 90.9	2 6.1	3 9.1	27 81.8	1 3.0	－ －	30 90.9
	60 歳代	57 100.0	－ －	7 12.3	43 75.4	6 10.5	10 17.5	33 57.9	3 5.3	2 3.5	45 78.9	1 1.8	1 1.8	48 84.2	2 3.5	3 5.3	46 80.7
	70 歳以上	61 100.0	4 6.6	3 4.9	37 60.7	8 13.1	8 13.1	29 47.5	－ －	5 8.2	39 63.9	2 3.3	3 4.9	38 62.3	1 1.6	1 1.6	41 67.2
男性	20 歳代	11 100.0	1 9.1	2 18.2	7 63.6	1 9.1	1 9.1	8 72.7	－ －	－ －	10 90.9	－ －	－ －	10 90.9	－ －	1 9.1	9 81.8
	30 歳代	48 100.0	2 4.2	1 2.1	40 83.3	6 12.5	4 8.3	33 68.8	－ －	－ －	43 89.6	－ －	3 6.3	40 83.3	－ －	4 8.3	39 81.3
	40 歳代	64 100.0	2 3.1	4 6.3	56 87.5	9 14.1	8 12.5	45 70.3	－ －	－ －	62 96.9	1 1.6	2 3.1	59 92.2	1 1.6	7 10.9	54 84.4
	50 歳代	42 100.0	－ －	1 2.4	39 92.9	1 2.4	7 16.7	32 76.2	－ －	1 2.4	39 92.9	－ －	－ －	40 95.2	－ －	1 2.4	39 92.9
	60 歳代	70 100.0	－ －	6 8.6	57 81.4	3 4.3	10 14.3	51 72.9	－ －	－ －	63 90.0	－ －	3 4.3	61 87.1	－ －	1 1.4	62 88.6
	70 歳以上	78 100.0	－ －	5 6.4	59 75.6	3 3.8	8 10.3	53 67.9	－ －	－ －	64 82.1	－ －	1 1.3	63 80.8	－ －	－ －	64 82.1

年代別でみると、女性では、「①身体的な暴力」が『あった』は20歳代と50歳代がそれぞれ13.4%、12.2%と高い。「②精神的な暴力」が『あった』は40歳代が30.6%で、20歳代では「何度もあった」が26.7%で4人に1人の割合である。

男性では、「①身体的な暴力」が『あった』は20歳代が27.3%、「②精神的な暴力」が『あった』は40歳代が26.6%で高い。また、40歳代で「⑤社会的な暴力」が「1～2度あった」が10.9%と高い。

表 3-6 性別・年代別 恋人からの暴力の有無

(上段：実数、下段：%)

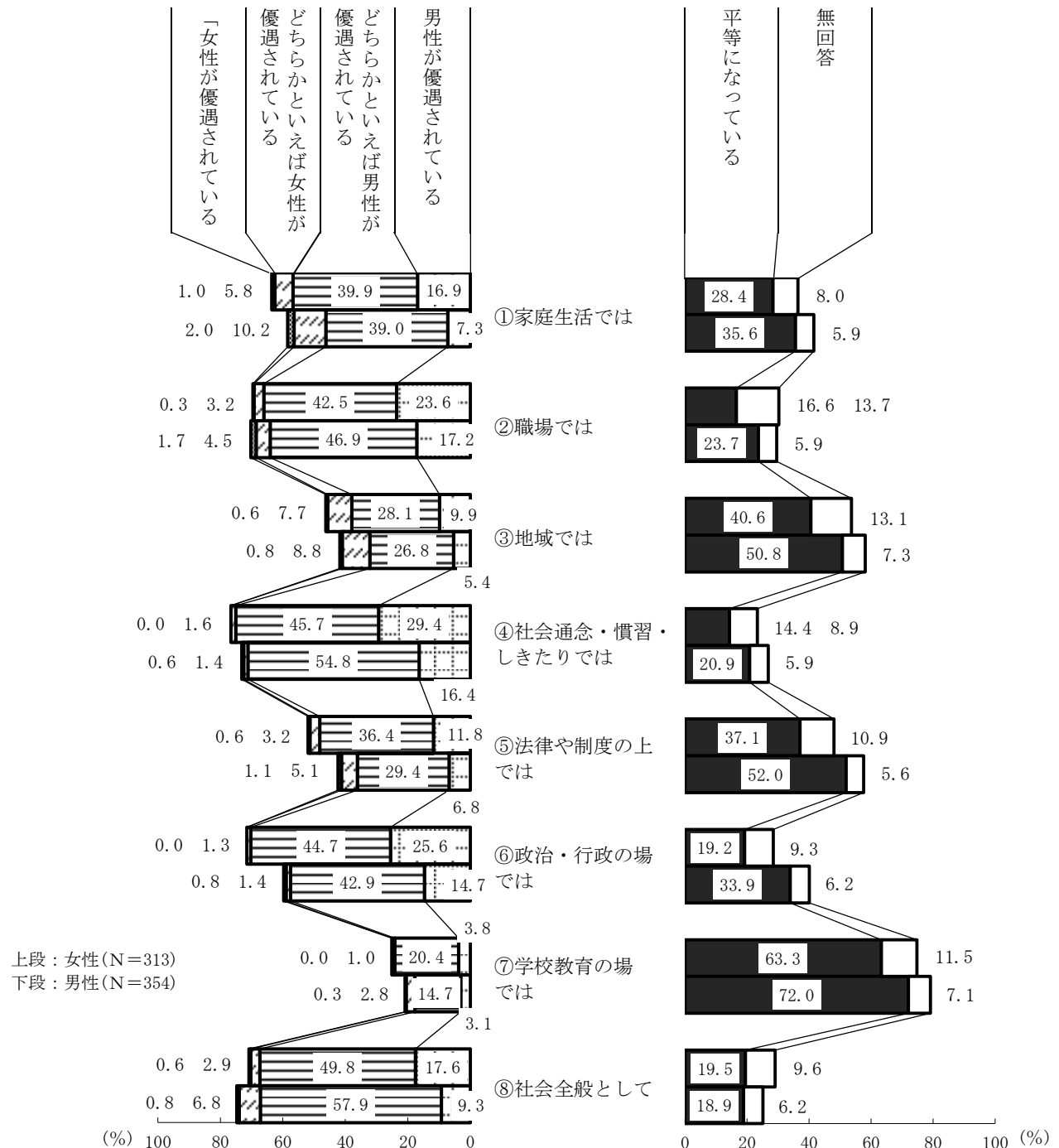
		対象者数 (人)	身体的な暴力			精神的な暴力			性的な暴力			経済的な暴力			社会的な暴力		
			何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い	何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
女性	20 歳代	35 100.0	1 2.9	5 14.3	21 60.0	2 5.7	6 17.1	19 54.3	2 5.7	1 2.9	23 65.7	- -	1 2.9	25 71.4	3 8.6	4 11.4	20 57.1
	30 歳代	64 100.0	1 1.6	2 3.1	45 70.3	4 6.3	5 7.8	39 60.9	1 1.6	4 6.3	42 65.6	1 1.6	- -	46 71.9	5 7.8	7 10.9	35 54.7
	40 歳代	57 100.0	- -	1 1.8	35 61.4	1 1.8	4 7.0	31 54.4	1 1.8	1 1.8	34 59.6	- -	1 1.8	35 61.4	2 3.5	3 5.3	31 54.4
	50 歳代	35 100.0	- -	- -	19 54.3	- -	1 2.9	18 51.4	- -	1 2.9	18 51.4	- -	- -	18 51.4	1 2.9	1 2.9	16 45.7
	60 歳代	60 100.0	1 1.7	- -	20 33.3	- -	2 3.3	18 30.0	- -	- -	19 31.7	- -	- -	17 28.3	- -	- -	18 30.0
	70 歳以上	62 100.0	- -	- -	12 19.4	- -	- -	11 17.7	- -	- -	13 21.0	- -	- -	12 19.4	- -	- -	12 19.4
男性	20 歳代	31 100.0	- -	2 6.5	25 80.6	- -	2 6.5	25 80.6	- -	- -	27 87.1	- -	- -	27 87.1	- -	1 3.2	26 83.9
	30 歳代	56 100.0	- -	1 1.8	31 55.4	- -	3 5.4	29 51.8	- -	- -	31 55.4	- -	- -	32 57.1	1 1.8	1 1.8	30 53.6
	40 歳代	72 100.0	- -	2 2.8	32 44.4	1 1.4	3 4.2	30 41.7	- -	- -	34 47.2	- -	1 1.4	33 45.8	- -	1 1.4	33 45.8
	50 歳代	46 100.0	- -	- -	21 45.7	- -	1 2.2	20 43.5	- -	- -	21 45.7	- -	- -	21 45.7	- -	- -	21 45.7
	60 歳代	71 100.0	- -	- -	25 35.2	- -	- -	25 35.2	- -	- -	25 35.2	- -	- -	25 35.2	- -	- -	25 35.2
	70 歳以上	78 100.0	- -	2 2.6	20 25.6	- -	1 1.3	20 25.6	- -	- -	19 24.4	- -	- -	20 25.6	- -	- -	20 25.6

年代別でみると、女性では、20 歳代で「身体的な暴力」「精神的な暴力」「社会的な暴力」が『あった』が高い。また、30 歳代においても「社会的な暴力」が『あった』が高くなっている。

4. 男女共同参画社会について

問 30 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(○は①～⑧のそれぞれで1つ)

図 4-1 男女の地位の平等感



■女性の方が「社会全般として」をのぞいた分野において平等感が低い

「平等になっている」が50%を超えているのは、「⑦学校教育の場では」(女性 63.3%・男性 72.0%)と「⑤法律や制度の上で」(男性 52.0%)、「③地域では」(男性 50.8%)である。

女性では、「④社会通念・慣習・しきたりでは」(75.1%)、「⑥政治・行政の場では」(70.3%)、

「⑧社会全体として」(67.4%)、「②職場では」(66.1%)で、『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が高い。

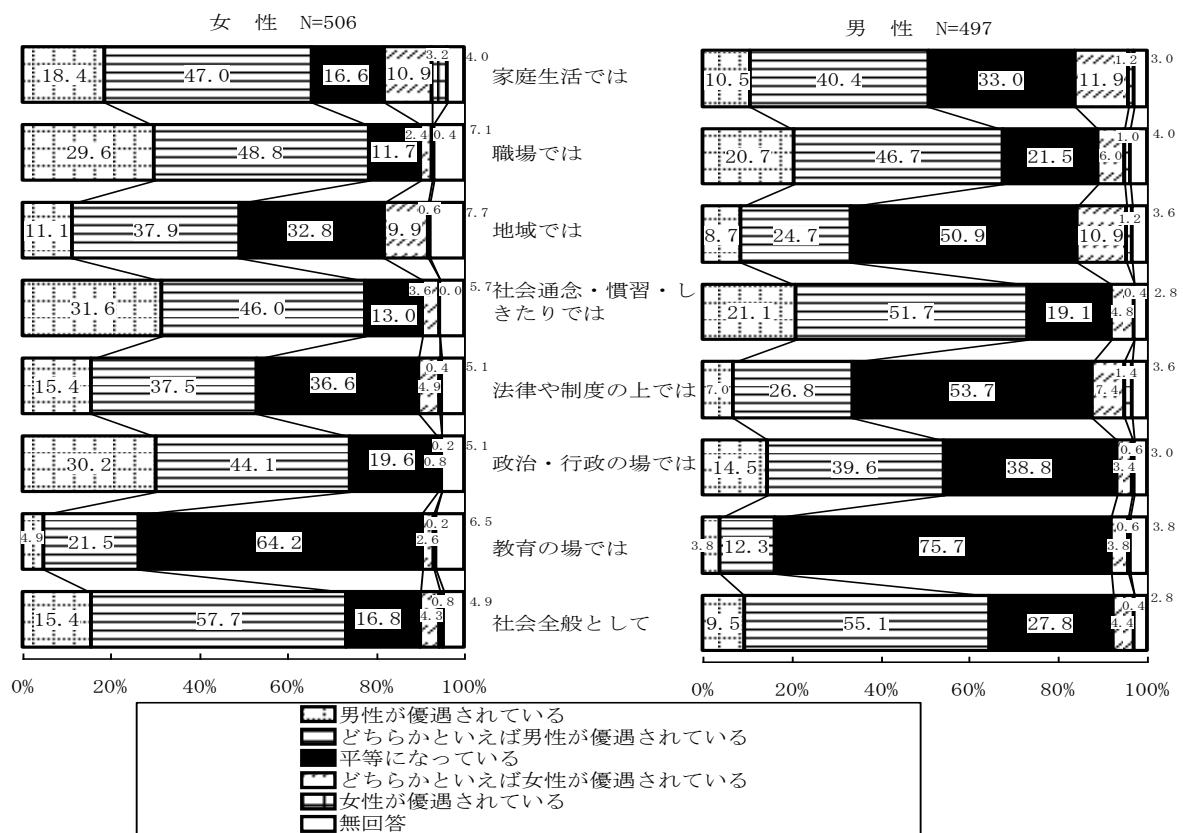
男性では、「④社会通念・慣習・しきたりでは」(71.2%)、「⑧社会全体として」(67.2%)、「②職場では」(64.1%)で『男性優遇』が高い。

平成21年度調査の平等感と比較すると、女性では、「家庭生活では」で11.8ポイント、「地域では」で7.8ポイント「平等になっている」が高くなっている。

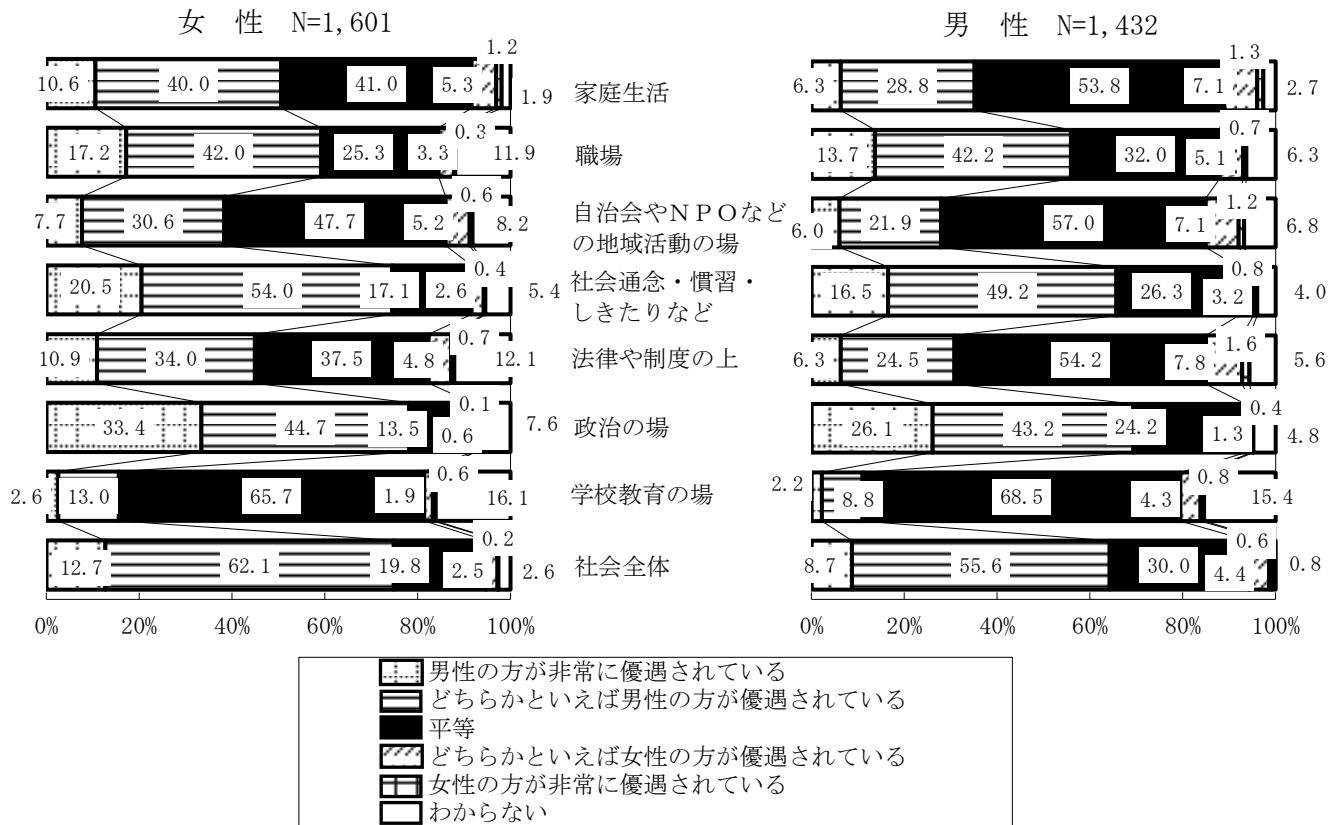
一方、男性では、「社会全般として」で「平等になっている」が8.9ポイント低くなっている。

国の調査と比較すると、「政治・行政の場」では男女ともに、そして「学校教育の場」では男性の「平等になっている」が高いが、それ以外は低くなっている。

【比較】図4-2 男女の地位の平等感（平成21年度調査）



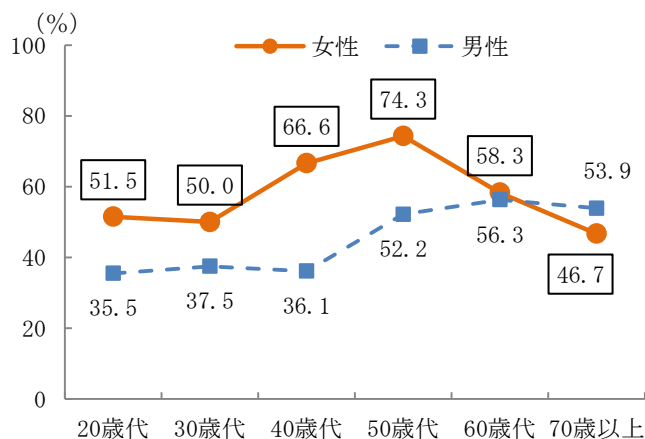
【比較】図 4-3 男女の地位の平等感（国の調査）



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 24 年

【性別・年代別】

図 4-4 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 (「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)
 <家庭生活では>

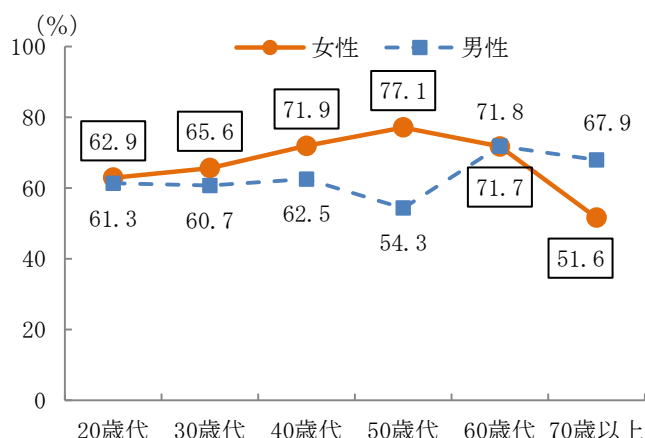


女性では、50 歳代が最も高く、70 歳以上が最も低い。男性では、40 歳代以下は 30% 台だが、50 歳代以上は 50% を超えている。

50 歳代までは各年代とも、女性の方が男性より高いが、60 歳代はほぼ同率で、70 歳以上は男性の方が高くなっている。

また、20～50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-5 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <職場では>



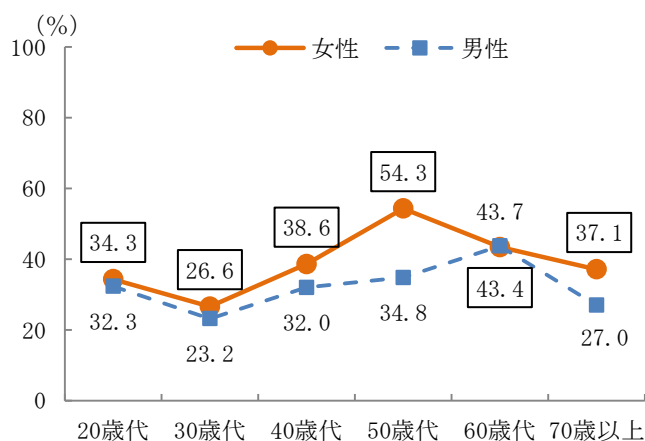
女性では、50 歳代が最も高く、70 歳以上が最も低い。

男性では、60 歳代が最も高く、50 歳代が最も低い。

50 歳代までは各年代とも、女性の方が男性より高いが、60 歳代はほぼ同率で、70 歳以上は男性の方が高くなっている。

50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-6 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <地域では>

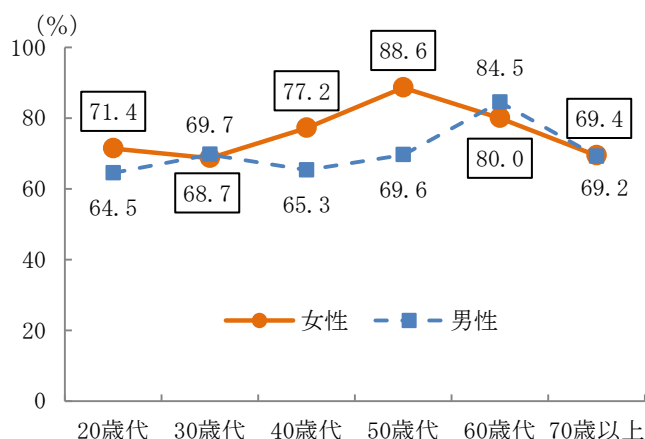


女性では、50 歳代が最も高く、30 歳代は最も低く 20% 台である。

男性では、すべての年代で 50% 以下であり、30 歳代と 70 歳以上は 20% 台である。

50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-7 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <社会通念・慣習・しきたりでは>

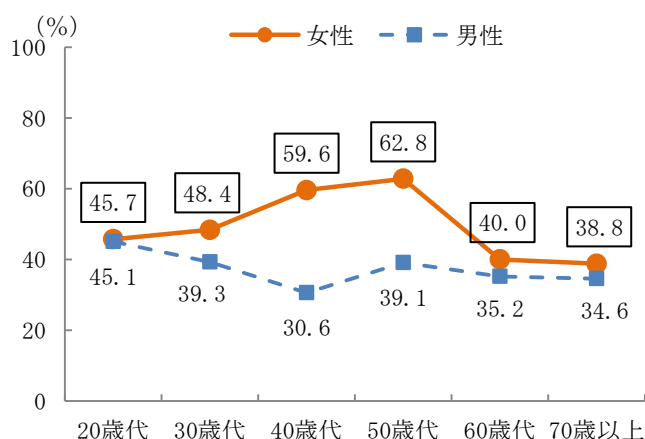


女性では、50 歳代で 88.6%と最も高く、30 歳代で 68.7%と最も低い。

男性では 60 歳代が 84.5%と高く、他の年代は 60%台である。

50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-8 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <法律や制度の上では>

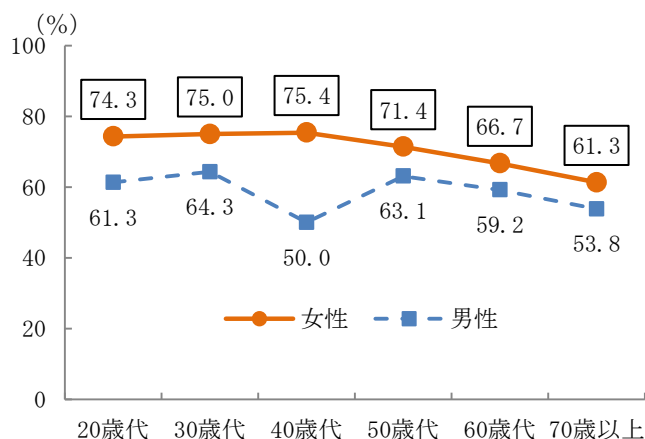


女性では、50 歳代が 62.8%、40 歳代が 59.6%と他の年代より高く、60 歳代・70 歳以上ではやや低い。

男性では、20 歳代が 45.1%で最も高く、他の年代は 30%台である。

40、50 歳代では男女の開きが大きい。

図 4-9 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 <政治・行政の場では>

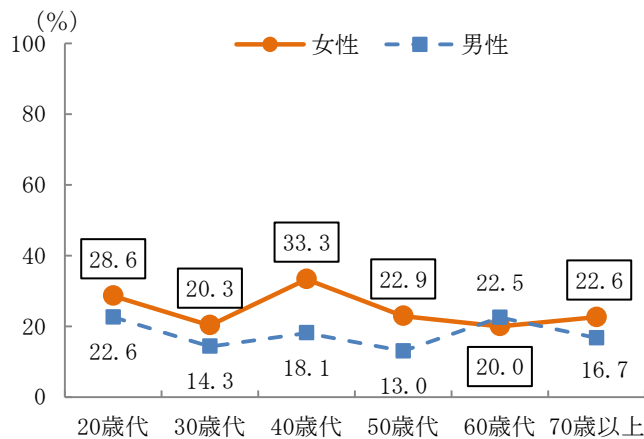


女性では、20～50 歳代は 70%台、60 歳代・70 歳以上は 60%台である。

男性では、40 歳代、70 歳以上でやや低く、その他の年代は 60%前後である。

40 歳代では男女の開きが大きく、すべての年代で女性の方が男性より高くなっている。

図 4-10 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 ＜学校教育の場では＞

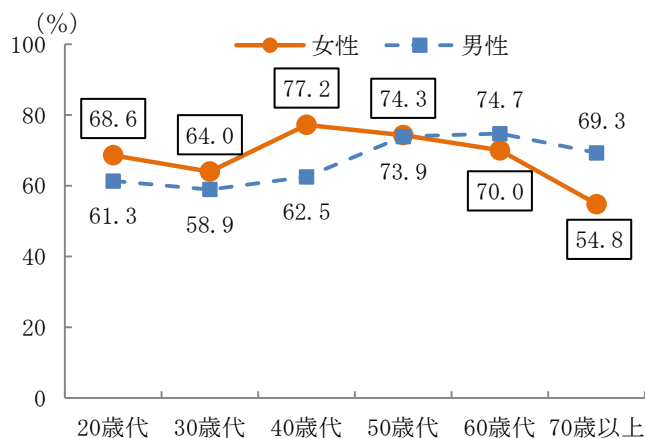


女性では、40 歳代で 33.3%と最も高く、60 歳代で 20.0%と最も低い。

男性では、20 歳代で 22.6%と最も高く、50 歳代で 13.0%と最も低い。

40 歳代では男女の開きがある。

図 4-11 性別・年代別 男女の地位の平等感『男性が優遇されている』割合
 ＜社会全般として＞



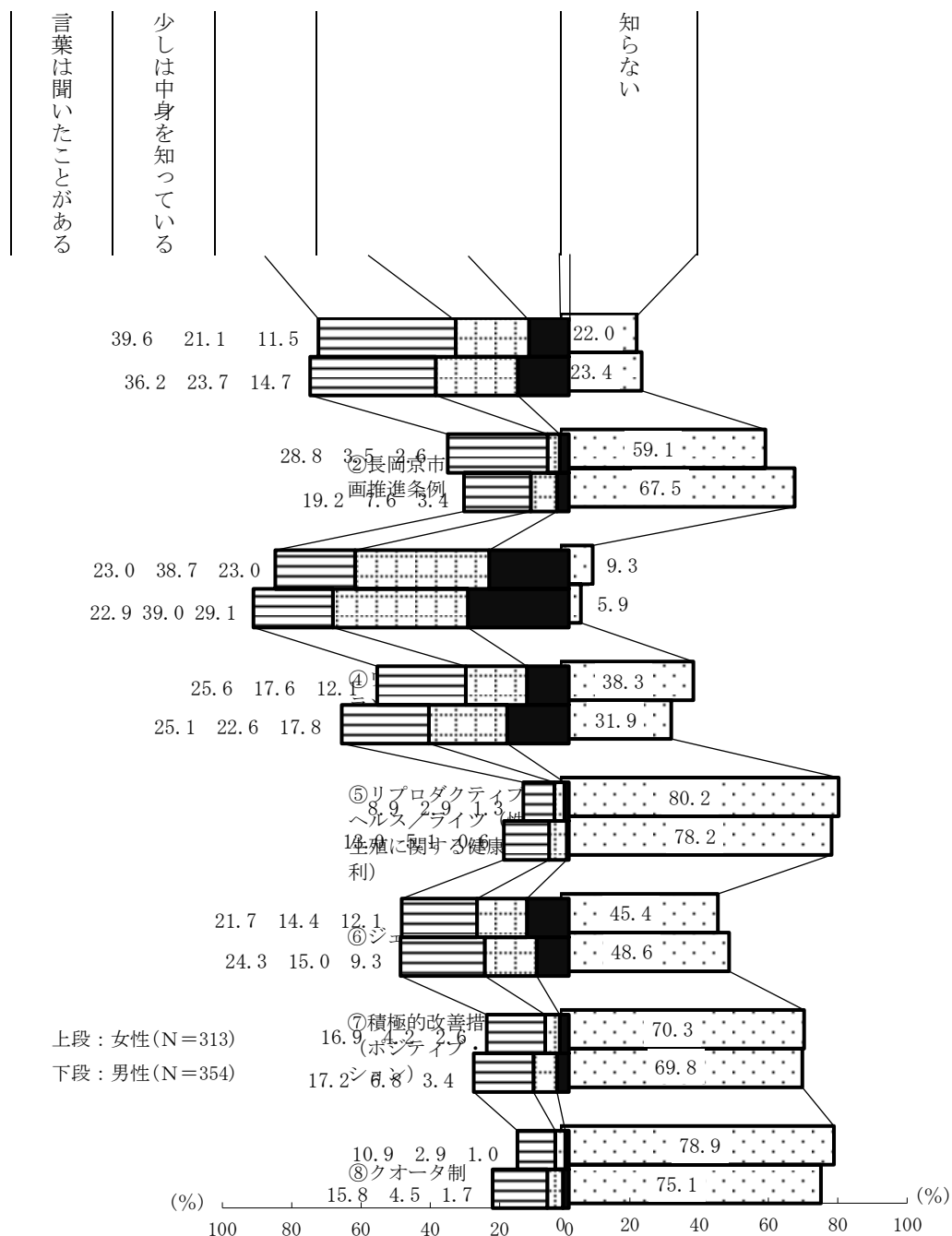
女性では、40 歳代で 77.2%と最も高く、70 歳以上で 54.8%と最も低い。

男性では、50、60 歳代で高く、30 歳代で最も低い。

50 歳代までは女性の方が男性よりやや高いが、60 歳代以上は男性の方が高くなっている。

問 31 あなたは、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(○は①～⑧のそれぞれで1つ)

図 4-12 法律や言葉などの認知度



※無回答は省略

■「男女共同参画社会」の認知度は、女性は 72.2%、男性は 74.6%

男女ともに第1位は「③男女雇用機会均等法」で、『知っている』*は、女性 84.7%・男性 91.0%である。次いで、2位「①男女共同参画社会」は女性 72.2%・男性 74.6%、3位は「④ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」で女性 55.3%・男性 65.5%である。

「長岡京市男女共同参画推進条例」については、「知らない」が女性 59.1%、男性 67.5%である。

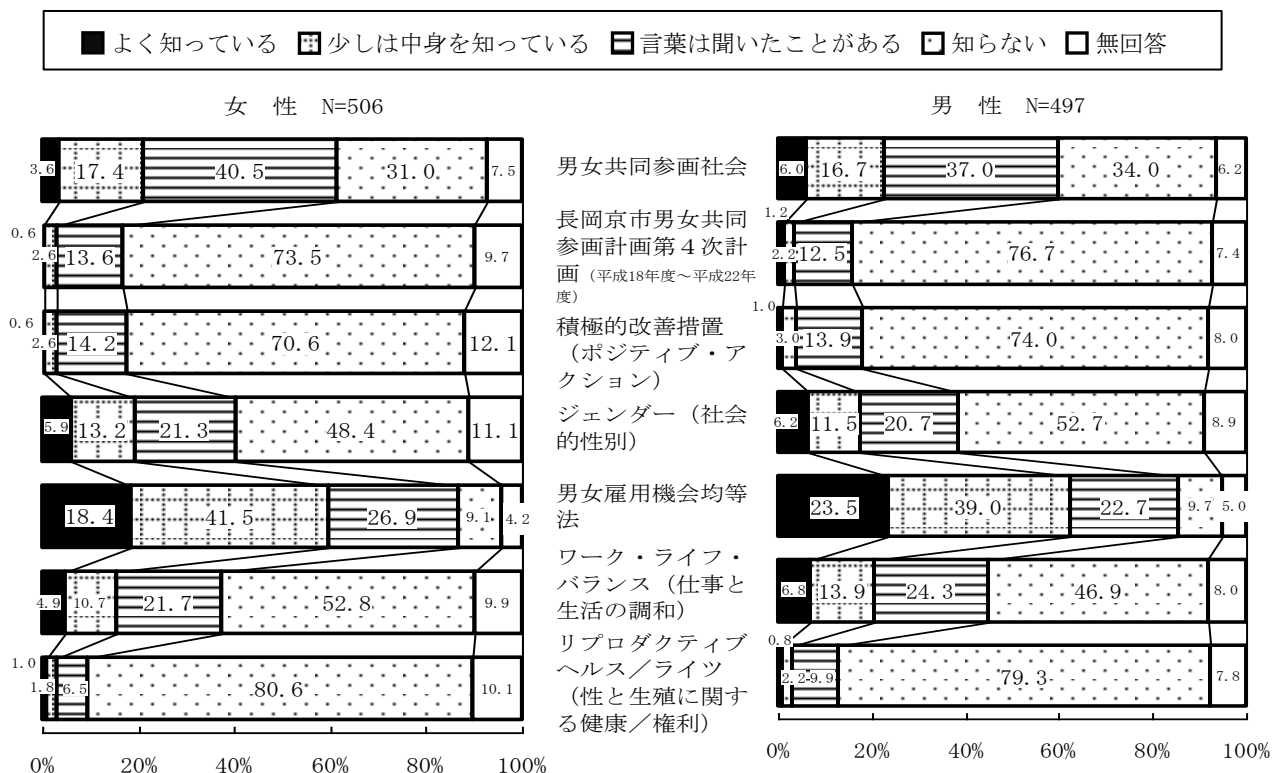
『知っている』は、「長岡京市男女共同参画推進条例」を除いて、どの言葉も男性の方が女性を

やや上回っている。

平成 21 年度調査と比較すると、男女ともに「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「ジェンダー」「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」は「よく知っている」が高くなっている。

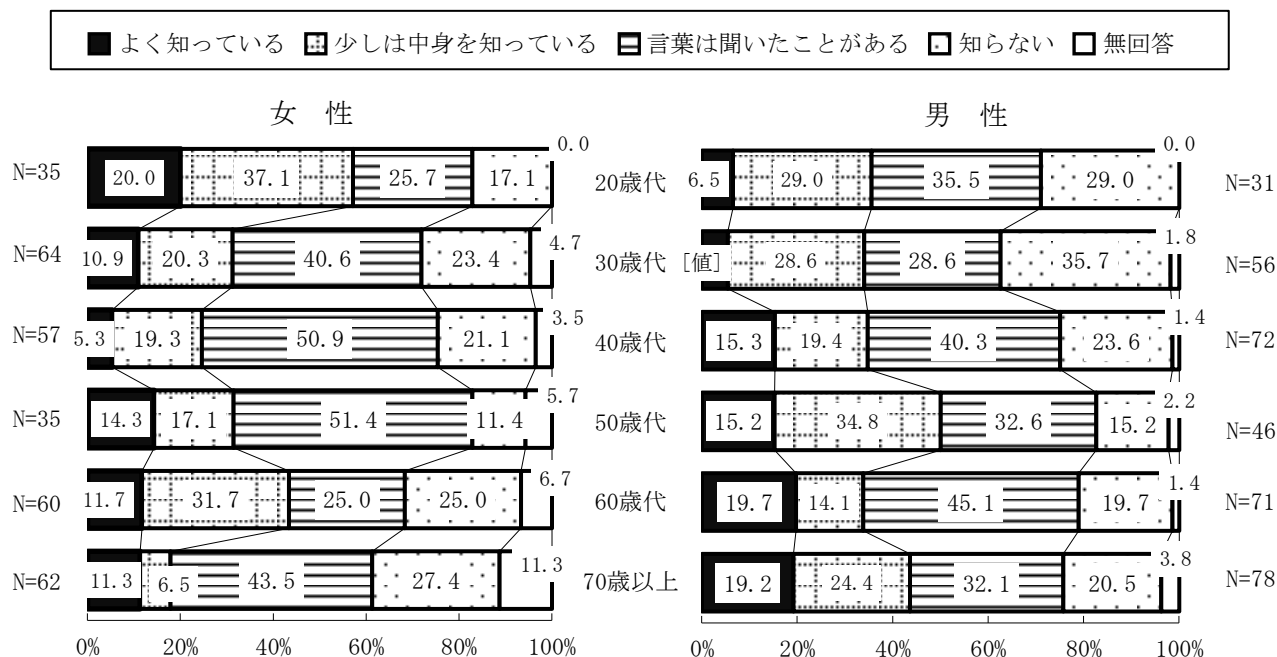
*『知っている』とは、「よく知っている」「少しは中身を知っている」「言葉は聞いたことがある」を合わせた割合

【比較】図 4-13 法律や言葉などの認知度（平成 21 年度調査）



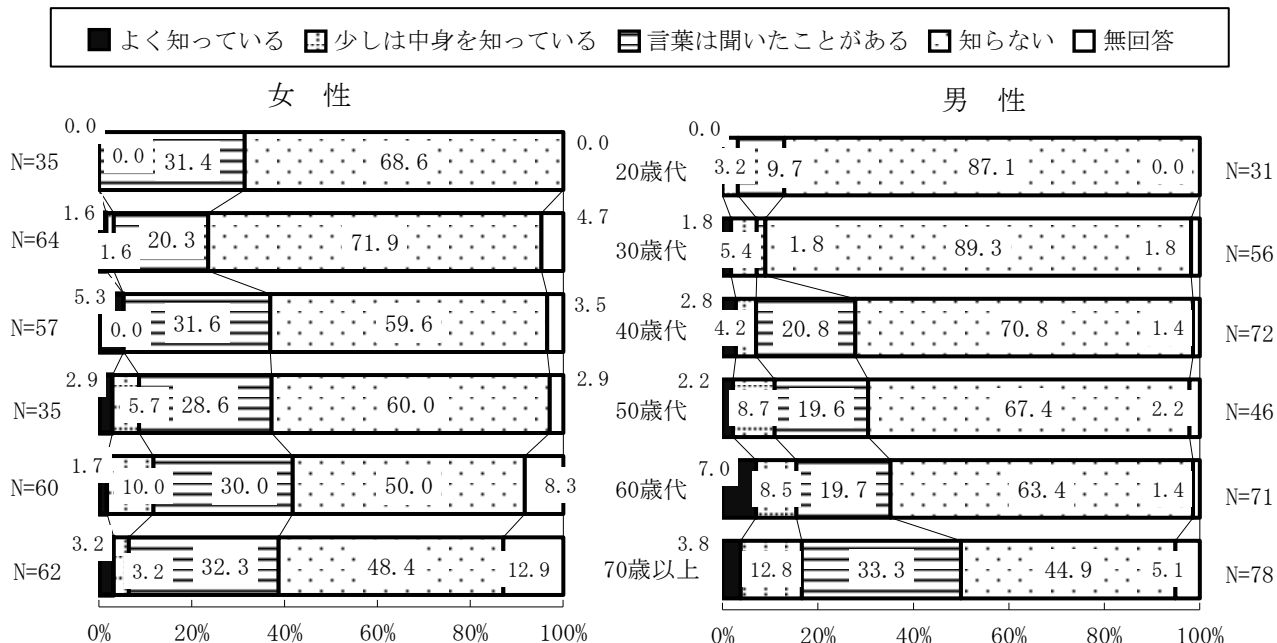
【性別・年代別】

図 4-14 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「男女共同参画社会」



女性では、20歳代と50歳代で『知っている』がやや高く、20歳代は「よく知っている」と「少しは中身を知っている」を合わせると57.1%である。男性では、50歳代で『知っている』が最も高く、「よく知っている」と「少しは中身を知っている」を合わせると50.0%である。60歳代と70歳以上では「よく知っている」が約20%で他の年代より高い。

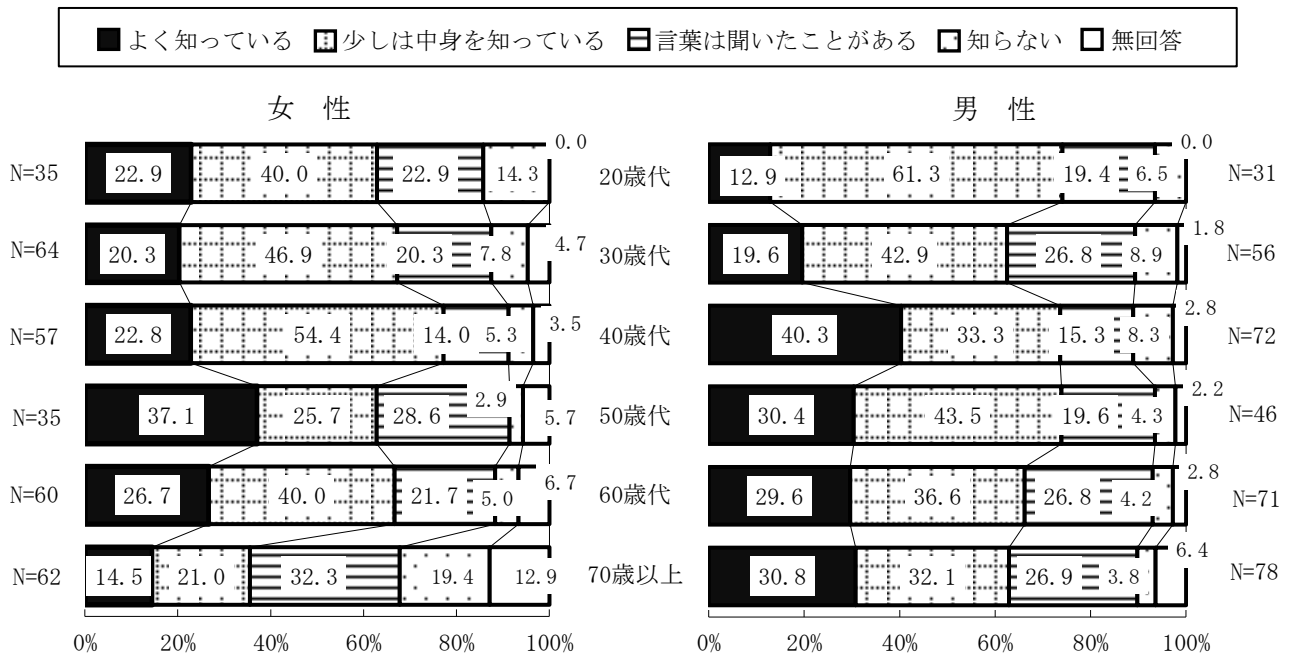
図 4-15 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「長岡京市男女共同参画推進条例」



女性では、20、30歳代は「知らない」が70%前後と高い。60歳代で『知っている』が年代の中で最も高いが41.7%である。

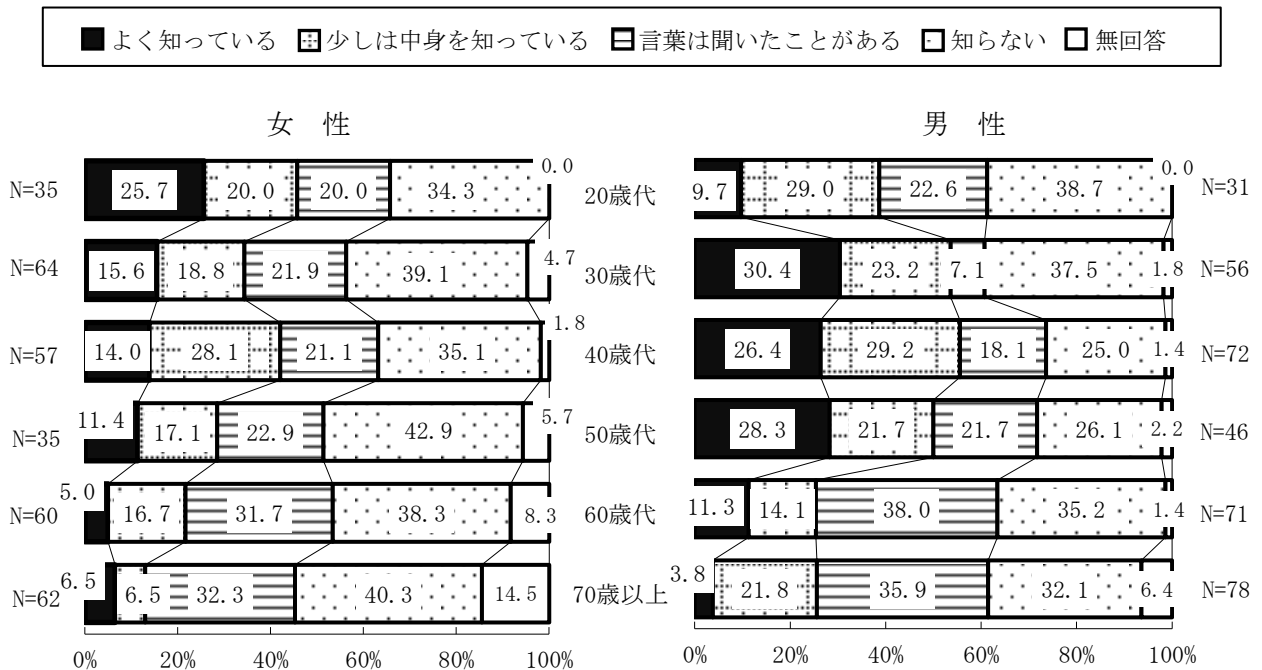
男性では、20、30歳代は「知らない」が90%弱と高い。70歳以上で『知っている』が最も高く49.9%である。

図 4-16 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「男女雇用機会均等法」



女性では、『知っている』は、60歳代以下の年代では90%前後で、50歳代では「よく知っている」が37.1%と高い。男性では、全年代で認知度が90%前後を占め、40歳代では「よく知っている」が40.3%と最も高い。

図 4-17 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」

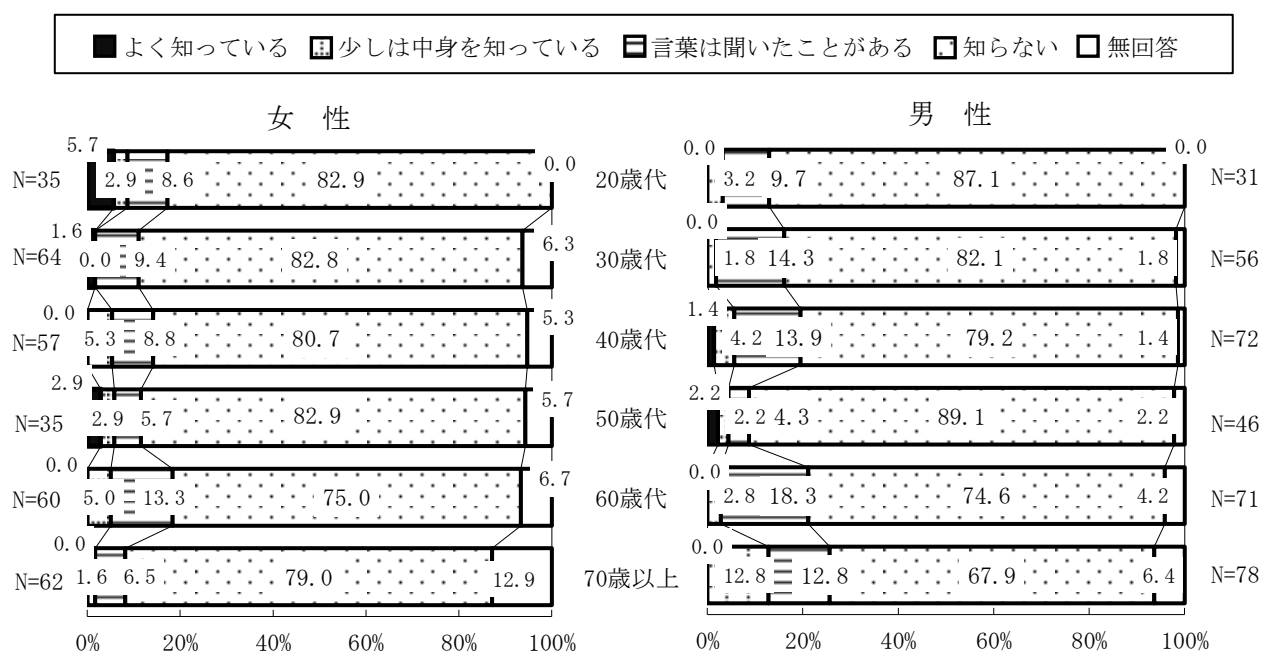


女性では、20歳代と40歳代で『知っている』が高く、特に20歳代では「よく知っている」が25.7%と高い。

男性では、40、50歳代で『知っている』が高い。また、30、40、50歳代では「よく知っている」が高く、30歳代は30.4%である。

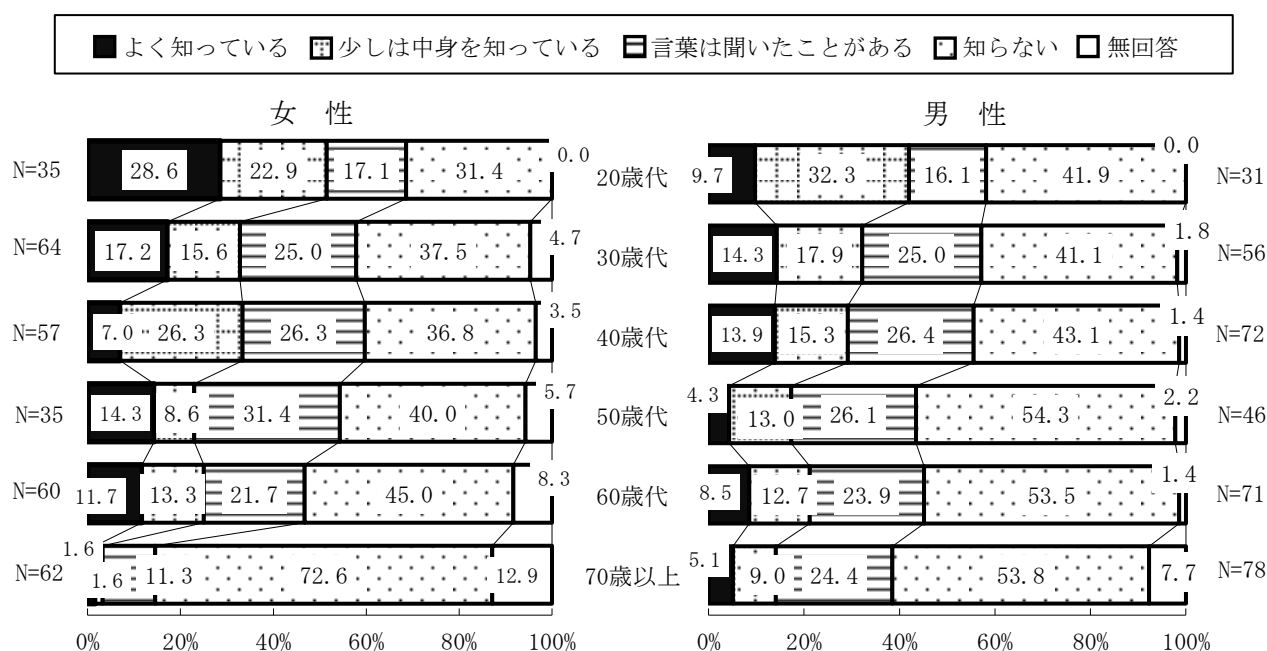
図 4-18 性別・年代別 法律や言葉などの認知度

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」



女性の60歳代、男性の60歳代と70歳以上で『知っている』がやや高い。

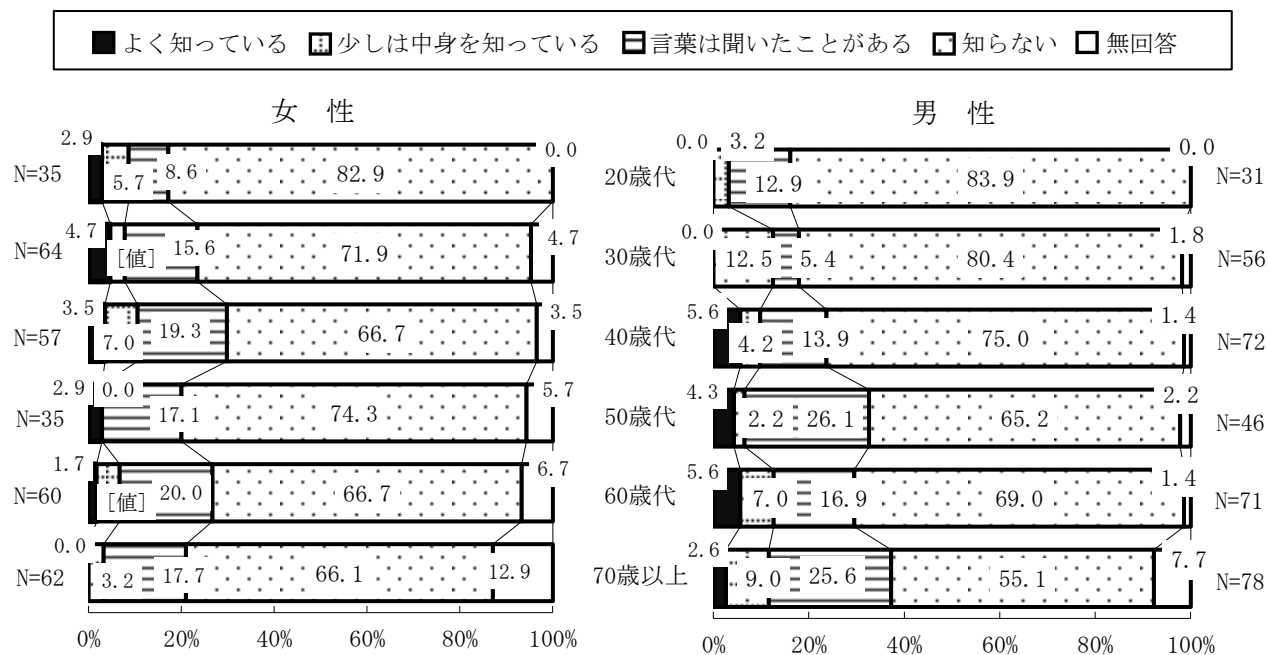
図 4-19 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「ジェンダー」



男女とも、年代が低いほど認知度が高い傾向で、『知っている』は、20歳代では、女性 68.6%・男性 58.1%である。

女性の70歳以上では「知らない」が72.6%と高い。

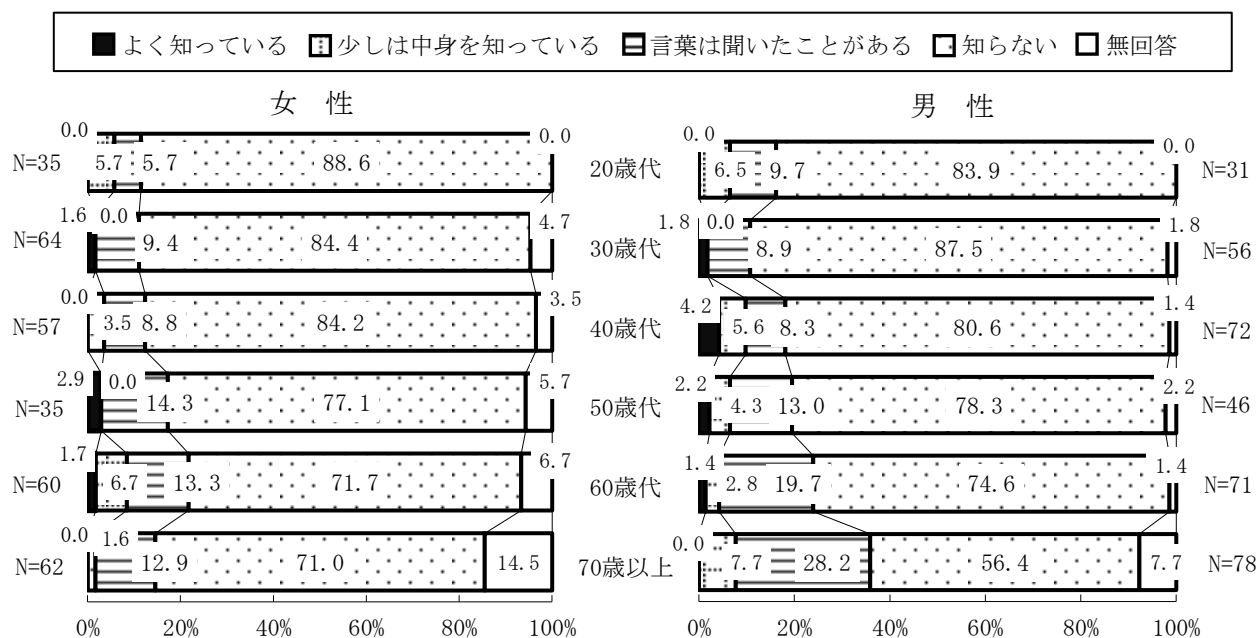
図 4-20 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」



女性では、20 歳代では「知らない」が 82.9% と他の年代より高い。40 歳代では『知っている』が 29.8% で、やや高い。

男性では、20、30 歳代は「知らない」が 80% を超えている。年代が高いほど『知っている』が高い傾向である。

図 4-21 性別・年代別 法律や言葉などの認知度「クオータ制」

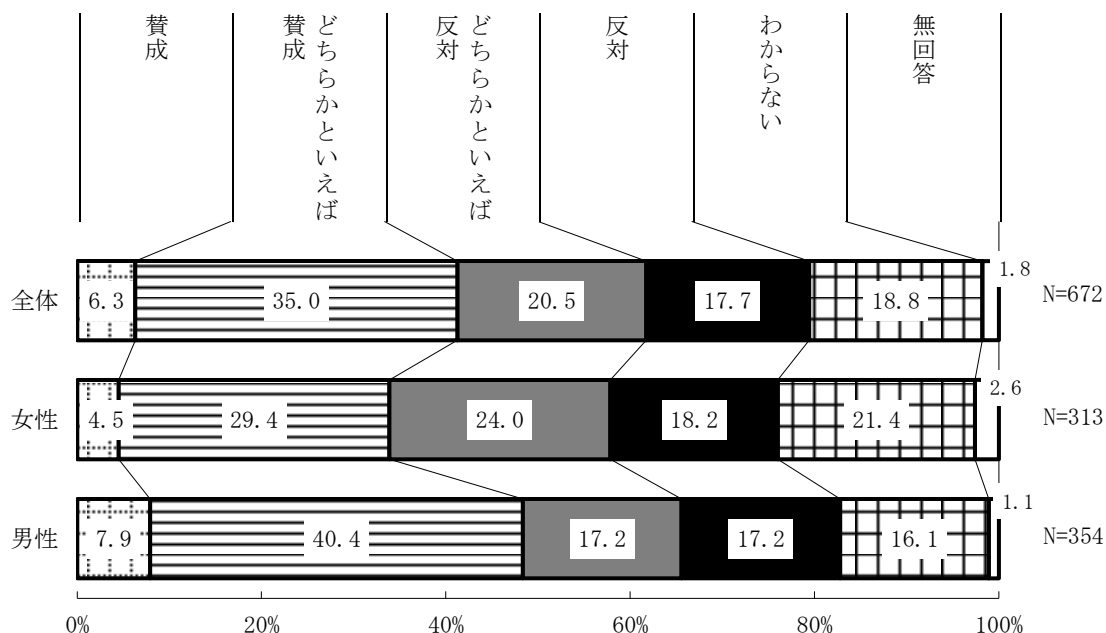


男女とも、40 歳代以下で「知らない」が高く 80% を超えている。

男性では、70 歳以上で認知度が 35.9% で、年代の中で最も高い。

問 32 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどう思いますか。
(○は1つ)

図 4-22 固定的性別役割分担意識



■女性も反対グループ、男性は賛成グループが上回る

女性では、固定的な性別役割分担意識に『賛成グループ』*1が33.9%、『反対グループ』*2が42.2%と、『反対グループ』が『賛成グループ』を8.3ポイント上回っている。

一方、男性では、『賛成グループ』48.3%、『反対グループ』34.4%で、『賛成グループ』が13.9ポイント上回っている。ただし、「わからない」が女性21.4%・男性16.1%である。

平成21年度調査と比較すると、男女ともに、反対グループの割合はほとんど変化がみられないが、賛成グループの割合は低くなっており、女性は10.1ポイント、男性は4.2ポイント減っている。

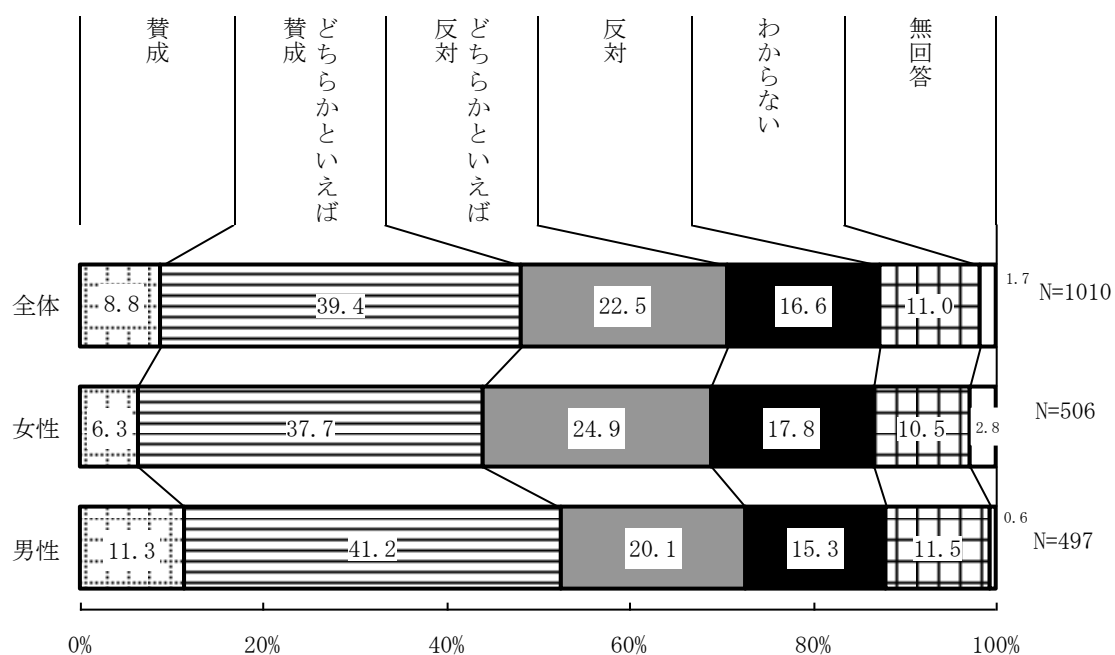
国の調査と比較すると、女性は、『賛成グループ』が9.3ポイント、『反対グループ』が9.4ポイント低い。男性は、『賛成グループ』が1.8ポイント多く、『反対グループ』が12.1ポイント低い。

国の調査結果と比べて、本調査結果の特徴は男女とも「わからない」の回答割合が高いことである。平成21年度調査と比べても「わからない」の割合が高くなっている。「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えに対して、明確に賛成・反対と態度表明をしない層が増えているということは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えが既定のものであるという認識が揺らいでいることを示していると推察される。

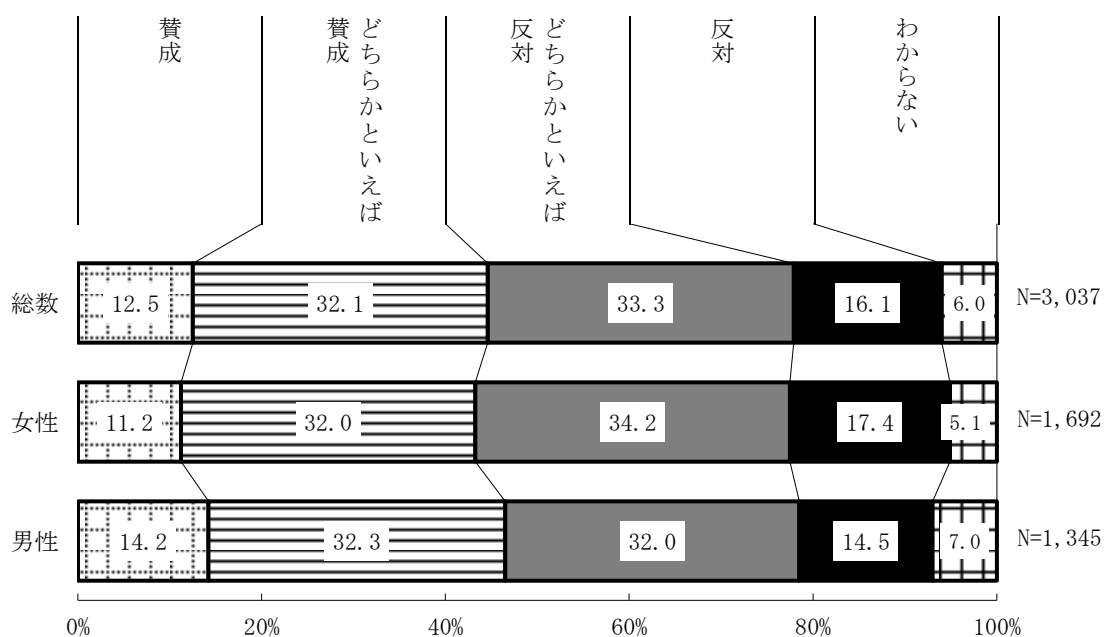
*1『賛成グループ』は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計

*2『反対グループ』は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計

【比較】図 4-23 固定的性別役割分担意識（平成 21 年度調査）



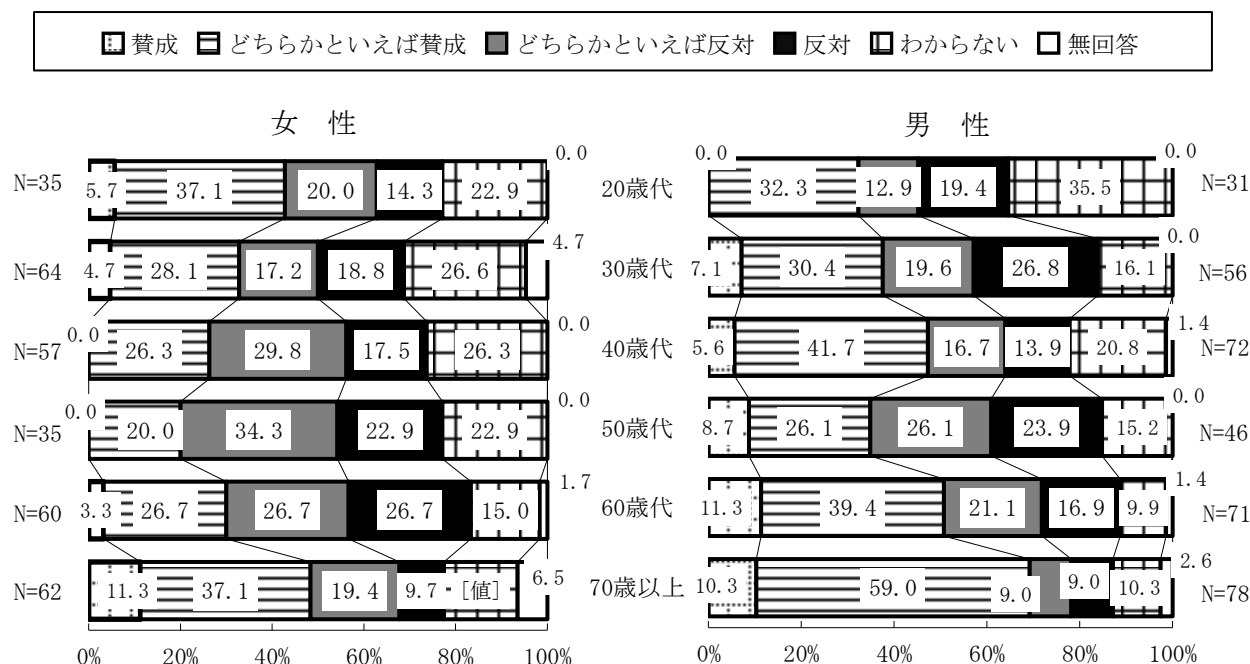
【比較】図 4-24 固定的性別役割分担意識（国の調査）



資料：内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年）

【性別・年代別】

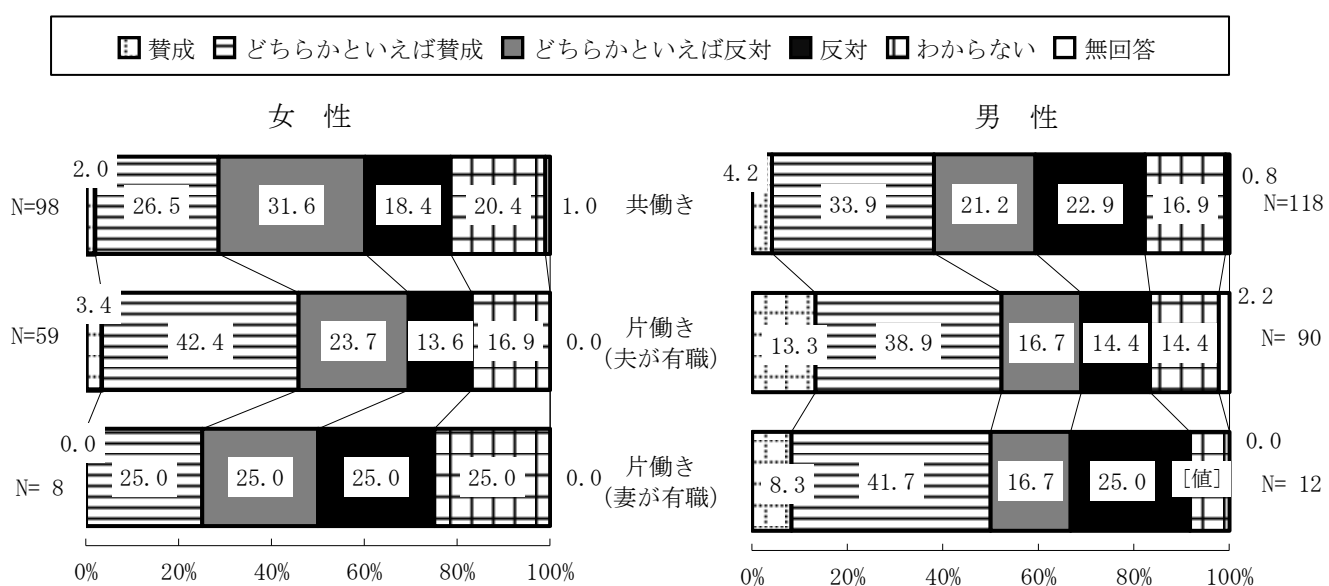
図 4-25 性別・年代別 固定的性別役割分担意識



年代別でみると、女性では、50 歳代と 60 歳代で反対グループが高く 50%を超えている。一方、20 歳代と 70 歳以上では賛成グループが反対グループを上回る。男性では、50 歳代で反対グループが高く 50.0%。一方、60 歳代と 70 歳以上では賛成グループが高く 50%を超えており、70 歳以上は約 70%にのぼる。

【性別・共働き／片働き別】

図 4-26 性別・共働き／片働き別 固定的性別役割分担意識

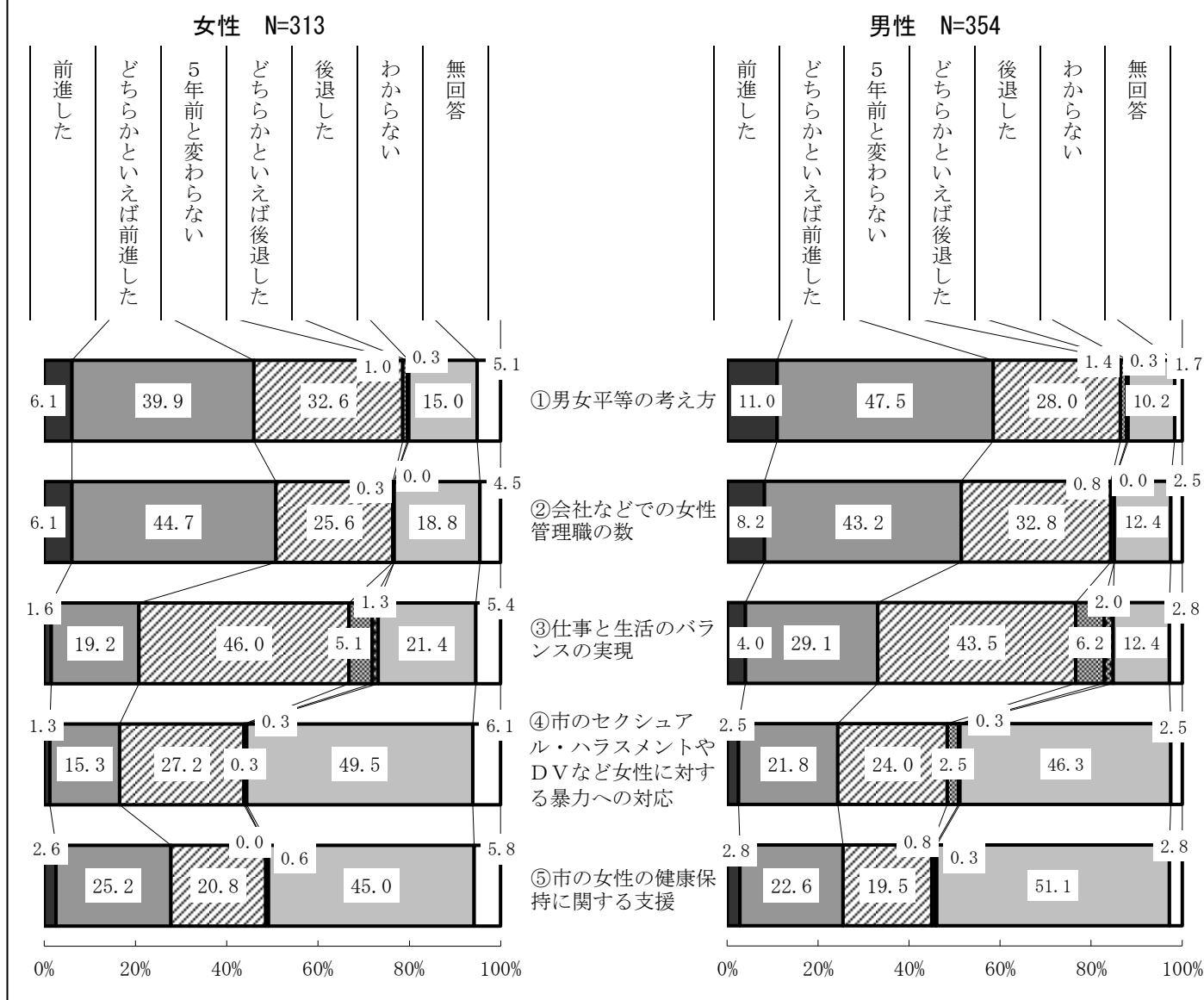


共働き／片働き別でみると、男女とも、共働きでは反対グループが賛成グループを上回り、女性は 21.5 ポイント、男性は 6 ポイント高くなっている。一方、片働き（夫が有職）では、賛成グループの方が高く、女性は 45.8%、男性は 52.2%である。

問 33 あなたはこの5年間で、以下のことはどの程度進んだと思いますか。

(〇は①～⑤のそれぞれで1つ)

図 4-27 男女共同参画の進み具合



■男女の40%以上が「仕事と生活のバランスの実現」は進んでいないと回答

「①男女平等の考え方」では、『前進』（「前進した」＋「どちらかといえば前進した」）の割合が女性46.0％・男性58.5％で、「5年前と変わらない」は女性32.6％・男性28.0％である。

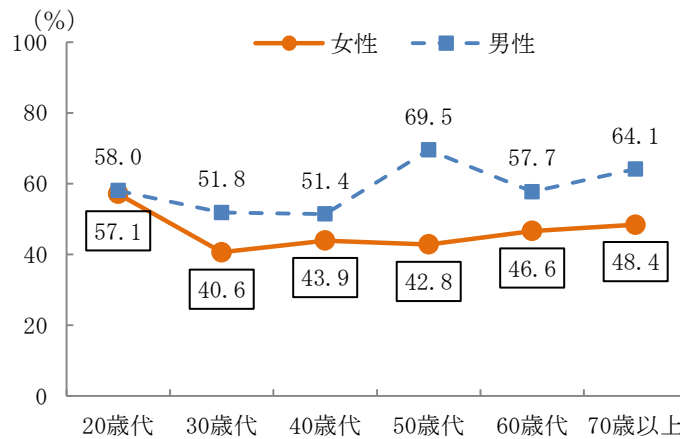
「②会社などでの女性管理職の数」は、『前進』の割合が女性50.8％・男性51.4％で、「5年前と変わらない」は女性25.6％・男性32.8％である。

「③仕事と生活のバランスの実現」は、『前進』の割合が女性20.8％・男性33.1％で、「5年前と変わらない」が女性46.0％・男性43.5％で、変わらないとする割合が高い。

「④市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応」と「⑤市の女性の健康保持に関する支援」は「わからない」が約半数を占めている。

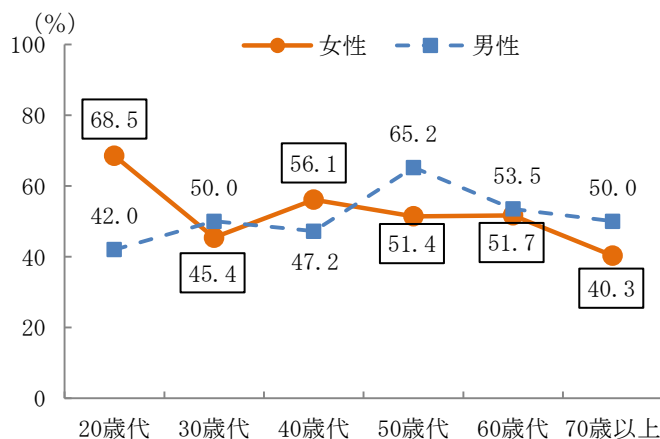
【性別・年代別】

図 4-28 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 (「前進した」+「どちらかといえば前進した」)
 <男女平等の考え方>



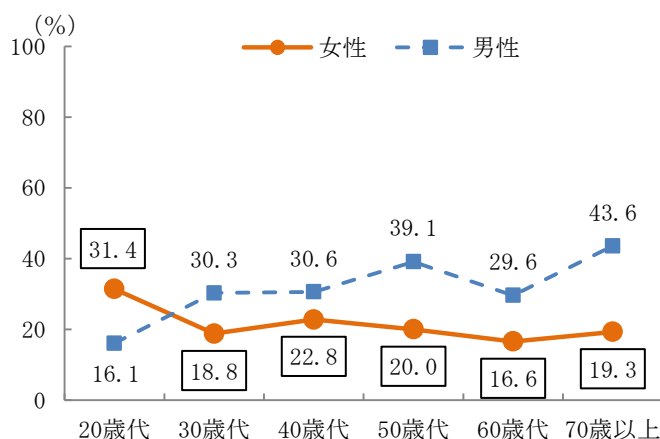
女性では、20歳代で最も高く57.1%で、他の年代は40%台である。
 男性では、50歳代で最も高い。
 すべての年代で女性が男性を下回っている。

図 4-29 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <会社などでの女性管理職の数>



女性では、20歳代で最も高く68.5%である。
 男性では、50歳代で最も高く65.2%である。

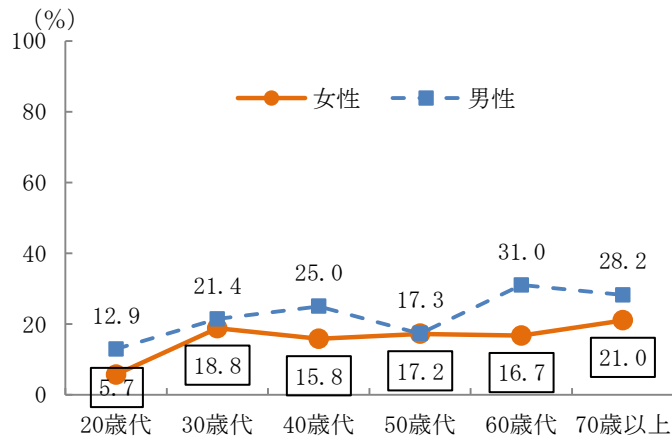
図 4-30 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <仕事と生活のバランスの実現>



女性では、20歳代が31.4%で最も高いが、そのほかの年代は16.6%～22.8%である。

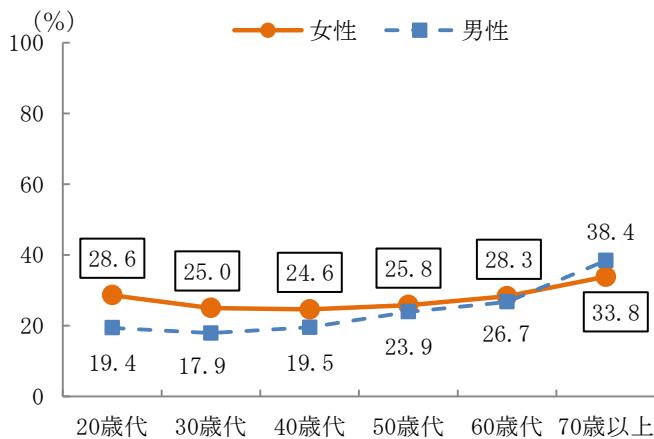
男性では、年代が高いほど高くなり、60歳代はやや低くなるが、70歳以上は43.6%と高く、20歳代と70歳以上では27.5ポイントの差がある。

図 4-31 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応>



男女とも、20歳代で最も低く、特に女性では5.7%と評価はかなり低い。

図 4-32 性別・年代別 男女共同参画の進み具合『前進した』割合
 <市の女性の健康保持に関する支援>



女性では、70歳以上でやや高いが、年代による大きな違いはみられない。
 男性では、年代が高いほど少しずつ高くなる傾向であり、70歳以上では38.4%で、女性の同年代よりも高くなっている。

IV. 共同参画の今、そして未来 ～市民意識調査を読んで～

振り返りますと、「少子高齢化、国際化の進む21世紀において、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は、我が国の最重要の課題」として、男女共同参画社会基本法が衆参両院の全会派一致により成立したのは、平成11（1999）年のことでした。

少し言いにくい法律名でしたが、性別によって差別をしてはいけないという基本（大本）が示されたのです。以来、家庭責任を共に果たそうという次世代育成のための育児・介護休業法や、女性への暴力を許さないDV防止法、ストーカー規制法、さらには児童虐待防止法、高齢者虐待防止法など、弱い立場の人々を守り、豊かな共同参画社会の実現のために法律や条例、施策が整備されてきました。

「共同参画、知っている」男性は74.6%、女性72.2%

それから15年。今回の長岡京市の市民意識調査でとても印象深かったのは、「男女共同参画という言葉を知っていますか」という質問に、男性の74.6%が「知っている」と回答。5年前の調査では59.7%でしたから、実に14.9ポイントの上昇（ちなみに女性の上昇率は10.7ポイントでした）。

同様に、職場での異なった扱いを禁止する「男女雇用機会均等法」の認知度も男性91.0%（女性84.7%）、仕事と家庭の両立を目指す「ワーク・ライフ・バランス」の認知度も、男性65.5%（女性55.3%）となっています。

これらの結果を見て「家ではちっとも協力してくれないのに…」という声が聞こえてきそうですが、やはり職場などで共同参画のための法律や規則の研修が行われ、業務の一環として向き合う機会が増えたからではないでしょうか。

わたしたちは広く社会の中で育てられています。家庭や職場、学校や地域の活動において、新しい法律や施策、世界の動きなどを学んで共同参画の息吹に触れる機会をいっそう広げたいものです。

もうひとつ、広く知ってもらいたい言葉に「クオータ（割り当て）制」というのがあります。共同参画の先進国ノルウェーは、2003年に企業の役員割合を40%以上にするという目標を掲げました（当時は6%）。2006年にこれが法律により義務化され、併せて人材育成のためのトレーニングなども充実されました。結果、企業の女性役員の割合は44%（2010年）に。

韓国、フランスでは、各政党に対して候補者の3割（あるいは半数）を女性に、というクオータ制を義務づけました。日本でも、クオータという言葉が早く当たり前になってほしいものです。

はじめて男性職員が育休、市のホームページにアクセス急増

平成23（2011）年、長岡京市でも初めて、男性職員が育児休業（1年）を取得しました。その育児日記を市のホームページに掲載していきますと、全国から男女共同参画担当のページに約2万5000件近いアクセスがあり、そのおよそ半数が育児日記のえつ覧であったそうです。その後も男性職員の取得者は続き、24年度は2人（6か月、1年取得）、25年度1人（54日取得）となっています。たくさんの経験をして、きっと職場や地域に還元してもらえることでしょう。

育児休業法は平成17（2005）年に改正され、常勤のみならず一定の期間雇用者の取得も可能となったため、従来72.3%であった女性の取得率は89.7%へと、いっきに2割近く上昇しました。多くの女性が、育児休業法の適用拡大を待っていたのです。その結果、それまで低下するいっぽうであった合計特殊出生率が、18年度以降、緩やかながら上昇に転じたのです。

ところで内閣府の調査では、育児休業を取得する人は、23年度で女性87.8%、男性2.6%

です。「育児は女がするもの」といった性別役割分担の意識が、まだまだ強いことがわかります。妊娠・出産を控えた女性に嫌がらせをする「マタニティ・ハラスメント（マタハラ）」といった言葉も聞かれるのが現実です。

でも、子どもは、親はもちろん多くの人たちに守られてこそ健やかに育ちます。地域や社会が次世代のことを気にかけ、男性がごく自然に家事や子育てに参画する欧米流を、ぜひ目指してほしいものです。

同調査では、男性も育児休業を取得するために必要なことは何か、という問いもあります。男性の3割が「育休の制度はあるが、利用しにくい雰囲気がある」と、職場の雰囲気を理由にあげて心理的抵抗感を訴えています。しかし現実はどうであっても、「夫婦のコミュニケーションが十分にあれば乗り越えられる」「労働時間を短くしなければ」という頼もしい答えもありました。

どのような働き方であっても、人生の限られた期間に遭遇するであろう子育てというチャンスを、社会全体が励ます、というのが共同参画のポリシーだと思います。

大震災以後、進む共同参画の意識

平成23（2011）年3月11日の東日本大震災は、甚大な被害をもたらしました。数十万人が避難を余儀なくされる中で、震災と女性、乳幼児や高齢者、障がい者のケアの視点が無かったこと、あるいは被害を極力少なくする防災や町づくりの在り方が、はじめて痛切に問われたのです。

これまで災害などに備える各自治体の防災会議は、首長以下、関連組織や部署のトップが参加するという構成で、女性委員はいませんでした。ところが東日本の被災地では、避難所でのプライバシーの確保、乳幼児や高齢者、障がい者への配慮、トイレや生理用品など性別へのきめ細かい対応など、新たな課題が次々と出てきたのです。

平成24（2012）年、「災害対策基本法」が改正され、各自治体の防災会議に女性を含む多様な主体が参画するように規定されました。全国の府県レベル（6都県を除く）で女性委員が任命され、すべての政令指定都市で平均10%の女性委員が誕生しました（最高は、岡山市の40.8%）。

長岡京市でも、23年度の防災会議委員23人のうち、女性委員はゼロでしたが、24年度には29人のうち女性4人（13.8%）、25年度は同5人（17.2%）となっています。

市内自治会の共同参画も進みました。23年度自治会長57人中、女性2人（3.5%）でしたが、24年度は57人中6人（10.5%）、25年度も同様に推移しています。

女性参画が進むということは、それだけ人材が育ち、豊富であることをうかがわせます。大きな地域力を感じます。

女性の貧困に、どのように応えていくか

このように共同参画が進むいっぽうで、「女性の貧困」という課題が指摘されるようになりました。総務省の労働力調査（25年3月）によると、女性は全雇用者の42.8%を占めて労働分野において不可欠の存在となっていますが、そのうち正規雇用者が1016万人、非正規雇用が1277万人と、非正規の割合が半数を超えています（男性雇用者の正規雇用は8割以上）。

非正規で働く理由は「家計補助のために働く」「正規の求職がなかったから」「自由な時間が出来たから」に大別されますが、ひとつの問題は、結婚や妊娠、出産というきっかけで女性が退職する割合がきわめて大きいということです。

厚生労働省の調査では、結婚によって約3割が退職、さらに第一子出産で3割強、第二子出産でさらに1割と離職が続く、結局、8割以上の女性が職場を離れているというのです。

このように妊娠や出産、育児などによって女性が経済的に不安定、不利益な状況に置かれること

はあつてはなりません。社会的にも大きな損失だと思います。離職した後、パートナーへの経済的あるいは心理的な依存が高まって苦しんだり、離婚という結果になる場合もあります。

母子家庭の全世帯に占める割合は平成2年5.7%、同12年6.4%、同22年7.4%（77万5972世帯）と増加しており、平均年収は252万円。仕事の掛け持ちをして昼夜働きながら、子どもを育てているという報告もあります。貧困家庭に生まれた子どもの人生は、ゼロからではなくマイナスからのスタートという「子どもの貧困」につながっています。

貧困や格差は個々人のがんばりや努力が足りないからと放っておくだけでは、もはや解決できない時代になってしまいました。

GDP（国内総生産）に一喜一憂するのではなく

前回（平成21年）の調査報告の際、ジョージ・オーウェルの『1984年』（早川書房）を紹介しました。あらゆる日常生活がビッグ・ブラザーという独裁者に監視されて委縮してしまった人々は、「戦争は平和だ」という彼のプロパガンダに慣れてしまい、ついには愛や思いやりといった人間らしい感情を失ってしまう。そんな中年男性の物語でした。

奇しくも1984年は、パソコンが登場したころ。そして、およそ30年後の2013（平成25）年、19歳の天才ハッカー、エドワード・スノーデンはCIAが世界の首脳の手元まで盗聴していることを、『暴露（No place to hide）』（新潮社）に紹介しました（今もロシアに亡命中）。

そのアメリカでは、子どもたちのネット視聴時間が週50時間を超えるという調査があります。日本でも、中学生の半数が携帯やスマホで知らない相手と話したと答えています。ネットを介した性犯罪や人身売買に巻き込まれる事件も後を絶ちません。

架空の中に住んで現実を見失うといった高度情報社会のマイナス面を、どのように克服していくかは、ますます重要な課題です。

さて今回は、私の経済学者トマ・ピケティの『21世紀の資本』（みすず書房）を紹介します。過去300年間の欧米の租税資料を分析した結果、「1914年から70年を唯一の例外として、富の蓄積が進み、格差は拡大した」と記しています。唯一の例外とは、第一次世界大戦（1914－1918）、第二次大戦（1939－45）とその後の混乱期を指しており、それ以外は一貫して富の偏在が進み、貧富の差が拡大してきたと明らかに示したのです。

また、「金融資産はGDP（国内総生産）の5－6倍の規模に達している」とも言っています。GDPとは一年間にその国で作られたモノや消費額の総和で、国力の物差しと考えられてきました（日本は500兆円前後）。

ところがピケティは、GDPの外に数倍規模の金融資本の世界があり、そこでは有利な利率を求めてマネーが瞬時に国境を越えていることを示しました。同時に、モノを作ってもそれほど売れない時代になり、工場でなく金融市場で働くという人々も増えていきます。現代は、より高い利率を求めて、マネーも人もせわしく動いているのです。

GDPの推移に一喜一憂していた身としては、著作に多くのことを教えられました。GDPが世界のすべてを現しているのではない、少子高齢化においてGDPを上げていくには限界がある、むしろ、必要なモノやサービスが人々の暮らしに過不足なく届くことが大切なのではないか、と。そして、これって共同参画社会にピッタリの経済理論ではないかと思うのです。

V. 自由意見のまとめ

1. 自由意見の要約

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述の意見内容を要約・分類した。(件数／91件)

(1) 仕事について

すべての仕事を男女平等にするのは難しい	4
仕事と子育ての両立支援は土日が休みを前提にした整備になっているなど制度はあっても取得しにくい	2
男女共同参画社会の実現のためにはまず若い人たちが正規社員として経済的に安定することが重要である	2
女性は家事も仕事も100%担っているケースが多く、就業支援制度の周知と活用できる社会にしていくことが必要である	1
共働き世帯では女性がいつも家事・育児を担っており、高齢の親の助けがないと働けないのが実態である	1
女性が働き続けていくにあたり「女性はもっと家のことをすべき」「息子が家事をさせられている」などといった周りの女性の言動が足を引っ張っている部分がある	1
男女は身体的に違いがありそれぞれに役割はあると思うので、実績に対して正しい評価をすることが最も重要だと思う	1
高学歴志向の受験競争社会が男性を組織内のことはできるが他のことは何もできない人間にしている	1
女は結婚したらこれまでのキャリアは捨てる覚悟が必要であり、家庭と「共同参画」を両立させることは課題が多いと考える	1
管理職はその適性を持つ人物が担うべき仕事であり、女性だから男性だからで選ぶべきではない	1
子どものことで休んだり早退すると「母親だから」「シングルマザーだから」と言う女性のパワハラ上司がおり、仕事を続けにくく精神的に苦痛を感じる	1
少子化、日本人口減少に向け、育児期をすぎれば社会参加(働くという責任ある)するという環境やしきみをつくり、人間として自分に出来る働きをするという教育も大事と考える	1
若い時から働き続けてきたが、女性が働きやすくなってきたと思う	1

(2) 男女の意識について

男性の意識改革が必要である	2
「男が働き、女は家を守る」という家庭で育った女性と共働きを求める男性とでは、経済的な面が結婚の障害になっていると思う	1
日本全体にある男性優位の考え方を女性ももっと意識して変えていくべきである	1
親の世代の考え方を変えることが不可欠である	1
意識や固定概念を変えることが大事で難しい。「男女」というのを意識しすぎずに、個々の能力や希望に合った選択ができるような社会になればいい	1
男女平等を唱えすぎている。1人1人の意識の問題だと思う	1
「男は仕事、女は家庭」という風習はなくなっていないので、既婚者の話を聞いていると結婚してもろくな事はないという気持ちになる	1

知的に理解していることと、無意識に生きている事との間に大きなギャップがある。日本古来の人の行動を見張り、あれこれ言う人々の視野の狭さが変わらない限り難しい	1
---	---

(3) 子育てや暮らしについて

子どもを安心して預けられるよう、待機児童をなくしてほしい	3
安心して生活ができるように年金制度の充実、税金の減額などを検討してほしい	2
女性が働き続けられるよう学童保育など子育て支援を充実してほしい	1
国や地域に助けを求めることができる場の充実等、子どもを産みたいと思っている方々の願いに沿う事が少子化対策の有効な解決策である	1
女性が仕事と家庭を両立できる働きやすい住みやすい長岡京市にしてほしい	1
仕事を重視するあまり子どもへの家庭教育が欠けている。個々の家庭での道德教育が必要ではないかと考える	1
ペットに対する市民権が少ない(ペット OK の賃貸物件が少ない。公園にペットが入れない等)、公園やスポーツ施設などが少ない、市民病院、警察、ハローワーク等がないなど、歴史ばかりを重視し、街の発展があまり見られない	1
アンケートに回答して自分が仕事中心でいかに地域活動から分断されているかということに愕然とした	1
「子どもは母親が見るもの」と思っている男性を見かける。「他人事のように考えている意識や価値観」では、共働きをしていきたいと希望する女性にとっては負担ばかりが増えて、未婚や離婚が増えると思う	1
男女にかかわりなく家事ができることがあたり前の社会をめざしてほしい	1
施設に入所しているので、男女共同参画社会について考えたことがない	1
高齢者夫婦の場合、夫は家事をせず(出来ない)、妻が病にかかったり体力が衰えても何もしない(出来ない)	1
地域社会ではまだまだ男性が優遇されている事が多いので、幼い時からの男女平等教育が必要である	1
家事は女性が中心のほうが家庭はうまくいくと思う	1
女性には女系と男系が必要だと思う	1
女性の働き方、専業主婦によって違うので、話し合って家事等分担したらいいと思う	1
行事に参加する足がない。ハッピーバスの本数を増やすなど外に出る機会をつくってほしい	1
長岡京市はとても住みやすく好きである	1
社会の制度面の充実をすべきである	1
男性も定年後に充実した社会生活が送れるような場所があるとよい。高齢者が孤独にならないような取組を期待している	1
夜間に自主学習できる場所が近くにほしい	1

仕事を持たない子育て世代の女性にやさしい制度をつくってほしい	1
保育所、託児サービスなど子育て支援の環境の向上を希望する	1
安心して老後が過ごせるよう、高齢者や障害者にやさしい社会をつくってほしい	1
「男の子だから」ということで家事をさせない家庭の育て方が間違っている。家庭教育をしっかりとする必要がある	1
校長、教頭等の管理職に女性を登用することは、男女平等教育の推進のためではなく、女性の能力を活かすことが目的であり、本末転倒の考え方である	1
家事とは、教えてもらってすることではなく、必要性を感じて努力すればできることである	1
主夫になって性や年齢で個性が評価されない社会(地域、国)になればもっと生き活きと生きられると感じている。主夫の集いやサロンの情報を教えてほしい	1
結婚して子どもを育てていくことに楽しみや充実感が持てる制度や福祉社会を期待する	1
働きたい人に機会を与えるのは当然だが、家庭を守り、安心して子育てできることができれば子どもを産む人が増えると思う	1

(4) 人権の尊重について

男女平等教育の一方で性を露出する風潮が拡大していることを同時に考えていく必要がある	1
女性専用車両は女だけずるいと言われているが、性被害を相談できずに抱えている人は多い。プライバシーが守られ、相談できる場所がネット以外にもあればよい	1
女性の根拠のない被害者意識で男性が被害を受けることもあり、バランスを取るための対策も必要である	1
力量のある臨床心理士の採用に力を入れてほしい	1
世界からもノーと言われている日本のセックス産業の現状や、議会のヤジや差別発言などを笑っている態度に唖然とする	1
いじめのない社会にしてほしい	1

(5) 男女共同参画の取組について

男女共同参画社会の実現に向けて頑張っている	3
行き過ぎた女性優遇ではなく、本当の意味での男女平等社会を実現してほしい	2
男性だからできる事、女性だからできる事を互いに尊重し合える関係性の構築が重要である	2
力の強い男子と子どもを産む女子、この差はいかんともしがたいが、世の中から力のいることは少なくなっている	1
「男女共同参画」という言葉は、女性が旗を振っているというイメージがあり、男性が参加しにくいのでは?	1
女性大臣や女社長など、女性〇〇と報道されることがなくなるのが理想である	1
男女の特性を認識した上での適正な役割を果たして行く事が真の男女共同参画社会だと思う。適材適所の評価よりも人数により大きな焦点を当てた報道のあり方が続くかぎり、日本の男女共同参画社会の実現は未だしの感を持つ	1

初動のエネルギーは今よりも数倍の力で押し進めないと動き出さない。全員一丸となって動かそうという姿勢が必要である	1
生物学的特性も考慮すべきで、男女平等をはきちがえている。昔の社会の方が幸せそうである	1
女性だからという理由での逆差別には大きな疑問を感じる。男性だから、女性だからという行政の取組が結果として性を意識させる事につながっていると強く思う	1
男女共同参画社会実現のための講習会は意見を押しつけられそうで参加しにくい	1
男女共同参画社会というのがどんなものかわからない	1
中味が大切なのに、言葉、かけ声ばかりが先行している。目に見える社会を実現するには魂を入れる必要がある	1
女性の管理職や閣僚を増やすという運動は間違っている。真の男女共同参画社会を実現するためには、性別ではなく、“個人”の能力や適性、意志を尊重すべきである	1
誰かを責めることなく、お互いを尊重できるような進め方に知恵を出していくことを希望する	1
民意を行政に反映するのであれば、長岡京市議の男女比を同じにすることである	1
「結果の平等」ではなく「機会の平等」を担保することが必要である。男女関係なくやる気や能力のない人まで優遇しないような仕組みにしてほしい	1
女性が弱者の存在である事を念頭に計画を立て、人口が減少するような薄っぺらな男女共同参画社会にならないことを望む	1
女性議員に対する「ヤジ」は男女平等でない考えが根強く残っているということである。安倍首相などが発言している事に「宣誓・誓い」をしてから議員として市職員として取り組むべきである	1
一方的に進めるよりも男性側の意見も踏まえてバランスを取ってほしい	1
法整備が進んでも個人の価値観や固定概念(男は外、女は内。男尊女卑 etc)が変化、改善されなければ男女共同参画は実現できない	1
市がどのような活動をしているのか市民にわかりづらい	1
女の性、男の性がある世。普通に平等にすれば良いことである	1
今回の内閣改造が女性になる事を期待している	1

(6) アンケートについて、その他

質問が難しい、わかりにくい	5
男女共同参画と言いながらアンケートの宛名が〇〇様方〇〇様で来たのが不快、驚いた	4
アンケートの目的をもっと明確にすべきである	3
市職員の対応を改善すべきである	2
色々書きたいことはあるが、どうせ何も変わらないという絶望感でいっぱいである	1
沢山有るようでも思いつく事が直ぐに出て来ない。又の機会にしたいと思う	1

このようなアンケートを取ることが良いのか悪いのかわからない	1
男女共同参画は誘導するものではなく自分の信念にもとづいてやるものだから、求めていく気の有る人の思いにまかせておいたら良いと思う。	1
もう少し若かったらという理想心でアンケートに回答した	1
長岡京市の施策についてあまりにも無知であることを知り反省している	1
アンケートは良い試みだが、問 27 などバイアスのかかった設問や選択肢があり作為を感じる。本当の男女共同参画社会、男女平等実現のために取組が改善されていくことを期待している	1
年齢、育った時代等を考えるともう少し若い方への調査の方が今後の参考になると思う	1
問 15 は質問の必要があるのか疑問を感じる	1
回答が自分の思いと違うところがあり少し勉強になった。引き続き頑張っほしい	1
男女にかかわりなく適正な役割を果たして行くことが真の男女共同参画社会なので、アンケートの設問においてももう一工夫必要と感じる	1

2. 主な自由意見

(1) 仕事について

- ◆女性が出産し職場復帰をし、子どもが熱を出し、止むを得ず早退、休む時に母親だから仕方ない、シングルマザーだから親はあなたしかいないから仕方ないと言う年配の上司もいる。シングルマザーの人が働きやすい職場も必要だと思う。こういうパワハラがよくあると仕事を続けにくく肩身が狭い。女性で子どもを育てた事があるのにこんな言い方は精神的苦痛を味わう事になる。(女性 20 歳代)
- ◆女性の就業支援について法で定まっていますが、会社に制度があっても知られていないことが多いと聞く。周知と活用できる社会にしていけないと男女共同参画社会にはつながらない。女性は家事も仕事も 100%担っているケースが多く、結果、仕事をやめざるを得ない人がいるのが実情。(女性 30 歳代)
- ◆女性が外で働き続けるにあたり、基本的にまだまだ男性社会であることが困難にさせているところがありますが、意外にまわりにいる女性が足をひっぱっている部分があります。実際に上の世代の女性から「私達のころはもっと家のことをしていたのに…女性はずっと家のことをすべき」というようなことを言われたり、まわりでも「息子の嫁が外で仕事をするから息子が家事をさせられている。もっと嫁が家事をすべき」というような女性の発言を聞くことがあります。このあたりの昔からの根深い考え方が変わらないと、まだまだ女性が外で働くのは難しいと感じます。ただ、男女は身体的に違いがあり、全く同じことをすることが良いのではなく、それぞれに役割はあると思う。その役割を果たした時、実績に対して正しい評価をすることが最も重要だと思います(ここに格差がある!)。(女性 40 歳代)
- ◆自営で 38 年間飲食店をやりましたが、もう閉店して 10 年になります。女性が働き易くなって来たと思います。3 人の子供も 50 歳前になり、今はゆっくり過ごして生活していますが、若い時から前向きに働いてきまして今が有ると思っています。(女性 70 歳以上)
- ◆女性管理職を増やすという話があるが、これは逆差別に感じる。管理職はその適性を持つ人物が担うべき仕事であり、女性だから男性だからで選ぶべきではない。(男性 30 歳代)
- ◆男女共同参画社会を実現するためには、先ずは雇用が安定し、正規社員として、経済的に安定することが、若い人達にとって重要な事かと思います。(男性 70 歳以上)

(2) 男女の意識について

- ◆これまでの意識、固定概念を変えることが大事で難しい。「女性の社会進出のために」とは言っても、それを望まない人もいるだろうし、このために単純に女性を優遇することで、男性の反感を買うこともあると思う。「男女」というのを意識しすぎずに、個々の能力や希望に合った選択ができるような社会になればいいと思う。(女性 30 歳代)
- ◆男女平等を唱えすぎているのではないかと!! 1 人 1 人の意識の問題では。(女性 30 歳代)
- ◆日本全体にある男性優位の考え方を、女性ももっと意識して変えていくことを期待します。世界からもノーと言われている日本の現状はとてもはざかしい事です(セックス産業など)。行政、議会等、先頭に立ってほしいと思います。(女性 70 歳以上)
- ◆古い考え方で男性は会社へ行って、女性は家庭を担当するという風習はなくなっていない(考え方の問題だが)。お互いが納得していればよいが、そうでない場合相手への思いやりは生まれない。家庭持ちの人の話を会社で悪口を言うような事もあり、独身者は結婚して

もろくな事はないという気持ちにならざるを得ない。結婚して、子供を育てて行く事にもっと楽しみと充実感が持てるような、又、次世代も引き続いて、同様の考え方が生まれるような制度、福祉社会となるよう期待します。今の子育て世代は将来は見えません!!昔は前衛の考え方であっても家庭、地域、社会は楽しみ充実感あったはず。(男性 30 歳代)

(3) 子育てや暮らしについて

- ◆女性でも働きつづけられるように学童などの充実をしてほしい。働きつづけたくても、むかえにまにあわず、正社員をやめたり、パートに切りかえる女性が長岡京には多い。京都府、大阪府、向日市は働く女性を支えていて保育所並の時間で対応してくれている。長岡京も少しは考えてほしい。本当に困っている。おねがいします。(女性 30 歳代)
- ◆女性の活躍出来る場所があっても、子育てと両立出来る環境が整わないと無意味だと思います。まず、保育所、託児サービスなど子育て支援の環境の向上を強く希望します。(女性 20 歳代)
- ◆3 月に埼玉県でおきたベビーシッターの事件、預けた親もメディア等ではたたかれていましたが、そうせざるを得ないというのが、今の日本の現実ではないでしょうか。例え保育園が充実したとしても、子供が熱を出せば預かってもらえない。その時だけでもとベビーシッターを調べてみると、お給料が飛ぶような値段。日本の大半を占める中小企業では、夫の収入のみでの生活が難しく、子育ての手助けを頼める親がいない女性は、仕事か子供かを選択せざるを得ません。日本にとって少子化対策は必須ですが、子供手当よりもっと土台の部分での女性が求めている事が、政治に反映されていないのではないのでしょうか。子供を求めている国民に数万円のお金を渡す事より、子供を産んでも、一企業だけの責任ではなく、国や地域に助けを求めることが出来る場や不妊治療の保険の充実等、子供を産みたい!!と思っている方々の願いに沿う事こそが少子化対策の有効な解決策になるのではないのでしょうか。(女性 30 歳代)
- ◆待機児童なくして下さい。子どもを安心してあずけることで男女区別なく仕事をはじめとする社会活動への参加がしやすくなるように思います。(女性 30 歳代)
- ◆男性も定年したあとに充実した社会生活が送れるような場所があるといいなと思います。皆が自分が必要とされていると感じられる町になるといいですね。特に高齢者の方が孤独にならないようなとりくみに期待します。(女性 30 歳代)
- ◆働く女性への支援ばかり増え、働かず、子育て、地域を守っている女性に厳しい社会になってきていると思います。子育て世代に優しい制度を作ってほしいです。(女性 30 歳代)
- ◆男女平等に向けて、女性が社会に出る場が多くなる事は賛成するが、今、現在、私が感じます事は、仕事を重視する事により、家庭において子供とのコミュニケーションが、短縮し(考えが古いかもしれませんが)昔の我々のように「道徳」というものが、欠けつつあると感じます。近年、社会状況を見ても注意をする…という事も言えば反対に何をされるか?と思うと見てみないふりをする場合が多々あると思います。仕事も大切である中、我々個々の家庭での道徳教育が必要ではないか?と考える今日です。(女性 60 歳代)
- ◆男性の家事能力のない人が多く、高齢者の多い中で男性の自立の大切を感じる。小さい時からの家事を男子も女子も出来る事があたり前の社会を目指して下さい。(女性 60 歳代)
- ◆30~40 代の女性は、家庭、家事、育児等、男女平等を実行されていますが、仕事はしてなく、専業主婦の方が云われてるように見えます。女性の働き方、専業主婦によって異なり、それぞれ話し合って家事等分担するようにと考えます。少子化、日本人口減少に向け、女

性は育児期をすぎれば、自然に社会参加(働くという責任ある)する。又、研修から続きで仕事に入るといような働きやすい環境、しくみを作る。働かなければいけないというのではなく、人間として自分に出来る働きをするという子供時代からの教育も大事と考えます。

(女性 70 歳以上)

- ◆長岡京市はとても住みやすく好きな所です。がんばって下さい。(男性 30 歳代)
- ◆結婚後、妻は専業主婦でしたので、家庭の方は妻にまかせきりのところがありました。夫婦共稼ぎのこの時代、子供を持つ親が、安心して働けるよう保育園の充実が必要と思う。次男には、子供 3 人いますが、3 人の保育園がバラバラで送り迎えが大変です。行政での調整は出来ないのでしょうか。(男性 60 歳代)
- ◆社会の制度面の充実、男性の意識の向上について教育を含めて前進させるべき。(男性 70 歳以上)

(4) 人権の尊重について

- ◆知的に理解していることと、無意識に生きている事との間に大きなギャップがあるように思います。日本古来の人の行動を見張り、あれこれ言う人々の視野の狭さなどが変わらないと難しいと思います。きちんと相談の出来る臨床心理士(力量のある)の採用などに力を入れてほしい。(女性 50 歳代)
- ◆親の世代の考え方を変えることが不可欠。女性が根拠もなく被害者意識を持つことがあり、そのことで男性が被害を受けることもあり、バランスを取るための対策も必要である。(男性 30 歳代)
- ◆問 18 の 10 項を見て下さい。(本当は 8 の項に○をしたかったが、一方で性を露出したりちぢらつかせる風潮が逆にドンドン拡大している事を同時に考えていなくては?) (男性 70 歳以上)

(5) 男女共同参画の取組について

- ◆男女共同参画社会というのがどんなものかわかりません。(女性 20 歳代)
- ◆「男女平等」というが、母乳をあげられるのは女性だけだし、そのように男と女の性差を大事にしてお互いを尊重できる世の中が理想だと思う。産後もすぐ回復しきってない体にムチ打って、赤ん坊を預けて働くなど、本当に女性のためなのか?と思う。働きたい人には機会を与えるのはもちろんだが、家庭を守り、安心して子育てできる=子供を産む人が増えるだと思う。(女性 30 歳代)
- ◆「男女共同参画」という言葉は、女性が旗を振っているというイメージがあり、男性が参加しにくいのでは?(女性 60 歳代)
- ◆本当の意味での男女平等の社会実現を求める。女性ならではの不利な点を改善する施策はこれまでどおり実施していく。女性ならではの不利な点を改善しすぎたが故に逆に男性が不利になっている点は改善する(女性専用車両など)。(男性 20 歳代)
- ◆安易に平等をめざし、位置付けようとする事自体は反対です。男性だからこそできる事、女性だからこそできる事は、特に問題ではなく、むしろ、お互いにその部分を尊重し合える関係性の構築こそが重要なのではないのでしょうか?(男性 30 歳代)
- ◆過度の女性優遇によって実現されるべきものでは無いと思われます。女性大臣や女社長、女性〇〇と報道されたりする事が自然となくなる事が理想ですね。(男性 30 歳代)
- ◆平等がいいとは思わない。向き不向きがあるから、男女でくるのではなく個人でくるべ

き。男性が区別されているケースもある。平等をはきちがえている。生物学的特性も考慮すべき。昔の社会の方が幸せそう。（男性 40 歳代）

- ◆特に意見はないが、あらゆる機会を通じて社会全体に影響力を持って広報活動を辛抱強く続けられる事が役所としての役割と考えるので、頑張っで欲しいものです。（男性 60 歳代）
- ◆初動のエネルギーは今よりも数倍の力で推し進めないと動き出さないのでは。予算がない、人がいないと言うのではなく、今こそ、君も僕も私もが一緒になって力をあわせて動かそうとする姿勢が要るのではないでしょう。 （男性 70 歳以上）

（6） アンケートについて、その他

- ◆今回のこのアンケートがわかりにくかったです。独身で子供のいない人は○番～○番の間に、既婚者の方は○番～○番の間に…というように、対象を分けて設問してもらえると、答えやすいです。（女性 30 歳代）
- ◆宛名に～様方と書かれているのをひさしぶりに目にしました。男女平等といいながら、どうなんでしょうか。こういうところから意識を変えていかないとダメですね。市役所の方の意識をまず、新たにして下さい。（女性 60 歳代）
- ◆色々書きたいことはあるのですが、どうせ何も変わらないという絶望感で一杯です。男女共同参画といいながらなぜ調査票の封筒の宛名が、世帯主方〇〇子様なのでしょう。住所と名前が正確なら女性名だけで届くのでは？（女性 60 歳代）
- ◆いろんな問が多々あったが、むつかしい質問が多くピンとこない内容もいくつかあった。（女性 70 歳以上）
- ◆わからないことが多いのでアンケートも少し考えてほしい。子どもなどにはわからないので親子向けにしてほしい。もう少しわからない、知らないという欄を増やしてほしい。意味がわからないアンケートはやめてほしい。また考えてほしい。（男性 20 歳代）
- ◆今回の市民意識調査を具体的にいつまでに誰がどう実施して改善していくのかが不明。このような調査は上記点を明確にして下さい。この調査にも市民のお金がつかわれていることを深く考えて頂きたい。（男性 40 歳代）
- ◆長岡京市の施策についてあまりにも無知であることがわかりました。長岡京市民として反省します。（男性 40 歳代）
- ◆回答が自分の思いと少し違うところもあった。この調査で少し勉強になりました。引き続き頑張ってください。（前進のために）（男性 60 歳代）
- ◆何の目的のもののアンケートなのか「計画づくり」と言うだけではわかりません。もう少し、何を調べ、何にむかっていきたいのか、市としての考えを述べて下さい。（男性 60 歳代）
- ◆まず市職員の常識、知識、行動（言動）を変革すること!!（男性 60 歳代）

VI. 調査票

あなたのことについておたずねします。

3. 答えない

6. 70 歳以上

5. 死別した

6. その他（具体的に

7. 子どもはいない

13. その他の無職（年金生活者、失業中など）

3. 配偶者またはパートナーはいない

仕事についておたずねします。

1 ページの問 6 で①②のいずれかに○をされた「仕事をしている」方におたずねします。

問 8 あなたの昨年 1 年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は 1 つ）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 103 万円未満 | 2. 103 万円～200 万円未満 |
| 3. 200 万円～300 万円未満 | 4. 300 万円～400 万円未満 |
| 5. 400 万円～500 万円未満 | 6. 500 万円～700 万円未満 |
| 7. 700 万円～1,000 万円未満 | 8. 1,000 万円以上 |

問 9 直近 1 ヶ月で、1 日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や、家事・育児・介護等を行っている平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。（○はそれぞれ 1 つずつ）

（1）仕事（在宅就労を含む） ※通勤時間を含めた時間でお答えください。

① 平日（○は 1 つ）	② 休日（○は 1 つ）
1. なし	1. なし
2. 4 時間未満	2. 4 時間未満
3. 4 時間～6 時間未満	3. 4 時間～6 時間未満
4. 6 時間～8 時間未満	4. 6 時間～8 時間未満
5. 8 時間～10 時間未満	5. 8 時間～10 時間未満
6. 10 時間～12 時間未満	6. 10 時間～12 時間未満
7. 12 時間以上	7. 12 時間以上

（2）家事・育児・介護等

① 平日（○は 1 つ）	② 休日（○は 1 つ）
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30 分未満	2. 30 分未満
3. 30 分～1 時間未満	3. 30 分～1 時間未満
4. 1 時間～2 時間未満	4. 1 時間～2 時間未満
5. 2 時間～3 時間未満	5. 2 時間～3 時間未満
6. 3 時間～4 時間未満	6. 3 時間～4 時間未満
7. 4 時間～5 時間未満	7. 4 時間～5 時間未満
8. 5 時間以上	8. 5 時間以上

問 10 働くことについて、あなたは今後どうしたいと考えていますか。（○は 1 つ）

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 今の職場で、管理職・役員をめざしたい | |
| 2. 今の職場で、資格を取るなどして専門職として働きたい | |
| 3. 現在と同じ条件、処遇で継続して働きたい | |
| 4. 転職したい | |
| 5. 起業したい | |
| 6. 適当な時期に仕事を辞めたい | |
| 7. その他（具体的に | ） |

全員の方におたずねします。

問 11 あなたは、仕事と家庭との関係についてどう思いますか。①～⑤のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。(○は①～⑤のそれぞれで1つ)

	そう 思う	い ど う え ち ら ば ら そ か う と	い ど え ち ら と も	い ど う え ち ら ば ら そ か う と	い そ う 思 わ な
①職業によっては家庭との両立が無理なものがある	1	2	3	4	5
②仕事と家庭や子育て等を両立できる企業は少ない	1	2	3	4	5
③家庭や子どもを持つと仕事にやりがいがある	1	2	3	4	5
④子どもを産み育てるために会社を一定期間休んだ後、職場に復帰することは難しい	1	2	3	4	5
⑤残業等で配偶者・パートナーと生活時間帯を合わせるのが大変だ	1	2	3	4	5

問 12 あなたは、これまでのお勤めの中で、以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。あるいは、現在取っていますか。(○は①～④のそれぞれで1つ)

	取 っ た こ と が あ る	取 り た か つ た が 、 取 っ た こ と は な い	取 る 希 望 が な く 、 取 っ た こ と は な い	今 ま で 必 要 と な っ た こ と が な い	制 度 が あ る か ど う か わ か ら な い	勤 め た 経 験 が な い
①育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4	5	6
②子の看護休暇（病気等の子どもを看護するための年5日程度の休暇）	1	2	3	4	5	
③介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4	5	
④介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4	5	

問 12 で「取りたかったが、取ったことはない」と答えた方におたずねします。

問 12-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 経済的に苦しくなるから | 2. 職場に休める雰囲気がないから |
| 3. 仕事の評価や昇進に影響するから | 4. 自分の仕事には代わりの人がいないから |
| 5. 一度休むと元の職場に戻れないから | 6. 法制度が整っていなかったから |
| 7. その他（具体的に) | |

全員の方におたずねします。

問 13 近年、起業に関心が高まっています。あなたは、起業についてどのように思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 起業の準備を進めている | 2. いつか起業したいと思っている |
| 3. 起業するつもりはない | 4. すでに起業している |

問 13 で「起業の準備を進めている」「いつか起業したいと思っている」と答えた方におたずねします。

問 13-1 あなたは、起業するにあたってどのような不安がありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 資金調達 | 2. 質の高い人材の確保 |
| 3. 起業に伴う各種手続き | 4. 経営知識の習得 |
| 5. マーケットの情報収集 | 6. 有能な専門家の確保 |
| 7. 事業に必要な専門知識・技術の習得 | |
| 8. その他(具体的に) | |

問 14 生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について伺います。

(1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 「仕事」を優先したい |
| 2. 「家庭生活」を優先したい |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先したい |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 8. わからない |

(2) あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 「仕事」を優先している |
| 2. 「家庭生活」を優先している |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先している |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している |
| 8. わからない |

問 15 あなたは、男女がいきいきと働ける職場をつくるためには、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 育児休業や介護休業の制度を整備・充実する
2. 育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる
3. 在宅勤務やフレックスタイム※など、柔軟な働き方を取り入れる
4. 結婚や出産にかかわらず、働き続けられる職場の雰囲気をつくる
5. 管理職に女性を積極的に登用する
6. 賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
7. 研修や能力開発の機会を充実する
8. 男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する
9. 職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントなどをなくす
10. 事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する
11. 女性や若者、障がい者、高齢者などの雇用機会を拡大する
12. その他（具体的に _____）
13. 特にない
14. わからない

※フレックスタイム=1ヶ月以内の一定期間における総労働時間をあらかじめ定めておき、その枠内で各日の始業及び終業の時刻を自主的に決定し働く制度のこと。労働者がその生活と業務の調和を図りながら、効率的に働くことができ、労働時間を短縮することにつながる、とされている。

子育てや暮らしなどについておたずねします。

問 16 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。（〇は①～⑥のそれぞれで1つ）

	そう 思う	思いど うえち ばら そか うと	いど えち なら い も	思いど わえち なばら いそか うと	いそ う 思 わ な
①男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
②人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけない方がよい	1	2	3	4	5
③女性は、結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい	1	2	3	4	5
④「生涯独身」という生き方があってもよい	1	2	3	4	5
⑤「結婚をしないで、子どもを産み育てる」という生き方があってもよい	1	2	3	4	5
⑥子どもの世話の大部分は男性でも女性でもできる	1	2	3	4	5

問 17 あなたは、子どもにどのような能力を身につけてほしいですか(ほしかったですか)。
※子どものいない方もお答えください。(○は①～⑩のそれぞれで1つ)

	両 方 に	主 に 女 子 に	主 に 男 子 に	と け 特 思 て に わ ほ 身 に い い つ
① 家事能力	1	2	3	4
② 職業能力	1	2	3	4
③ リーダーシップ	1	2	3	4
④ 協調性	1	2	3	4
⑤ やさしさ	1	2	3	4
⑥ たくましさ	1	2	3	4
⑦ 忍耐力	1	2	3	4
⑧ 自立心	1	2	3	4
⑨ 実行力	1	2	3	4
⑩ その他（具体的に）	1	2	3	4

問 18 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取組が重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 性別によってかたよることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする
3. 自分の心と体は大切なものであり、いじめや虐待に対して『ノー』を言う、誰かに相談するなど、小学校の低学年から自分を守る力を育む
4. 男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
5. テレビやインターネットなどからの情報をうのみにせず、読み解いて使いこなす力をつける教育を進める
6. 性的マイノリティ※に対する配慮をする
7. 校長や教頭に女性を増やしていく
8. 教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する
9. 保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓発をする
10. その他（具体的に）
11. 特にない

※性的マイノリティ＝性同一性障害など性別に違和感を感じる人や、恋愛・性愛の対象が同性に向かう同性愛、男女両方に向かう両性愛の人などのこと。

問 19 あなたは、家庭教育の中で男女平等の考え方を育むためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 協力しあって家事などをする
2. 「男はこう、女はこう」というような性別によって役割を決めつける言い方はしない
3. 学校で実践されている男女平等教育に関心を持つ
4. 学校や行政が実施する男女平等に関する学習機会に参加する
5. その他（具体的に _____）
6. 家庭の中の男女平等を進める必要はない

問 20 もし、家族が介護を必要とする状態になった場合、あなたは、どのような方法でその家族の世話をすると思いますか。（○は 1 つ）

1. 自宅で、自分で
2. 自宅で、配偶者・パートナーに任せて
3. 自宅で、ヘルパーなどに任せて
4. 自宅で、配偶者・パートナー以外の家族に任せて
5. 介護施設で
6. その他（具体的に _____）
7. わからない
8. 介護の必要な家族はいない

問 21 あなたは、今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
2. 男性が参加しやすい方法や場づくりをすること
3. 男性のための情報提供を行うこと
4. 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること
5. 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高めること
6. 仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること
7. 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること
8. 事業主や企業に対して、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行うこと
9. その他（具体的に _____）

問 22 心と体の健康を保つために、長岡京市はどのような取組をする必要があると思いますか。（〇はいくつでも）

1. 食生活や健康づくりに関する情報を提供する
2. 安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する
3. 女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する
4. 悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する
5. 暴力の被害者に対するケア体制を充実する
6. リフレッシュできるような場を提供する
7. 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる
8. その他（具体的に
9. 特にな

)

問 23 若い世代で「未婚」「晩婚」が増えています。その理由はどんなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 結婚の必要性を感じていないから
2. 事実婚でよいと思っているから
3. 仕事（または学業）に打ち込みたいから
4. 自分の趣味や娯楽を楽しみたいから
5. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから
6. 結婚相手と出会う機会がないから
7. 相手になりそうな人とうまくつき合えないから
8. 精神的に余裕がないから
9. 一生、結婚するつもりはないと思っているから
10. 経済的に余裕がないから
11. 家族を持つと責任が重くなるから
12. その他（具体的に
13. わからない

)

問 24 大きな地震などの災害時に避難する必要がある場合、あなたが特に心配なことはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

1. 災害についての的確な情報が得られるか
2. 家族との連絡がとれなくなるのではないか
3. 病人・高齢者・障がい者のケアができないのではないか
4. 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか
5. 近所の人たちと助け合って避難できるか
6. 避難場所が安全か
7. ペットと一緒に避難できるか
8. その他（具体的に
9. 特にな

)

問 25 避難所において、みんなが快適に過ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。（○はいくつでも）

1. 避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する
2. 男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置
3. 性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え
4. 備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置
5. 性別に考慮した交流の場の設置
6. 男女をはじめ多様なニーズに配慮した相談体制
7. 女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策
8. その他（具体的に _____ ）
9. 特になし

人権の尊重についておたずねします。

問 26 あなたは、職場や学校、地域などにおいて次のような行為をされたことがありますか。（○は項目ごとにいくつでも）

	職場	学校	地域	その他
① 年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる	1	2	3	4
② 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる	1	2	3	4
③ 身体をじろじろ見られたり、触られたりする	1	2	3	4
④ 宴会などでお酌やデュエットを強要される	1	2	3	4
⑤ 性的なうわさを流される	1	2	3	4
⑥ しつこくつきまとわれる（ストーカー行為）	1	2	3	4
⑦ 上記のような経験はない	1	2	3	4

問 27 あなたが、女性の人権が侵害されていると思うことはどれですか。（○はいくつでも）

1. ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）
2. セクシュアル・ハラスメント
3. テレビ、雑誌、インターネット（携帯電話を含む）などのわいせつな性情報の氾濫
4. 電車内などでのわいせつな性情報の氾濫（つり広告や乗客の読むスポーツ新聞・コミックなど）
5. アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）
6. ストーカー行為
7. 売買春（援助交際を含む）
8. 職場における男女の待遇の違い
9. 男女の役割分担を固定化する考え方
10. 女性の社会進出のための支援制度の不備
11. その他（具体的に _____ ）
12. 特になし

問 28 あなたは、これまでにご自身の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問 28 で「1. ある」と答えた方のみお答えください。

問 28-1 それは下記のどれにあたりますか。(○は3つまで)

1. 「女」あるいは「男」だからという理由で	2. 高齢者だということ
3. 子どもの頃の体験で	4. 障がいがあるということ
5. 外国人ということ	6. インターネットによって
7. 性的指向や性同一性障害に関すること	8. その他 ()

問 28-1 の番号ごとにお答えください。

問 28-2 それはどのようなことですか。(下記の表に問 28-1 の番号ごとに番号を記入)

1. 悪口、かげ口など差別的な言動	2. じろじろ見られる
3. 学校でのいじめ	4. 地域での嫌がらせ
5. 就職や職場での不利な扱いや嫌がらせ	6. セクシュアル・ハラスメント
7. 体罰や虐待(児童虐待やDV、高齢者虐待など)	8. 性犯罪被害
9. アパート等への入居の拒否	10. 結婚問題
11. プライバシーの流出	12. その他 ()

問 28-1 で選んだ番号 (1マスに1つずつ)	どのようなことか (1つの番号ごとにいくつでも)

全員の方におたずねします。

問 29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者(パートナー)や恋人から次のようなことをされたことがありますか。(○は①～⑤で「配偶者やパートナーから」「恋人から」それぞれで1つ)

	配偶者やパートナーから			恋人から		
	何度もあった	1～2度あった	まったくくない	何度もあった	1～2度あった	まったくくない
①身体的な暴力 (なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする等)	1	2	3	4	5	6
②精神的な暴力 (大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等)	1	2	3	4	5	6
③性的な暴力 (性行為を強要する、嫌がっているのにポルノ雑誌やビデオを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要する等)	1	2	3	4	5	6
④経済的な暴力 (生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、相談なく無計画な借金を重ねる等)	1	2	3	4	5	6
⑤社会的な暴力 (外出や親友・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等)	1	2	3	4	5	6

男女共同参画社会についておたずねします。

問 30 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(○は①～⑧のそれぞれで1つ)

	男性が優遇されている	どちらかか男性が優遇されている	平等になっている	どちらかか女性が優遇されている	女性が優遇されている
① 家庭生活では	1	2	3	4	5
② 職場では	1	2	3	4	5
③ 地域では	1	2	3	4	5
④ 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5
⑥ 政治・行政の場では	1	2	3	4	5
⑦ 学校教育の場では	1	2	3	4	5
⑧ 社会全般として	1	2	3	4	5

問 31 あなたは、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(○は①～⑧のそれぞれで1つ)

	よく知っている	少しは知っている	言葉は聞いたことがある	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3	4
② 長岡京市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
④ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
⑤ リプロダクティブ・ヘルス／ライツ （性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3	4
⑥ ジェンダー	1	2	3	4
⑦ 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）	1	2	3	4
⑧ クオータ制	1	2	3	4

問 32 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどう思いますか。（○は1つ）

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対	4. 反対
5. わからない	

問 33 あなたはこの5年間で、以下のことはどの程度進んだと思いますか。
（○は①～⑤のそれぞれで1つ）

	前進した	前進した どちらか といえば	い 5 年前と 変わらな	後退した どちらか といえば	後退した	わからない
①男女平等の考え方	1	2	3	4	5	6
②会社などでの女性管理職の数	1	2	3	4	5	6
③仕事と生活のバランスの実現	1	2	3	4	5	6
④市のセクシュアル・ハラスメントや DVなど女性に対する暴力への対応	1	2	3	4	5	6
⑤市の女性の健康保持に関する支援	1	2	3	4	5	6

問 34 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、**9月20日(土)**までにお近くの郵便ポストにご投函ください。（切手を貼る必要はありません。）

長岡京市男女共同参画社会についての市民意識調査報告書

発 行 長岡京市 企画部 市民協働・男女共同参画政策監

〒617-8501 長岡京市開田一丁目 1 番 1 号

電話 0 7 5 - 9 5 5 - 3 1 6 2

発行年月 平成 2 7 年 3 月